

小郡市
地域福祉に関する市民意識調査
結果報告書

平成 26 年 3 月

小 郡 市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の概要	2
3. 報告書の見方	3
II 調査結果の概要	5
1. 「福祉」について	6
2. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員について	7
3. 地域での生活について	8
4. 地域活動やボランティア活動について	12
5. 福祉サービスについて	14
6. これからの福祉のあり方について	15
III 調査結果	17
1. 調査対象者について	18
2. 「福祉」について	24
3. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員について	34
4. 地域での生活について	42
5. 地域活動やボランティア活動について	84
6. 福祉サービスについて	105
7. これからの福祉のあり方について	115
IV 調査票	129

I 調査の概要

1. 調査の目的

「地域福祉」とは、地域社会でともに暮らす人々が、障害の有無や年齢に関係なく、互いに支え合い、助け合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような地域社会をみんなで築いていく取り組みのことです。人と人とのつながりを基本として、福祉サービスを必要とする人たちの社会参加を促す「ともに支え合う社会づくり」のために、地域福祉の推進が求められています。

法律においても、平成 12 年に「社会福祉事業法」から「社会福祉法」に改正された際に、地域社会のあり方として地域住民同士の互いの支え合い・助け合いによる支援と、公的な福祉サービスの充実を両輪とした「地域福祉の推進」の必要性が第 4 条に明記されました。

「地域福祉計画」とは、地域福祉を推進するための「理念」と「仕組み」についての行動指針となるもので、社会福祉法第 107 条の規定に基づき、「地域での支え合い、助け合いによる福祉（地域福祉）」を推進していくことを目的に策定されるものです。

本調査は、「小郡市地域福祉計画」の策定にあたり、市内にお住まいの方々の福祉観、地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、市民の方々のご意見やご提言を広くお聞きし、同計画に反映していくことを目的に実施しました。

この調査結果は、市民の方々の多くの貴重なご意見、ご提案を集約したものとなっています。「小郡市地域福祉計画」の策定に資することのみならず、市が策定する他の行政計画においても大いに活用していくと同時に、小郡市でのより一層の地域福祉の推進のため、市民の方々にも広く活用していただければ幸いです。

2. 調査の概要

- ・調査地域 : 小郡市全域
- ・調査対象者 : 小郡市在住の満 20 歳以上 2,000 名を無作為抽出
- ・調査期間 : 平成 25 年 10 月 22 日～11 月 7 日
- ・調査方法 : 郵送による配布・回収

配布数 (A)	回収票数 (B)	回収率 $\frac{(B)}{(A)}$
2,000	1,113	55.7%

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- その他回答などで、個人等が特定される可能性のある内容については、若干の修正をして掲載しています。

II 調査結果の概要

1. 「福祉」について

福祉への関心度（問 1：p24）については、「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』人が 75.0%と過半数を占めており、福祉への関心がある人が多くなっています。性別にしてみると、『関心がある』人が男性では 76.8%であるのに対し、女性は 80.7%で、女性の関心度の方が若干高くなっています。年齢別でみると、『関心がある人』が 30 歳代から 70 歳代以上まで大差はなく、約 8 割を占めていますが、20 歳代では 54.5%で、大きな差がみられます。『関心のある人』について、居住地区別にみると大差はありませんが、「とても関心がある」の割合に注目すると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 38.7%で、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 31.8%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の 32.5%に比べ、高い割合となっています。また、どのような福祉分野に関心があるのかの設問では、『関心がある』人の 82.2%が「高齢者に関する福祉」と回答し、「障害のある人に関する福祉」の 39.0%、「子どもに関する福祉」の 36.3%と比べ、大きな差がみられます。

福祉のあり方（問 2：p26）については、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」の割合が 68.5%と、半数以上の人行政と市民が協力すべきと考えています。また、性別、年齢別、居住地区別での回答割合に大きな差はみられませんが、60 歳代では、「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」の割合が 17.3%で、40 歳代での 11.2%等他の年齢に比べ、若干高い割合となっています。

市民が福祉について理解を深めるために必要な機会（問 3：p29）については、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」の割合が 52.7%と最も高く、次いで「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」や「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」の割合が約 4 割となっています。性別でみると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」については差がほとんどありませんが、「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」では男性が 49.2%に対し女性が 45.1%、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」では男性が 40.7%に対し女性が 49.0%で、若干の差がみられます。年齢別でみると、20 歳代から 60 歳代までは、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が最も高い割合となっていますが、70 歳以上では、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」が最も高い割合となっています。居住地区別では特に大きな差がみられません。

2. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員について

社会福祉協議会を知っていますか（問 4：p34）については、「よく知っている」が 14.2% に対し、「知らない」が 30.2%となっています。性別でみると、「知らない」と回答した男性が 35.9%であるのに対し、女性は 27.3%となっています。年齢別でみると、「知らない」と回答した割合は 20 歳代が最も高く 62.2%で、年齢が高くなるとこの割合が低くなり、70 歳以上では 14.4%まで下がります。居住地区別で「知らない」の回答割合をみると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）の 20.8%、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 26.1%に対し、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 39.5%で、高い割合となっています。知っている社会福祉協議会の活動については、「赤い羽共同募金運動」が 55.3%と最も高く、次いで「孤立しがちな高齢者などへの見守り訪問や声かけ等（ふれあいネットワーク活動）」が 50.9%、「福祉バスの運行」が 37.9%となっています。

民生委員・児童委員の制度を知っていますか（問 5：p37）については、「よく知っている」が 23.7%に対し、「知らない」が 16.8%となっています。性別でみると、「知らない」と回答した男性が 22.5%であるのに対し、女性は 13.6%となっています。年齢別でみると、「知らない」と回答した割合は 20 歳代が最も高く 54.4%で、年齢が高くなるとこの割合が低くなり、70 歳以上では 6.8%まで下がります。居住地区別で「知らない」の回答割合をみると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）の 12.1%、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 13.1%に対し、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 23.6%で、高い割合となっています。あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動については、「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」の 74.4%が最も高く、次いで「日常生活についての悩みや心配ごとの相談」が 45.7%、「子どもに関する相談」が 31.5%となっています。

地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか（問 6：p39）については、「よく知っている」が 19.4%に対し、「知らない」が 53.1%となっています。性別でみると、「知らない」と回答した男性が 59.5%であるのに対し、女性は 48.4%となっています。年齢別でみると、「知らない」と回答した割合は 20 歳代が最も高く 83.3%で、年齢が高くなるとこの割合が低くなり、70 歳以上では 20.8%まで下がります。居住地区別で「知らない」の回答割合をみると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）の 32.9%で最も低く、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では 46.2%、さらに三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 68.4%で、高い割合となっています。

3. 地域での生活について

地域との関わりについて、最も基本となる現在住んでいるところに住み続けたいと思うか（問 7：p42）については、「住み続けたい」で 69.4%と、半数以上の人住み続けたいと回答しています。性別では回答割合にほとんど差がありません。年齢別で「住み続けたい」の回答割合をみると、20 歳代が 38.9%で最も低く、年齢が高くなるほどこの割合は高くなり、70 歳以上では 83.7%に達します。居住地区別でみると、「住み続けたい」の回答割合が、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）で 72.3%、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）で 69.9%であるのに対し、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 66.5%で、若干低くなります。また、住み続けたい理由については、「自分の土地や家があるから」が 81.1%で最も高く、以下「買い物や交通の便がよいから」、「近くに友人、知人がいるから」、「近くに家族、親族がいるから」が続きます。住み続けたくない理由については、「買い物や交通の便が悪いから」が 40.9%で最も高く、以下「楽しめる場所がないから」、「地域の慣習・文化になじめないから」、「近所づきあいが良くないから」が続きます。

近所の人とのつきあいの状況（問 8：p46）については、「たまに立ち話をする程度」が 34.1%で最も高くなっています。一方、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が 28.6%、「つきあいがほとんどない」が 3.5%で、これらを『近所づきあいがほとんどない』人と考えると、その割合は 32.1%となります。性別でみると、『近所づきあいがほとんどない』男性の割合が 40.7%であるに対し、女性は 26.2%で大きな差があります。『近所づきあいがほとんどない』人について年齢別でみると、20 歳代では 61.1%であるのに対し、年齢が高くなるとこの割合が下がり、70 歳以上では、17.9%となっています。『近所づきあいがほとんどない』人について居住地区別でみると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）が最も低く 21.9%で、以下、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 31.1%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の 37.1%が続きます。また、その理由については、「かわる機会や時間がないから」が 37.5%で最も高く、以下「特に必要を感じないから」の 15.4%、「あまり知らないから」の 14.8%が続きます。

毎日の暮らしのなかでの困りごととはどのようなことですか（問 9：p49）については、「特にない」が 47.6%で、次に高い「買い物や通院などの外出が不便」の 11.8%と比べても、大きな割合となっています。性別でみると、「特にない」の男性の回答割合が 53.1%に対し、女性は 45.0%と低くなりますが、全体的には大きな差がありません。年齢別でも同様ですが、70 歳以上では「特にない」の割合が他の年齢に比べ低くなり、逆に「買い物や通院などの外出が不便」、「力仕事（家具の移動など）ができない」、「家事労働（炊事、洗濯など）がきつい」、「庭・畑仕事（草取りなど）ができない」、「機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない」、「話し相手、遊び相手が少ない」については、他の年齢に比べ高い割合となっています。居住地区別でみると、どの地区でも「特にない」が大きな割合となっ

ていますが、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では、「買い物や通院などの外出が不便」の回答割合が 26.6%となっており、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 6.3%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の 11.6%に比べ、高くなっています。

必要な支援を受けることができず、地域から孤立し、生活上の困難を抱えている人たちの存在の認知度（問 10：p54）については、地域にそのような人たちがいることを「知らない」と回答した人が 78.6%を占めています。この認知度については性別での差はほとんどみられません。年齢別でみると、30 歳代が 89.9%で最も高く、70 歳以上が最も低く 68.2%となっています。居住地区別でみると、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）で 71.7%の人が「知らない」と回答しており、以下、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の 76.3%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の 84.6%の順で、その割合が高くなっています。

困りごとを抱える人たちからの求めへの対応（問 11：p56）については、「できるだけ対応したい」の割合が最も高く 62.1%を占め、次に「対応したいができれば避けたい」が 16.3%となっています。性別でみると、「できるだけ対応したい」について、男性が 63.4%に対し、女性は 61.4%となっています。年齢別では、「対応したいができれば避けたい」について、30 歳代で 26.4%を占めるに対し、60 歳代で 10.2%、70 歳以上で 11.0%となっており、差がみられます。居住地区別では、「対応したいができれば避けたい」について、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 11.0%を占めているのに対し、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）で 16.9%、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）で 18.1%となっています。また、「対応したいができれば避けたい」もしくは「かかわりたくないので何もしない」と回答した人が、そのように考える理由については、「対応の方法がわからず不安だから」が 32.8%で最も高い割合を占め、「対応したいが忙しいから」の 28.9%が続きます。

家族に助けが必要になった時、してほしい支援（問 12：p60）については、「災害時の手助け」が 46.2%で最も高く、「安否確認の声かけ」の 43.8%、「介護を必要とする人の短時間の預かり」の 28.5%が続きます。性別でみると、希望する支援の順位に違いはありませんが、「介護を必要とする人の短時間の預かり」について、男性の 20.2%に対し、女性は 34.6%となり、大きな差がみられます。年齢別でみると、70 歳以上では、「安否確認の声かけ」が 45.1%となり、「災害時の手助け」の 36.0%を上回っています。居住地区別では、希望する支援の順位にほとんど違いがありません

地域での人と人とのかかわりについての考え方（問 13：p64）については、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」の 53.7%が最も高い割合を占め、「地域を良くする活動をみんなで協力し合っていきたい」の 21.1%が続いています。性別でみると、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」では、男性の 46.2%に対し、女性は 58.3%で、女性の方が高い割合となっています。一方、「地域を良くする活動をみんなで協力し合っていきたい」については、男性の 28.0%に対し、女性は 16.9%で、男性の方が高い割合となっています。年齢別では、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」について、70 歳以上が 61.0%で

あるのに対し、最も低い割合である 50 歳代では 44.9%となっています。「地域を良くする活動をみんなで協力し合っていきたい」については、逆に 70 歳以上の 13.3%が最も低く、50 歳代の 29.8%が最も高い割合となっています。居住地区別では、特に大きな差はみられません。

災害発生時に気になる人の認知度（問 14：p67）については、「知らない」と回答した割合が 38.1%を占めていました。性別でみると、「知らない」の回答割合は男性が 39.3%、女性が 37.0%で大きな差はありません。年齢別では、20 歳代では「知らない」の回答割合が 58.9%であるのに対し、年齢が高くなるとその割合が下がり、70 歳以上では 25.4%となっています。居住地区別では、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）で「知らない」と回答した人の割合が 26.0%であるのに対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では 35.7%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 46.5%となっています。

地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか（問 15：p70）については、「自分や同居する家族の非難方法の確認」が 72.6%と最も高く、「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」の 55.4%が続きます。性別では、「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」について、男性の 51.7%に対し、女性は 59.3%で違いがみられます。年齢別でみると、60 歳代や 70 歳以上ではこれらの回答割合が他の年齢に比べ低くなっています。居住地区別では、特に大きな違いはありません。

高齢者や子どもや障害のある人への虐待（問 16、問 17、問 18：p74）については、9 割以上の人々が「聞いたことがない」と回答しています。

虐待が発生していると思われる時の最初の対応（問 19：p75）については、「警察へ通報する」の 25.4%が最も高く、以下、「民生委員・児童委員に連絡する」の 20.5%、「市役所へ連絡する」の 17.4%、「近隣の人に連絡する」の 15.3%が続きます。性別でみると、「警察へ連絡する」について、男性の 30.6%に対し、女性は 21.8%、「近隣の人に連絡する」について、男性の 10.1%に対し、女性は 19.8%となっており、大きな差があります。年齢別にみても「警察へ連絡する」が高い割合となっていますが、20 歳代の 40.0%や 30 歳代の 32.2%に対し、年齢が高くなるとその割合は下がり、70 歳以上では 15.5%となっています。逆に、50 歳代以上の人たちは、それより若い年齢層に比べ、「自治会（行政区）役員に連絡する」や「民生委員・児童委員に連絡する」の回答割合が高くなっています。特に 70 歳以上では、「自治会（行政区）役員に連絡する」が 15.9%で、「警察へ連絡する」をわずかに上回っています。居住地区別でみると、「警察へ連絡する」については、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）で 29.2%であるのに対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では 24.0%、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 21.4%で、差がみられます。逆に、「民生委員・児童委員に連絡する」については、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）での 15.7%に対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では 22.9%、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 24.3%となっています。特に立石・御原・味坂小学校区（C 地区）

については、「民生委員・児童委員に連絡する」が、「警察へ連絡する」を上回っています。

身近なところで困っている人がいた場合、あなた自身ができる支援（問 20：p79）については、「安否確認の声かけ」が68.1%で最も高い割合で、次いで「災害時の手助け」の41.2%、以下、「買い物の手伝い」、「心配ごとなどの相談相手」が続きます。一方、先に示した家族に助けが必要になった時、してほしい支援（問 12：p62）では、「災害時の手助け」や「安否確認の声かけ」が大きな割合となっていました。『やれること』と『求めること』がおおむね合致しているといえます。「心配ごとなどの相談相手」も同様です。ただし、『求めること』で比較的高い割合であった「介護を必要とする人の短時間の預かり」（28.5%）や「急病になった時の看病」（22.9%）については、『やれること』での回答割合は大変低く、前者が3.9%、後者が7.4%となっています。性別で比べてみると、「安否確認の声かけ」については、男性が65.1%、女性が70.3%で大きな差がないのに対し、「災害時の手助け」については、男性が52.4%、女性が32.1%で大きな差がみられます。女性については、「買い物の手伝い」や「家事の手伝い」などが、男性よりも高い回答割合になっています。年齢別では、「災害時の手助け」について、70歳以上では26.5%で、他の年齢で4割以上となっていることに比べると低い割合となっています。居住地区別では、大きな違いがみられません。

4. 地域活動やボランティア活動について

地域活動への参加（問 21：p84）については、「現在活動している」が 19.7%、「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が 35.6%となっています。一方、「活動したことがない」と回答した人の割合は 40.3%を占めています。性別でみると、「活動したことがない」について、男性が 48.5%であるのに対し、女性は 34.7%で、大きな差がみられます。年齢別では、「活動したことがない」について、20 歳代では 66.7%、30 歳代では 60.5%を占めるのに対し、40 歳代で 37.1%、50 歳代では 27.5%となっています。居住地区別では、「活動したことがない」について、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）の 31.8%に対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）で 41.8%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）で 41.9%となっており、大きな差がみられます。また、「現在地域活動している」人が行っている活動については、「自治会（行政区）の活動」が 40.2%で最も高くなっています。地域活動している人の目的については、「地域での支え合い」が 33.8%で最も高くなっていますが、「役回りなどで仕方なく」の 27.9%がこれに続いています。逆に現在地域活動を行っていない理由については、「勤務などの都合で機会がない」の 34.2%が最も高く、次いで「時間がない」の 23.4%、以下、「役が回ってこない」の 16.4%、「体調がすぐれない」の 14.7%が続いています。

地域活動以外に、個人的にボランティアに参加したことがあるか（問 22：p89）については、「現在参加している」が 5.8%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が 22.5%で、ボランティアの参加経験がある人の割合は、28.3%となっています。さらに、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」と考えている人の割合は、30.5%となっています。「まったく参加したことはないが、今後参加したい」について、性別にみると、差がほとんどありません。年齢別では、20 歳代の 22.2%や 70 歳以上の 14.4%に対し、30 歳代から 60 歳代では、3 割を超えています。居住地区別でみると、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では 32.8%であるのに対し、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 26.0%と低く、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では 28.5%となっています。また、ボランティア活動に参加した人が参加した活動については、「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が 37.9%で最も高く、「地域づくりに関する活動」の 30.9%が続いています。ボランティア活動に参加してよかった点については、「新しい経験ができた」の 47.8%が最も高く、「多くの人と知り合いになれた」の 45.5%が続いています。よりよい活動を進める上で改善が求められていることについては、「活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない」の 35.0%が最も高く、「参加者がなかなか集まらない」の 30.6%が続いています。

今後、福祉に関わる地域活動やボランティア活動への参加意向（問 23：p95）については、「参加したくない」と考える人の割合が 31.3%で、最も高くなっているものの、27.0%

が「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など）」、次いで 19.6% が「健康づくり（公民館での健康運動教室等の運営協力など）」に参加したいと回答しています。性別でみると、「参加したくない」と考える男性の割合は 31.0%、女性は 32.6% で大きな差はありませんが、参加したいと考えている人のうち、男性では「防災・防犯（地域防災・防犯活動など）」の 27.4%が、女性では「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など）」の 27.9%が最も高い割合となっています。年齢別にみると、30 歳代では、「参加したくない」よりも「児童福祉・子育て支援（子育て相談や子育てサークル支援など）」の方が、また、50 歳代、60 歳代でも「参加したくない」よりも「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問など）」の方が高い割合となっています。居住地区別では、大きな違いがみられません。また、参加をしたくない理由については、「時間的に余裕がないから」の 45.1%が最も高く、「高齢や健康上の理由等で無理だから」の 32.2%が続いています。

地域における支え合い、助け合い活動を活発化するために重要なこと（問 24：p100）については、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと PR する」の 29.1%が最も高く、次いで「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」の 28.7%、以下、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する」の 24.5%、「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」の 24.4%が続いています。性別でみると、男性では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと PR する」の 35.9%（女性は 24.7%）が最も高い割合になっているのに対し、女性では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」の 32.1%（男性は 23.7%）が最も高い割合となっています。年齢別にみると、20 歳代、40 歳代、50 歳代では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」の割合が、30 歳代では「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」が、70 歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと PR する」の割合が最も高くなっています。居住地区別でみると、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）と立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと PR する」が最も高い割合になっているのに対し、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が最も高い割合になっています。

5. 福祉サービスについて

福祉サービスに関する情報の入手先（問 25：p105）については、「広報おごおり」が56.2%で最も高く、次いで「自治会（行政区）の回覧板」の30.3%、以下、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」の21.7%、「社会福祉協議会だより」の20.0%が続いています。

生活上の困りごとを抱えたときや、「福祉サービス」の利用が必要になった時の相談先（問 26：p106）については、「市役所等の相談窓口」が64.9%で最も高く、次いで「家族や親戚」の41.2%、以下、「友人・知人」の26.1%、「市社会福祉協議会の窓口」の20.8%、「病院や施設」の19.3%が続いています。性別でみると、「市役所等の相談窓口」については違いがほとんどありませんが、「家族や親戚」や「友人・知人」では男性よりも女性の方が、逆に「病院や施設」では男性の方が女性よりも回答割合が高くなっています。年齢別にみると、全体的にはその回答割合が小さいものの、「市社会福祉協議会の相談窓口」や「民生委員・児童委員」、「自治会（行政区）の役員」については、年齢が上がるほど、割合が高くなっています。居住地区別でみると、「市役所等の相談窓口」について、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）の68.8%が最も高く、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の64.6%、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では57.2%で、若干割合が下がっています。一方、「家族や親戚」については、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）の回答割合が、また、「友人・知人」については、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）の回答割合が、それぞれ、他の地区に比べ若干高くなっています。「民生委員・児童委員」については、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）で22.5%の回答割合となっているのに対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）では14.8%、三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）では10.4%となっています。

福祉サービスの利用に際して不都合を感じたり、不満を思ったりしたことがあるか（問 27：p110）については、「ある」と回答した人が14.3%となっています。また、不都合を感じたり、不満に思ったりしたことについては、「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」の45.9%が最も高く、「利用手続きがわずらわしかった」の38.4%、「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」の34.0%が続いています。

福祉サービス利用者が安心して福祉サービスを利用するために市が取り組む必要があること（問 28：p111）については、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」の66.9%が最も高い割合で、「福祉サービスの選択についての相談対応を充実する」の41.7%、「行政や福祉サービス事業者の情報公開を進める」の30.8%が続いています。性別での大きな違いはありません。年齢別でも特に大きな違いはありませんが、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」の回答割合は、20 歳代から 50 歳代までの方が 60 歳代、70 歳以上に比べ高くなっています。居住地区別でも特に大きな違いはありません。

6. これからの福祉のあり方について

子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために重要なこと（問 29：p115）については、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」の割合が 35.9%と最も高く、「保育所の費用や教育にかかる費用の減額」の 27.0%、「男女ともに家事・育児に参加する意識づくり」の 26.0%、「保育サービスのメニュー（乳児保育、一時保育、延長保育など）の充実」の 25.9%が続いています。

高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために重要なこと（問 30：p117）については、「在宅福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」の割合が 34.4%と最も高く、「健康づくりや医療体制の充実」の 34.1%、「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」の 32.2%が続いています。

障害のある人たちが住みやすいまちをつくるために重要なこと（問 31：p118）については、「職業訓練や働く場の充実」の割合が 41.8%と最も高く、「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」の 37.8%、「障害のある人に対する理解の促進」の 31.4%が続いています。

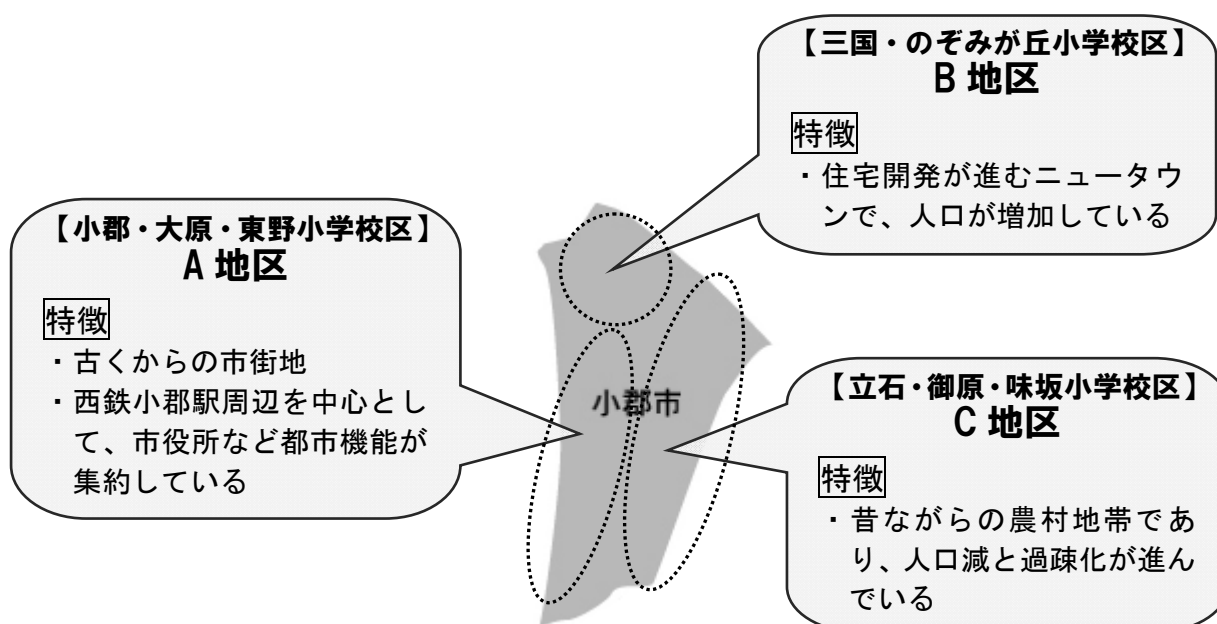
地域で健康づくりを進めていくために重要なこと（問 32：p119）については、「運動やレクリエーション施設の整備」の割合が 37.3%と最も高く、「地域ぐるみの健康づくり運動の推進」の 32.5%、「健康診断についての周知」の 31.8%、「こころや体の健康について、気軽に相談できる取り組みの充実」の 31.4%が続いています。

市民が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためのあり方で大切なこと（問 33：p121）については、「在宅福祉サービスの充実」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」の 26.7%となっています。以下、「施設サービスの充実」の 24.5%、「福祉に関する情報提供の充実」の 21.7%、「手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実」の 19.0%が続いています。性別では特に大きな違いはありませんが、「在宅福祉サービスの充実」や「手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実」については男性よりも女性の方が、逆に「施設サービスの充実」については女性よりも男性の方が、若干高い割合になっています。年齢別でみると、「在宅福祉サービスの充実」については若年者層よりも高齢者層の方が、逆に「手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実」については高齢者層よりも若年者層の方が高い割合になっています。居住地区別でみると、「在宅福祉サービスの充実」について、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）での 37.6%に対し、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）と三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）は同じ割合で 29.4%となっています。逆に「施設サービスの充実」については、立石・御原・味坂小学校区（C 地区）では 18.5%で、小郡・大原・東野小学校区（A 地区）や三国・のぞみが丘小学校区（B 地区）よりも 7.3%以上低い割合となっています。

安心して地域のなかで暮らしていくためにできること（問34：p125）については、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」の割合が49.9%で最も高く、次いで「地域活動に積極的に参加する」が16.1%となっています。性別でみると、「地域活動に積極的に参加する」について、男性の20.0%に対し、女性は14.0%となっています。年齢別でみると、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」について、20歳代と50歳代では5割を超えていますが、他の年齢では4割台となっています。逆に20歳代では「地域活動に積極的に参加する」の割合が7.8%であるのに対し、60歳代では23.1%、70歳以上では19.3%となっています。30歳代と40歳代では「学校での行事など、家族に関係ある範囲内の活動には参加する」が2割を超えており、50歳代以上での数%と比べ大きな差となっています。居住区別で見ると、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」について、三国・のぞみが丘小学校区（B地区）の54.7%に対し、小郡・大原・東野小学校区（A地区）で47.7%、立石・御原・味坂小学校区（C地区）で41.0%となっています。逆に、三国・のぞみが丘小学校区（B地区）では「地域活動に積極的に参加する」の割合が12.3%で、小郡・大原・東野小学校区（A地区）の18.7%、立石・御原・味坂小学校区（C地区）の21.4%に比べ、低くなっています。

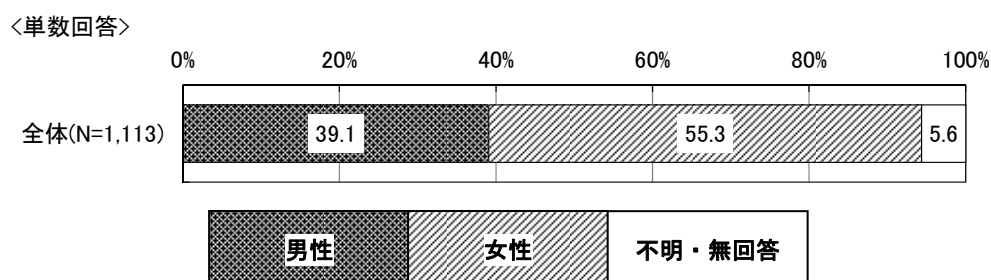
Ⅲ 調査結果

＊居住地区別の分析については、8つの小学校区を下図のように、地域の特徴を考慮し、A地区からC地区の3つの地区に分類してクロス集計を行った。

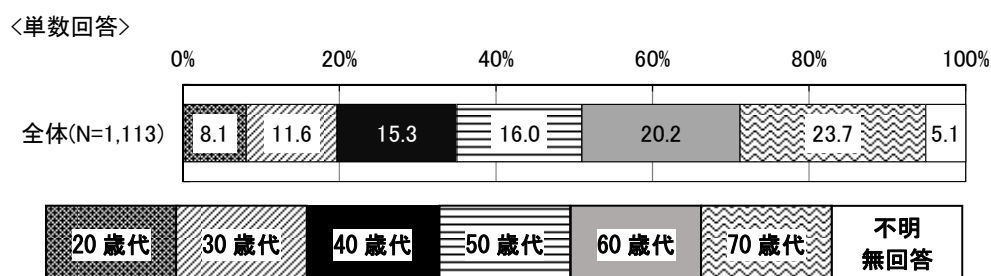


1. 調査対象者について

○ あなたの性別は？（ひとつだけ○）

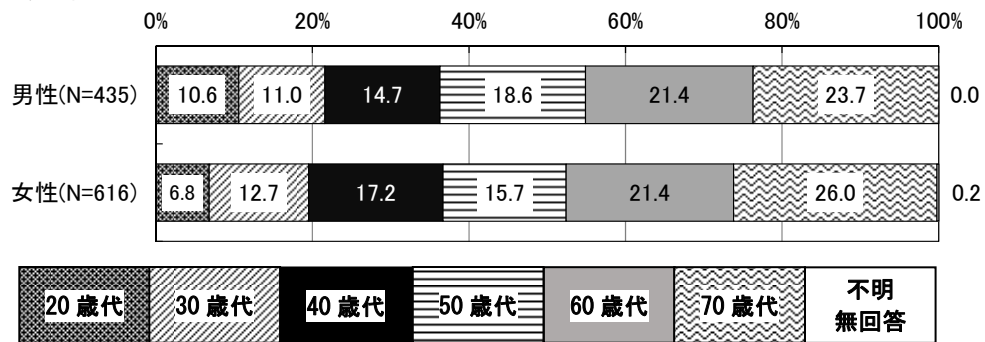


○ あなたの年齢は、何歳ですか。（ひとつだけ○）



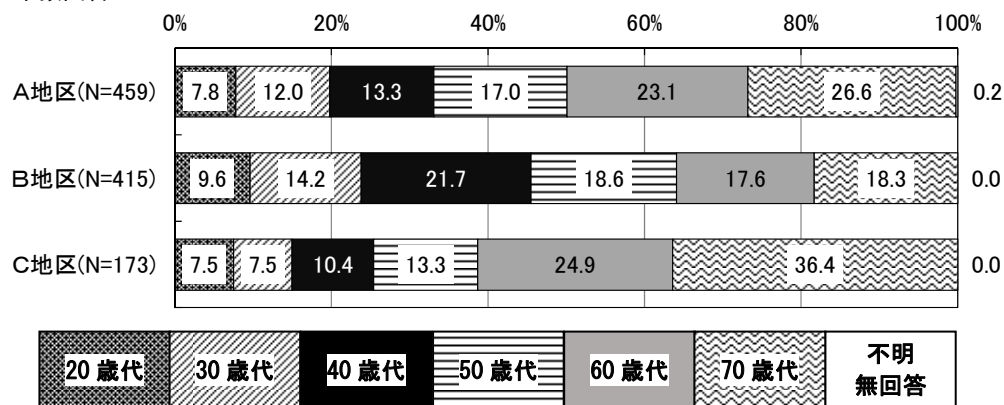
【性別グラフ】

＜単数回答＞



【居住地区別グラフ】

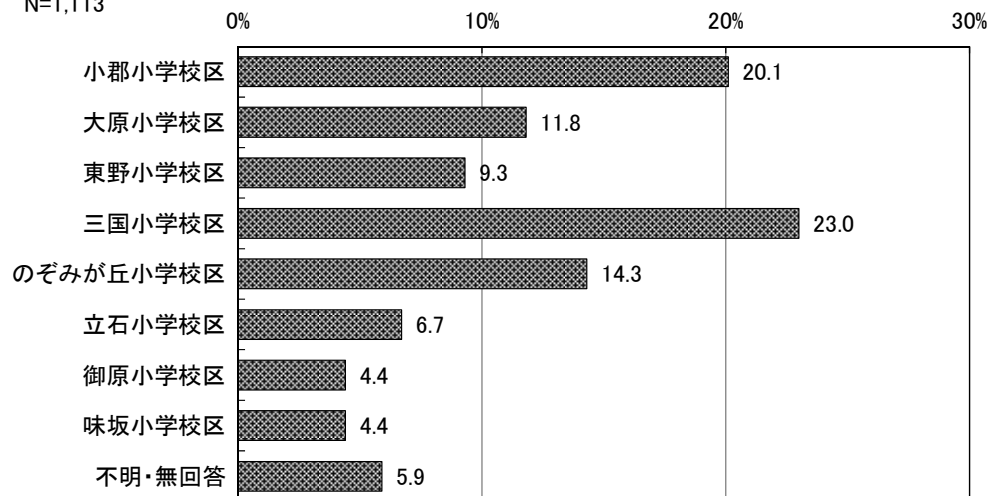
＜単数回答＞



○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。(ひとつだけ○)

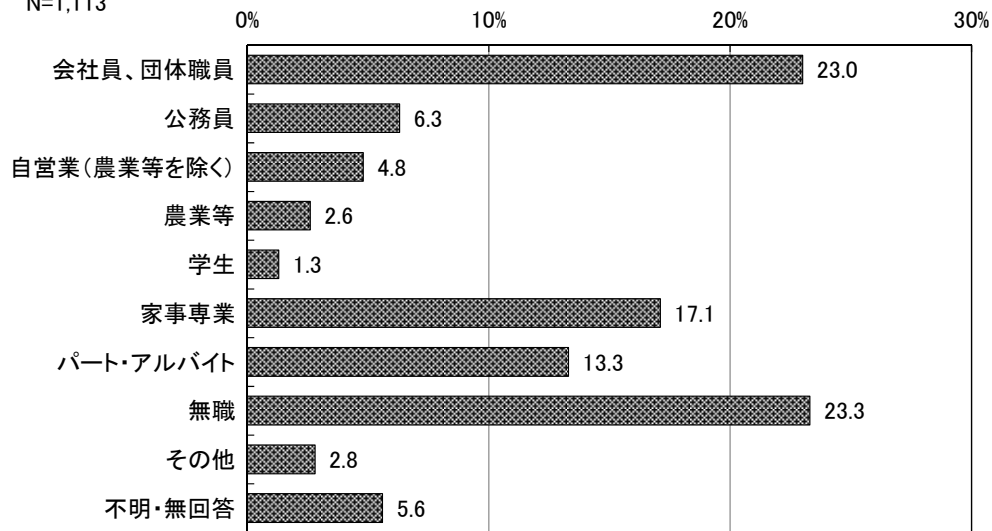
＜単数回答＞

N=1,113



○ あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ○)

＜単数回答＞
N=1,113

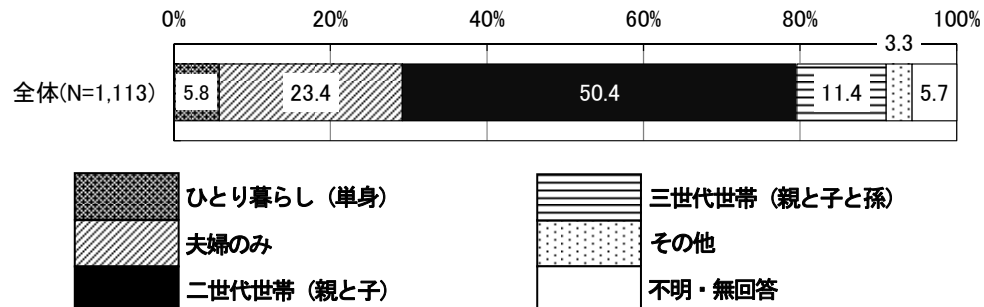


その他回答

- ・ 看護師
- ・ 家事とサークル指導
- ・ 医療機関
- ・ 契約社員
- ・ 介護職
- ・ 保育士
- ・ 家事や畑仕事
- ・ シルバー人材センター
- ・ 自家用の畑と家事
- ・ 病院職員
- ・ 予備校生
- ・ 要介護
- ・ 教育職
- ・ 議員

○ あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

＜単数回答＞

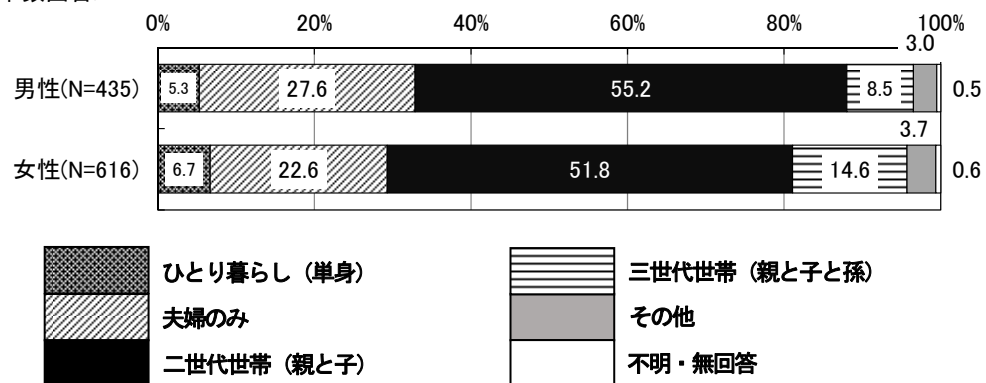


【その他回答】

- 4世代世帯
- 兄の嫁と二人暮らし
- 夫婦と未婚の長男
- 夫婦と未婚の子
- 夫婦と妻の母
- 兄弟のみ
- 妻と子
- 別居中
- 夫婦と親
- 親と息子夫婦と子
- 夫婦と子ども一人
- 親と兄家族
- 夫婦と孫
- 娘と二人
- 弟、甥
- 同居

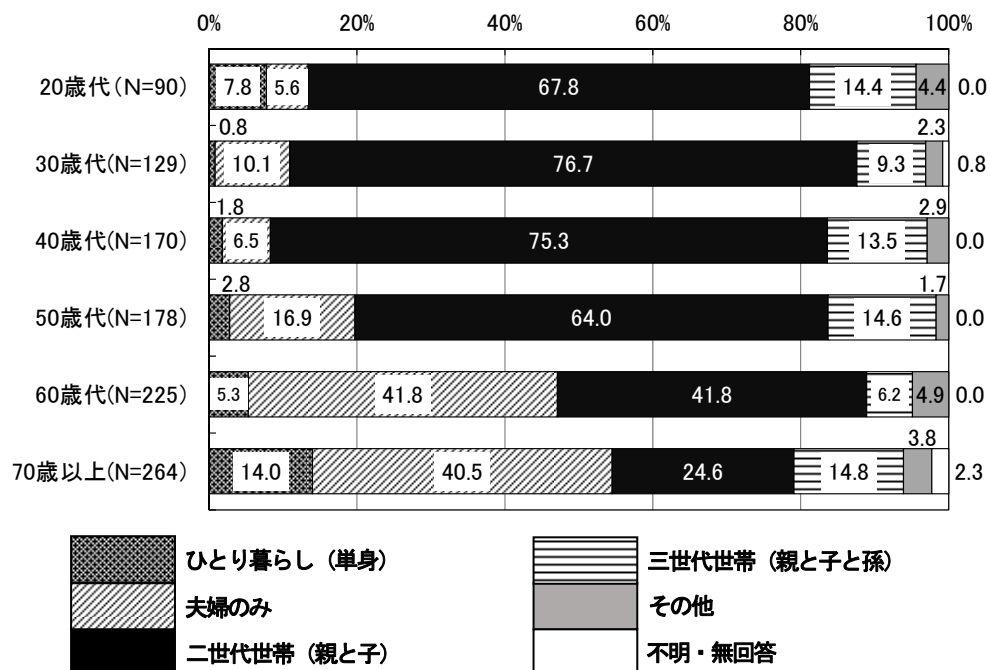
【性別グラフ】

＜単数回答＞



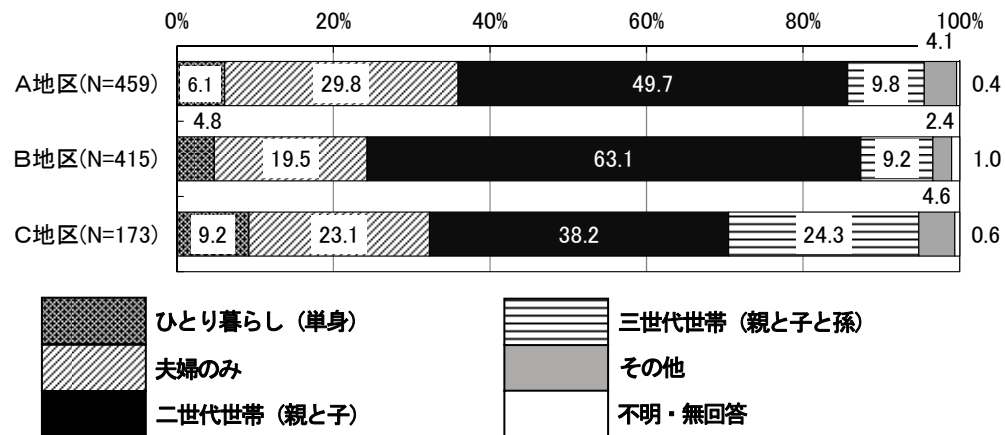
【年齢別グラフ】

＜単数回答＞



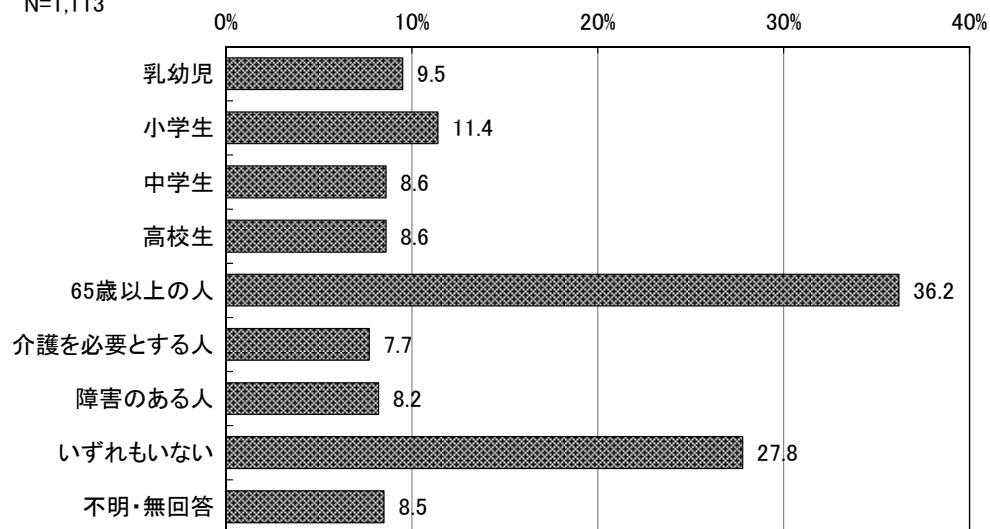
【居住地区別グラフ】

＜単数回答＞



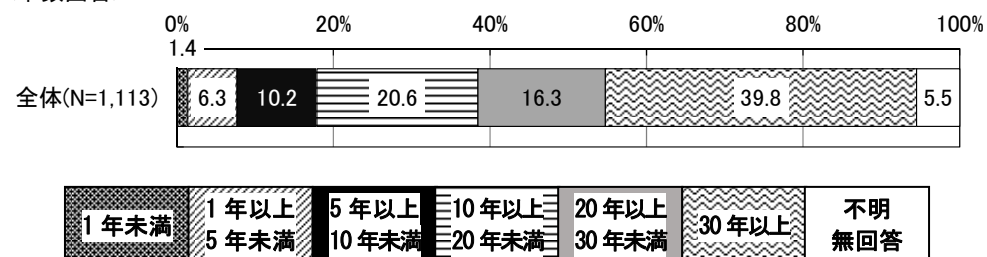
- あなたが現在一緒に住んでいるご家族のなかに、つぎのような人（あなた自身も含みます）はいますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞
N=1,113



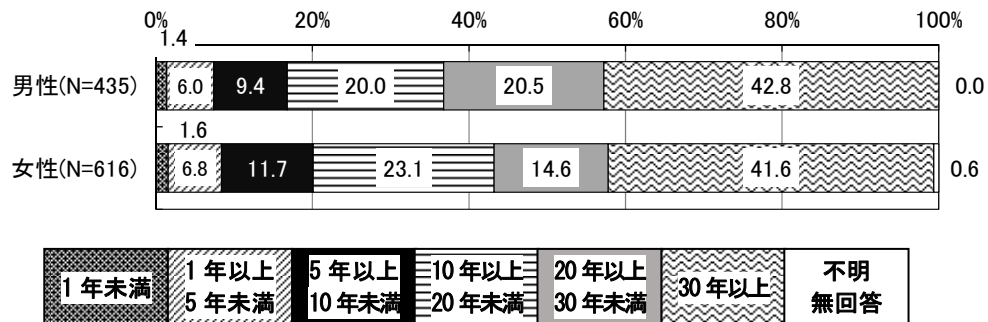
- あなたは小郡市に住んで何年になりますか。（ひとつだけ○）

＜単数回答＞



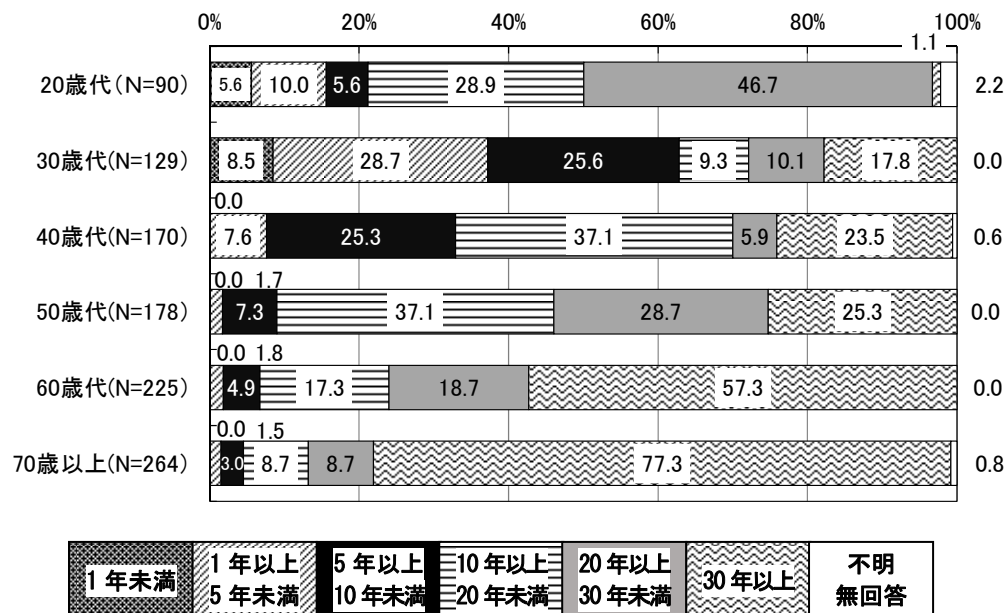
【性別グラフ】

＜単数回答＞



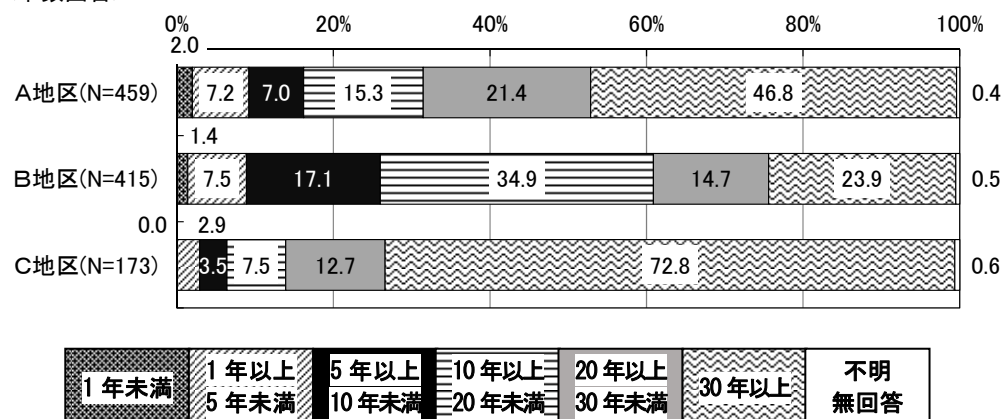
【年齢別グラフ】

＜単数回答＞



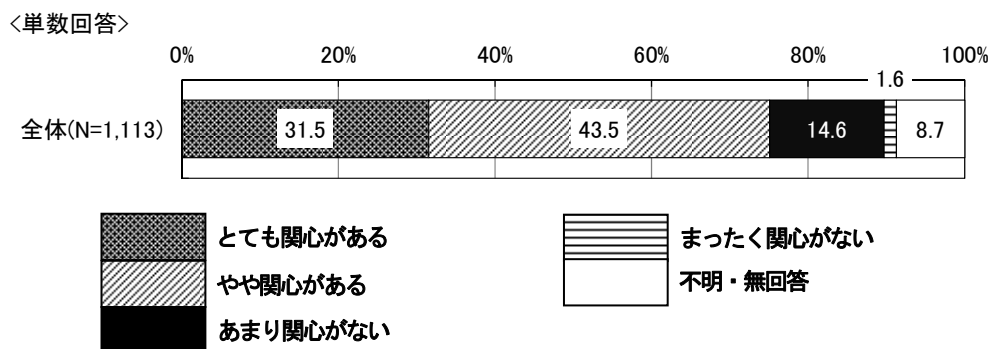
【居住地区別グラフ】

＜単数回答＞



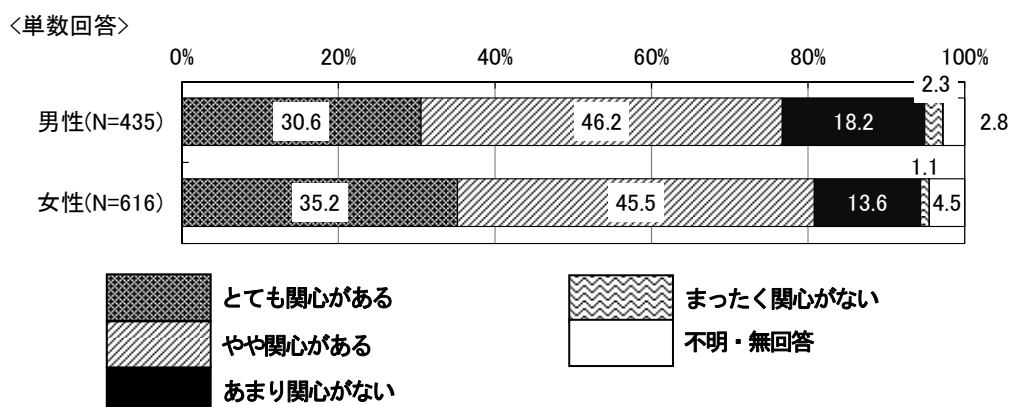
2. 「福祉」について

問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)



「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』人が75.0%と過半数を占めています。また、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた『関心がない』人が16.2%となっています。

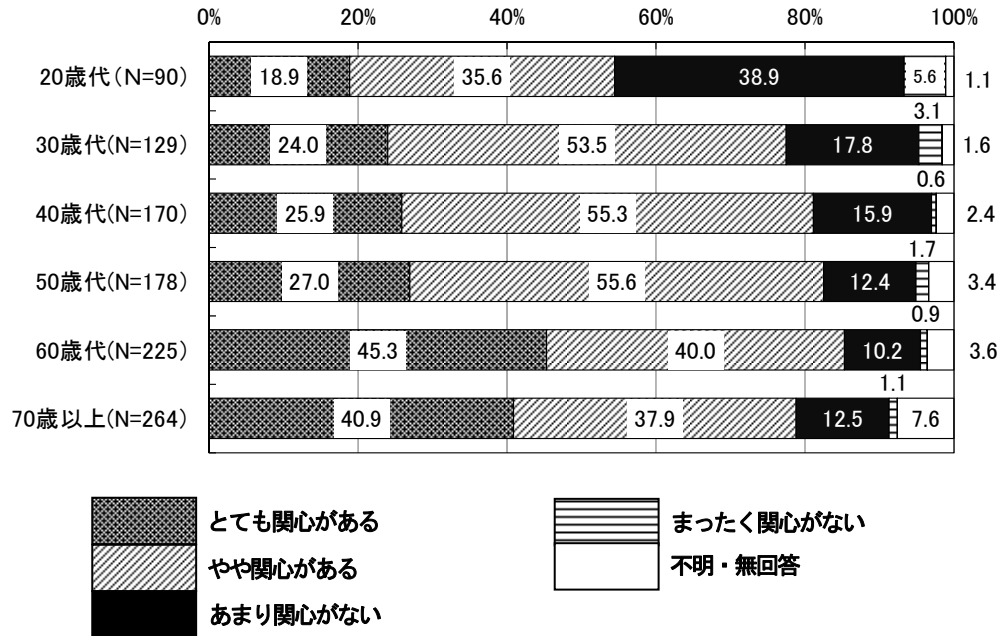
【性別グラフ】



性別にみると、「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』人は女性が80.7%、男性が76.8%となっており、女性の方がわずかに高くなっています。

【年齢別グラフ】

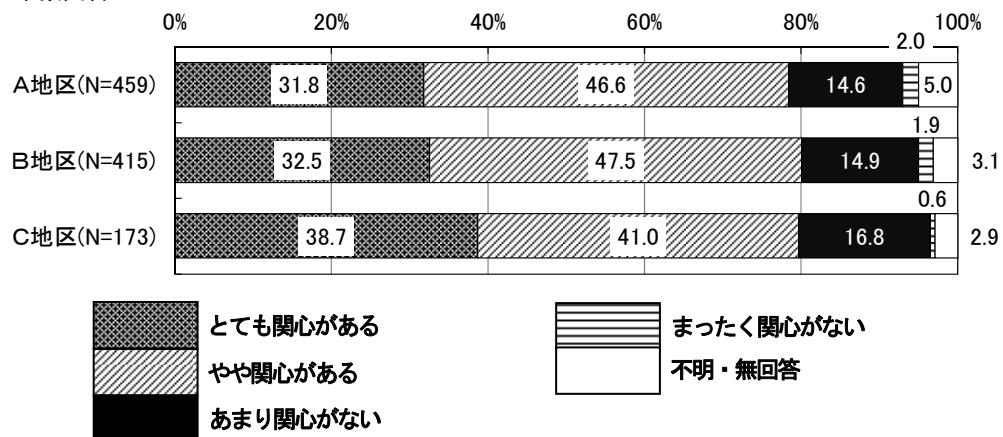
<単数回答>



年齢別にみると、「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』人の割合は60歳代で85.3%と最も高くなっており、年齢が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられます。

【居住地区別グラフ】

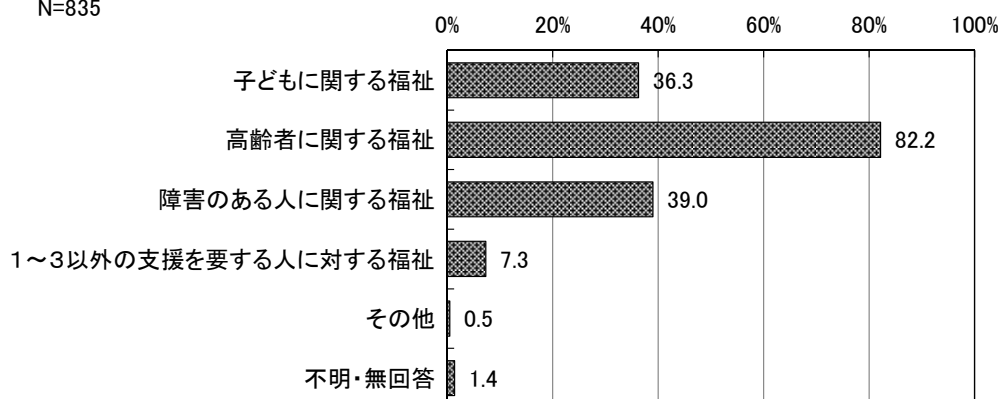
<単数回答>



居住地区別にみると、「とても関心がある」と「やや関心がある」をあわせた『関心がある』人の割合はA地区で78.4%、B地区で80.0%、C地区で79.7%とB地区がわずかに高くなっています。

問 1-1 「福祉」のどのような分野に関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)

＜複数回答＞
N=835



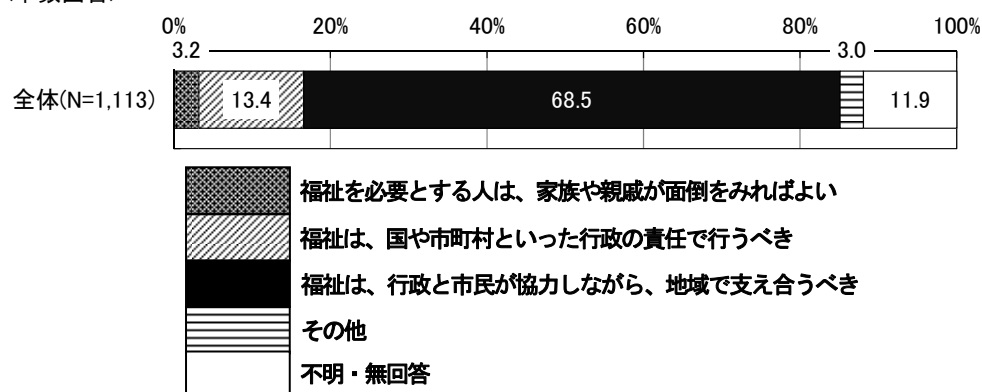
「高齢者に関する福祉」が 82.2%と最も高く、次いで「障害のある人に関する福祉」が 39.0%、「子どもに関する福祉」が 36.3%となっています。

その他回答

- ・ 家族と国、市町村、両方で面倒をみる
- ・ 在留外国人などに対するもの
- ・ いずれも関心がない
- ・ 病気をした時
- ・ 将来自分が支援を要する時の福祉
- ・ 社会全体に対する福祉
- ・ 経済的な負担

問 2 「福祉」のあり方は、どのようなべきだと思いますか。(ひとつだけ○)

＜単数回答＞



「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支えあうべき」が 68.5%と最も高く、次いで「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」が 13.4%、「福祉を必要とする人は、家族や親戚が面倒をみればよい」が 3.2%となっています。

その他回答

- 国や市町村といった行政と家族、地域で支え合う
- 行政と市民と家族や親戚が支え合うべき
- 家族、行政、地域で支え合う
- 「べき」ではなく、全ての組織、個人で分かち合うものだと思う
- 家族や市町村で支え合うのがよいと思う
- 家族や親戚が面倒をみるのが基本だが、できない部分を地域で支えあって、お願いしたい
- 本当に必要な人は皆で協力して守るべきだが、制度を悪用する人もいるので線引きが難しい

- 基本的に家族が面倒を見る。しかし高齢になりどうしても時は行政がみる
- 本来は自己自立が基本だが、どうしてもできない人のみ申請で行政
- 基本は家族。次に地域。そして必要に合わせて行政
- 個人の能力を越える部分を行政で補ってほしい
- 基本的には家族であるが、行政の支援が必要
- できれば家族。無理になったら行政
- 家族でできる面倒を見て、地域で支え、市町村が積極的な指導を行う
- 家族だけの支援では難しく限界がある（経済面含む）

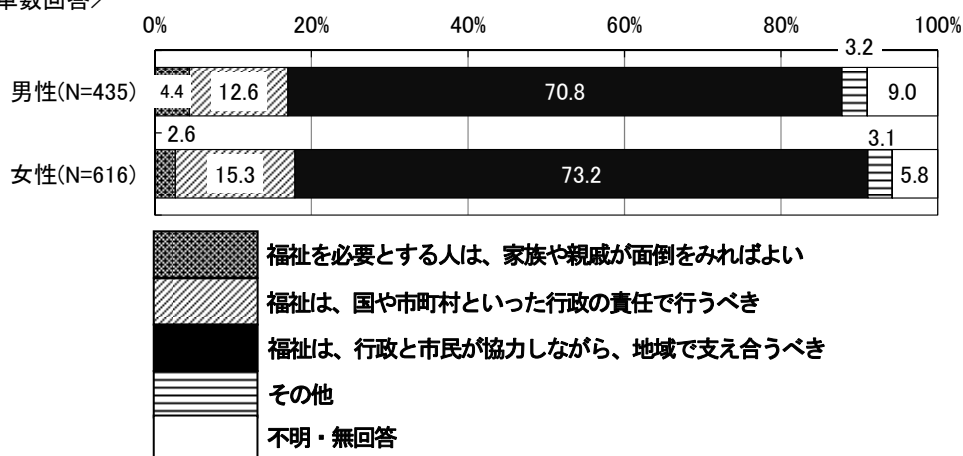
- 国で公平にサービスすべき
- 日本国全体

- 健康保険制度に関する事項は行政が管理すべきだが、他の事項は家族と民間企業が実施すべき
- 行政だけでは限界があるので民間に依頼をして、お金を払ってサービスを提供してもらう

- ケースバイケースできめ細やかな対応と心のこもった対応
- 必要に応じて行うべきと思う
- その状況に応じて対応すべき
- 個人の自由意思を大切にしてほしい
- いざというとき、絶対他人や親戚には頼りたくない

【性別グラフ】

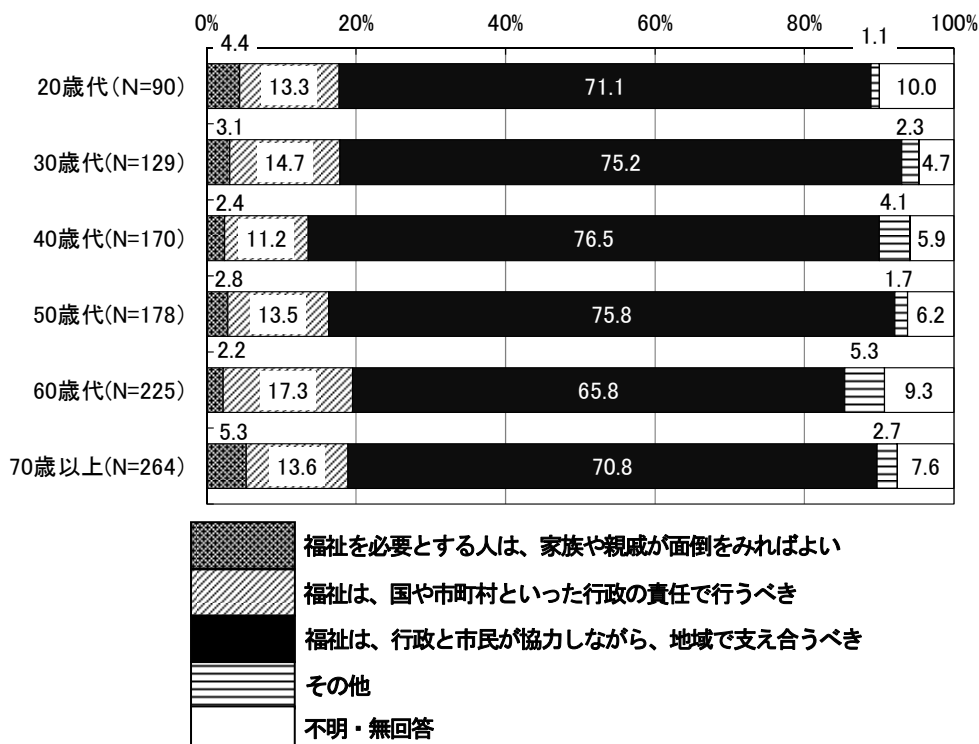
＜単数回答＞



性別にみると、男女ともに「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」が最も高く、約 7 割となっています。また、「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」では、女性が 15.3%、男性が 12.6%と女性がやや高くなっています。

【年齢別グラフ】

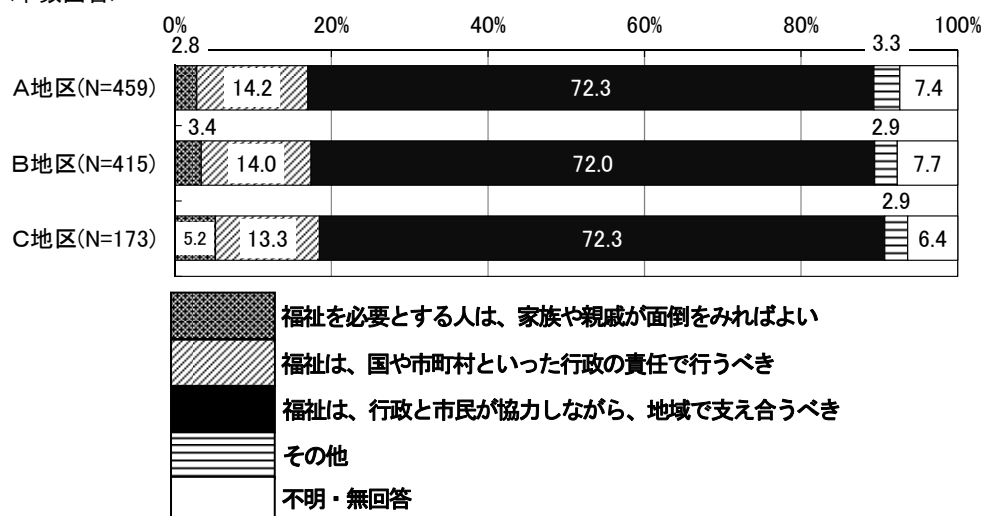
＜単数回答＞



年齢別にみると、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」が、どの年齢においても割合が最も高くなっています。また、「福祉は国や市町村といった行政の責任で行うべき」が、60歳代で 17.3%と他の年齢別と比較してわずかに高くなっています。

【居住地区別グラフ】

＜単数回答＞

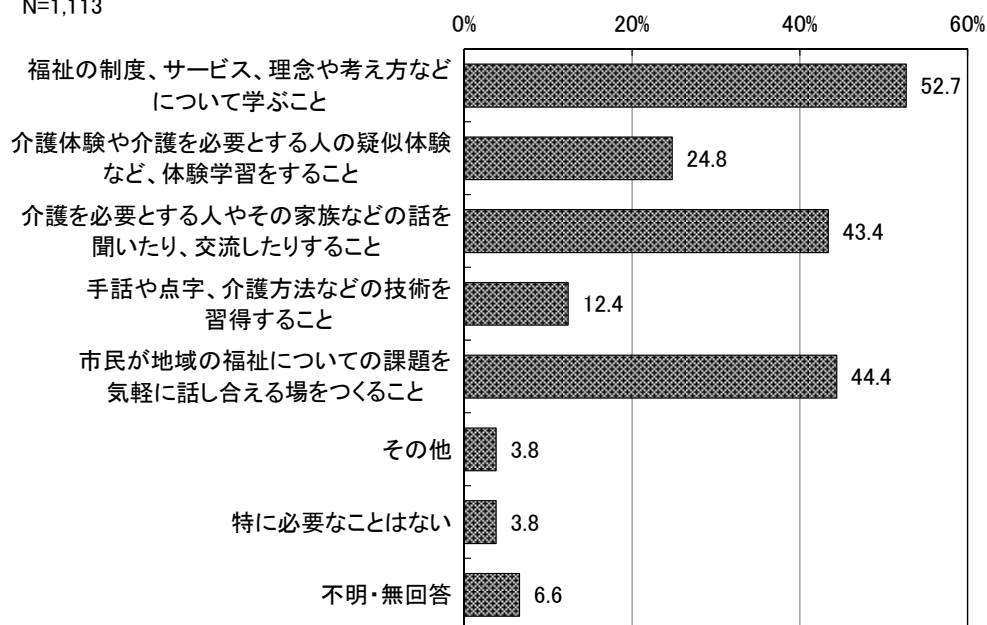


居住地区別にみると、「福祉は、行政と市民が協力しながら、地域で支え合うべき」の割合が、どの居住地区においても最も高くなっています。

問3 あなたは、市民が福祉について理解を深めるためには、どのような機会が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞

N=1,113



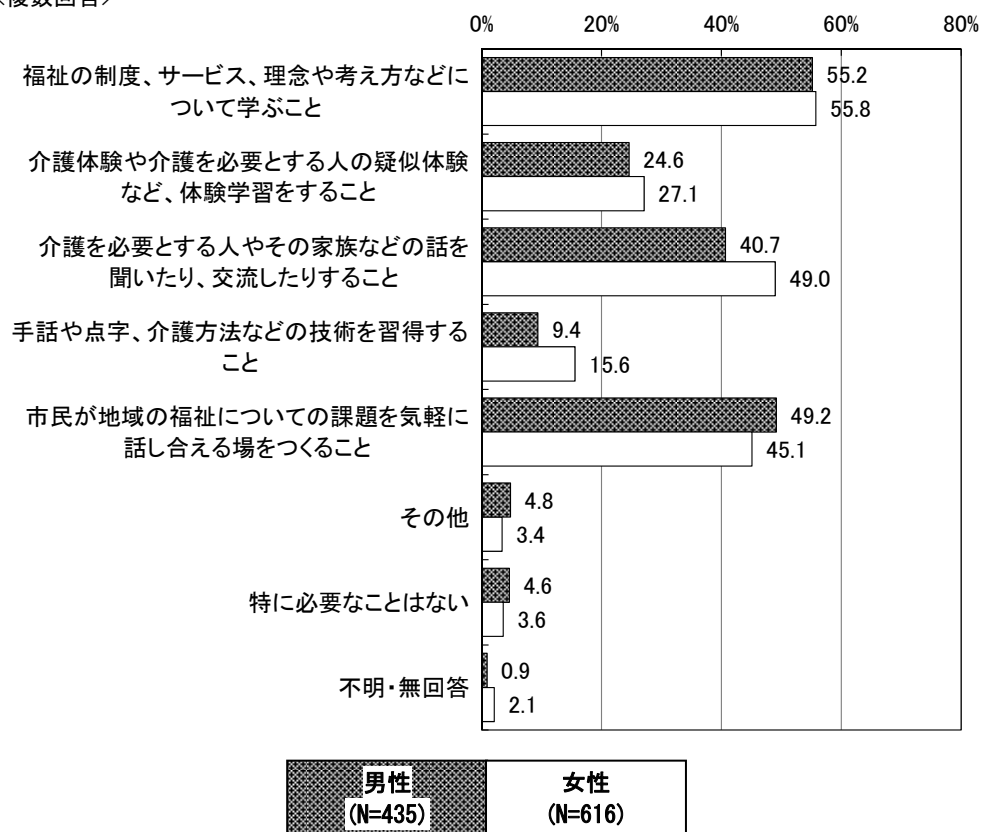
「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が52.7%と最も高く、次いで「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」が44.4%、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」が43.4%となっています。

その他回答

- 子どもの時から道徳心を養う教育（家庭・学校・社会）が基本だと思う。目上の人、親、先祖を尊敬する心が育っていない人に福祉を理解させることは非常に困難
- 将来を担う学生に対しての教育が少ない。時間をかけて十分教育する
- 子どもの時から学び、体験学習をさせる
- 日本国全体で大学生に義務として 1 年間介護施設などに従事させる。大学でなくても 18 ～22 歳の間に半年～1 年を義務とする。勉強しても頭だけの理解では従事しないとわからない
- 行政で実施する。市民が理解すると言っても大人になってからでは難しい。幼稚園、学校、地域で学ぶ機会をつくる
- 中学校でも福祉等の学習を
- 市民はその時にならないと何も考えないので必要な人に対して集中して手厚く対応すべき
- 子どもと老人ホーム、福祉施設との交流をすすめるべき
- 参加によるポイントの積み立てをしている行政を聞いたことがあった気がする
- 身の回りで起これば意識が高まるのももっと身近で触れ合える行事などを企画してほしい
- 制度と方法を一度座学で学んだうえで、実際に体験し反省会をすること。一度か二度体験してみると考えが変わるかも
- 「行政は市民が福祉について話し合える場を作る」について、しっかりサポートする体制を作る
- 選択肢の「介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること」や「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」については、福祉に対する考えが確立していなければ、その場限りになるのではないかと思う
- 市報などを通じ、常に行っていることを報じること
- 市政で何が問題かを理解し、市民にきちんと訴える
- 小さなことでも市役所内に電話で相談できるところを知らせるべき
- 活動団体を多くの市民に伝える
- 全国の福祉の情報を簡単に調べられる仕組み
- 介護施設や入所の可否状況がわかるようにしてほしい。個人で探すことは大変だと思う
- わかりやすいお知らせの掲示板的表示
- 行政の福祉活動を通し、地域福祉の理解が深まると思う

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女ともに「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が、男性で 55.2%、女性で 55.8%と高くなっています。また、「介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること」、「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」、「手話や点字、介護方法などの技術を習得すること」においては、男性より女性の方で割合が高くなっています。

【年齢別表】

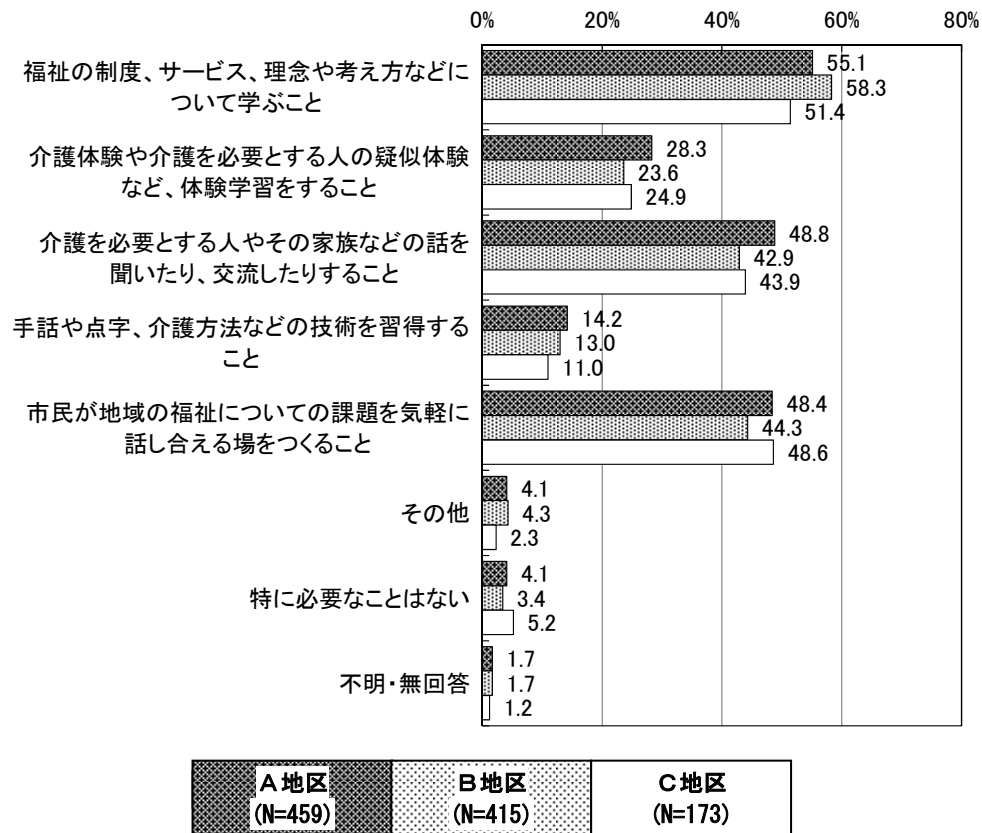
単位：％

＜複数回答＞	福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと	介護体験や介護を必要とする人の疑似体験など、体験学習をすること	介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること	手話や点字、介護方法などの技術を習得すること	市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	51.1	33.3	45.6	15.6	38.9	5.6	3.3	1.1
30 歳代 (N=129)	55.8	28.7	48.1	17.1	42.6	4.7	4.7	0.0
40 歳代 (N=170)	65.9	28.2	44.7	19.4	45.9	4.1	0.6	1.2
50 歳代 (N=178)	60.7	25.3	44.4	14.0	52.8	2.8	3.9	0.6
60 歳代 (N=225)	55.1	28.4	40.9	10.2	51.6	5.3	2.2	2.2
70 歳以上 (N=264)	47.0	19.7	50.0	8.0	43.6	2.7	7.6	3.0

年齢別にみると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が、70 歳代以上では「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

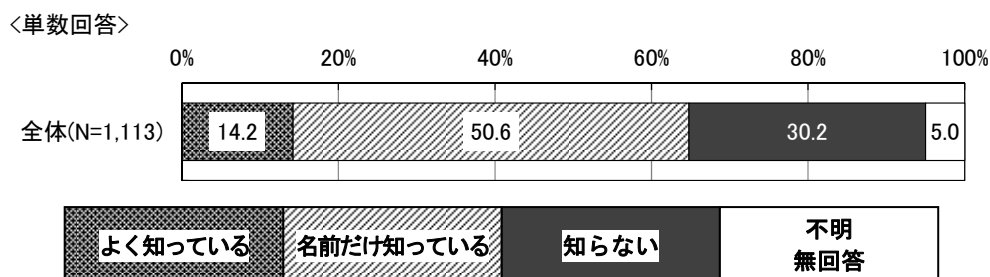
＜複数回答＞



居住地区別にみると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」の割合が、どの居住地区においても最も高くなっています。また、どの居住地区においても「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」、「市民が地域の福祉についての課題を気軽に話し合える場をつくること」も必要だと考える人が多いことがうかがえます。

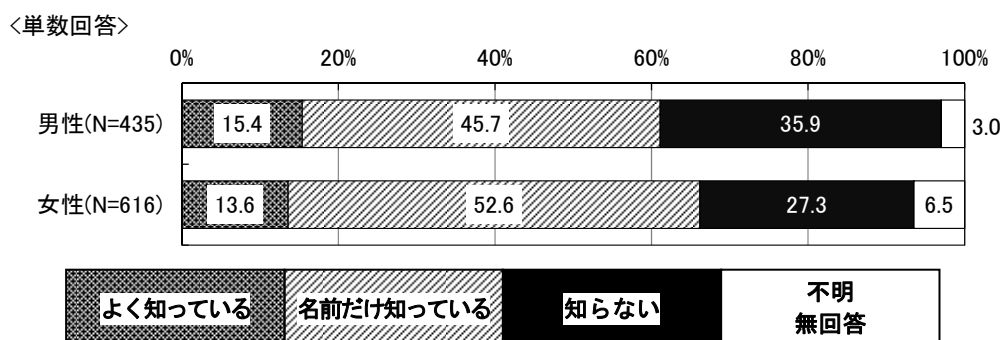
3. 社会福祉協議会や民生委員・児童委員について

問4 あなたは、小郡市の社会福祉協議会を知っていますか。(ひとつだけ○)



「名前だけ知っている」が50.6%と最も高く、次いで「知らない」が30.2%、「よく知っている」が14.2%となっています。

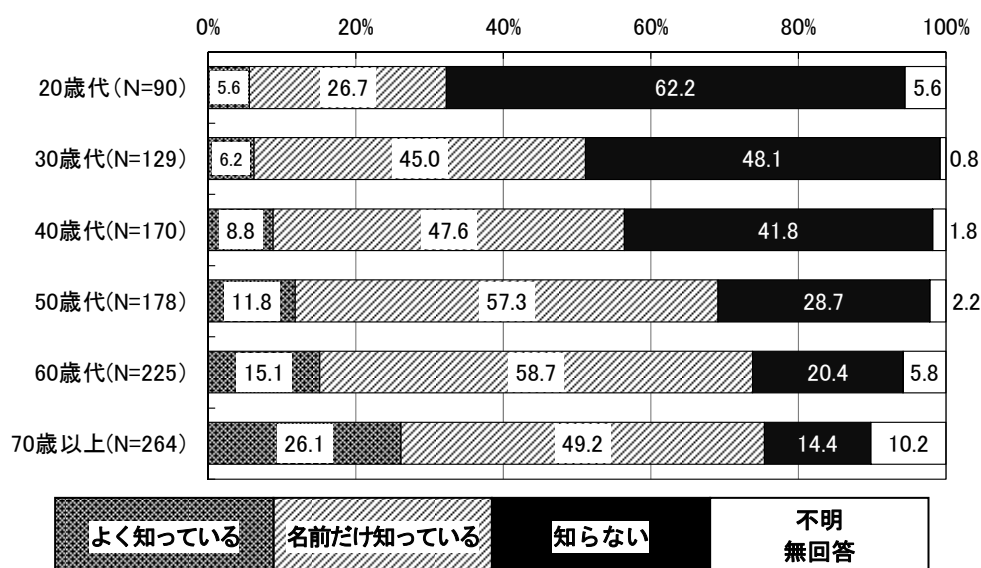
【性別グラフ】



性別にみると、「よく知っている」と「名前だけ知っている」をあわせた『知っている』人は女性が66.2%、男性が61.1%となっており、女性の方がわずかに高くなっています。

【年齢別グラフ】

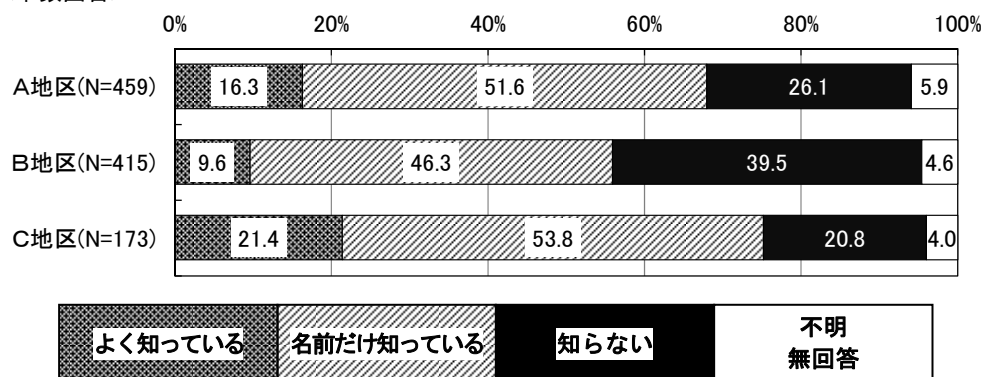
<単数回答>



年齢別にみると、50 歳代～70 歳以上では『知っている』の割合が高く、30 歳代、40 歳代では、『知っている』割合は概ね半数となっています。一方、20 歳代では、「知らない」の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

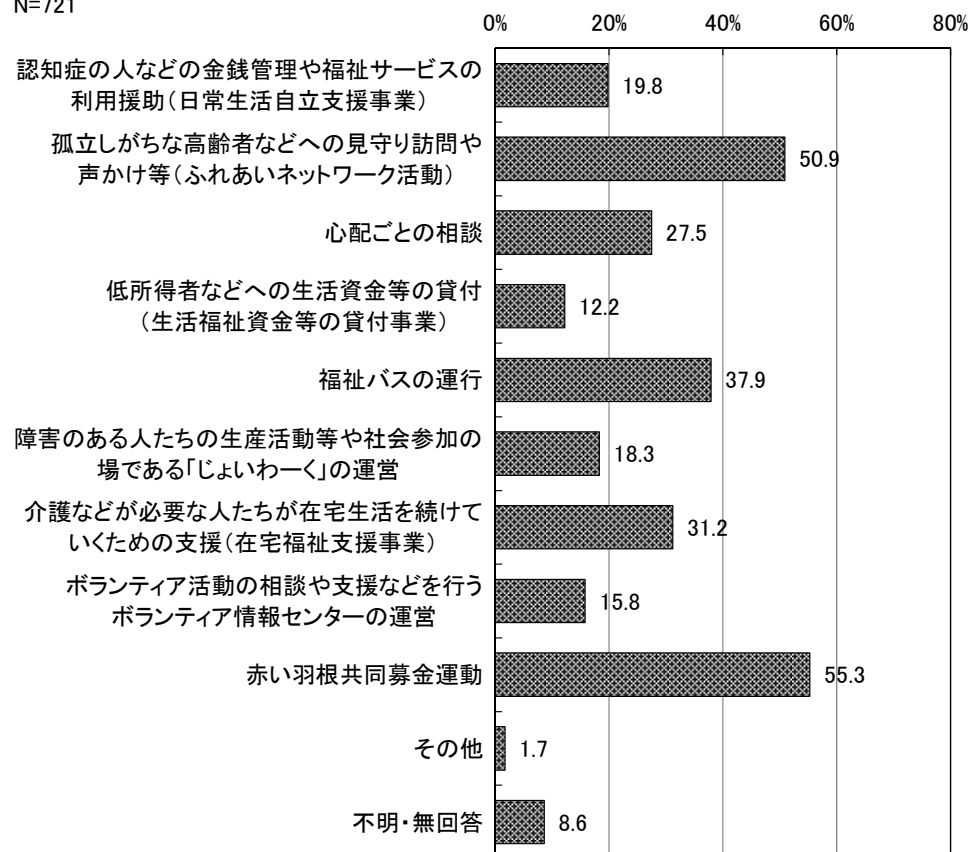
<単数回答>



居住地区別にみると、A地区、C地区では『知っている』の割合が高くなっていますが、B地区では『知っている』の割合は概ね半数となっており、「知らない」の割合が約4割になっています。

問 4-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

〈複数回答〉
N=721



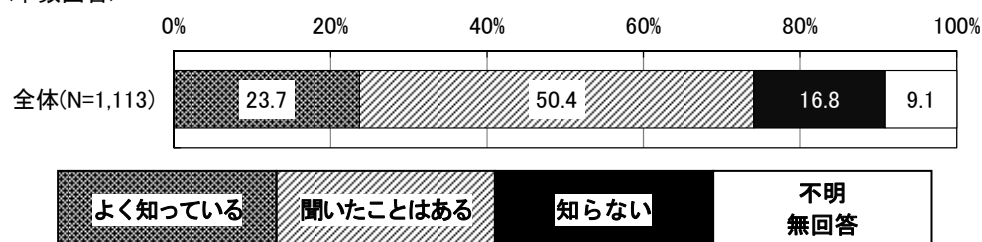
「赤い羽共同募金運動」が55.3%と最も高く、次いで「孤立しがちな高齢者などへの見守り訪問や声かけ等（ふれあいネットワーク活動）」が50.9%、「福祉バスの運行」が37.9%となっています。

その他回答

- ・市報とともに配布される広報
- ・車いすの貸し出し
- ・介護保険事業
- ・かき氷機などが借りられる
- ・活動について詳しくない
- ・組織名しか知らない
- ・全く活動を知らない
- ・活動内容を知らない
- ・活動がよくみえない

問5 あなたは、民生委員・児童委員の制度を知っていますか。(ひとつだけ○)

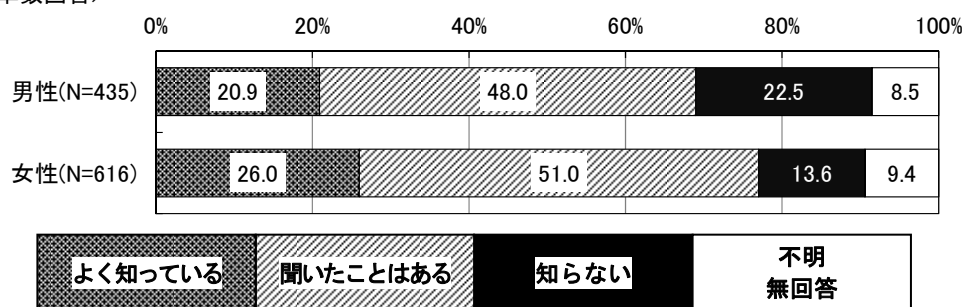
<単数回答>



「聞いたことはある」が 50.4%と最も高く、次いで「よく知っている」が 23.7%、「知らない」が 16.8%となっています。

【性別グラフ】

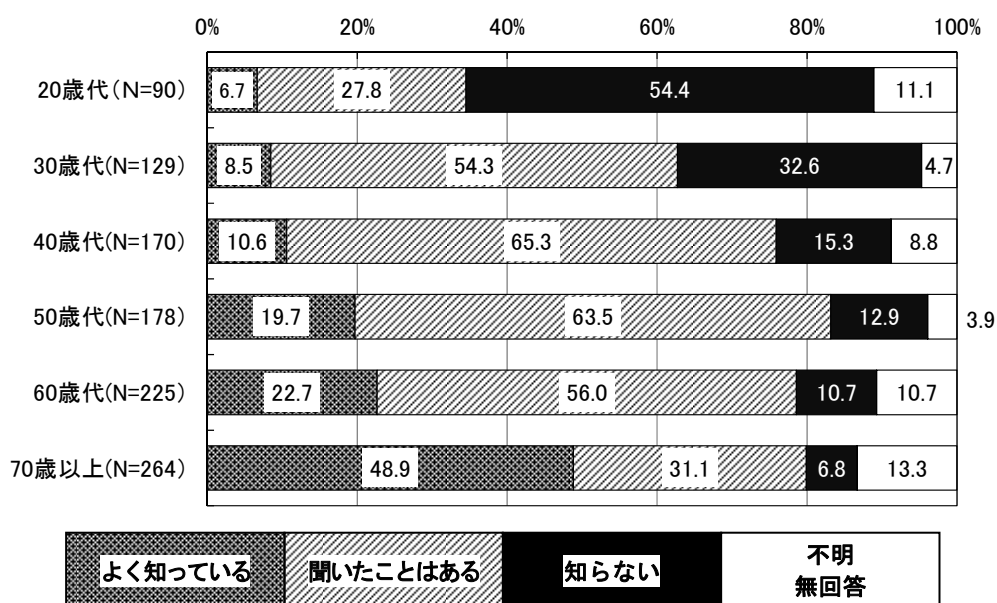
<単数回答>



性別にみると、「よく知っている」と「聞いたことはある」を合わせた割合は、女性が 77.0%、男性が 68.9%となっており、女性の方がわずかに高くなっています。

【年齢別グラフ】

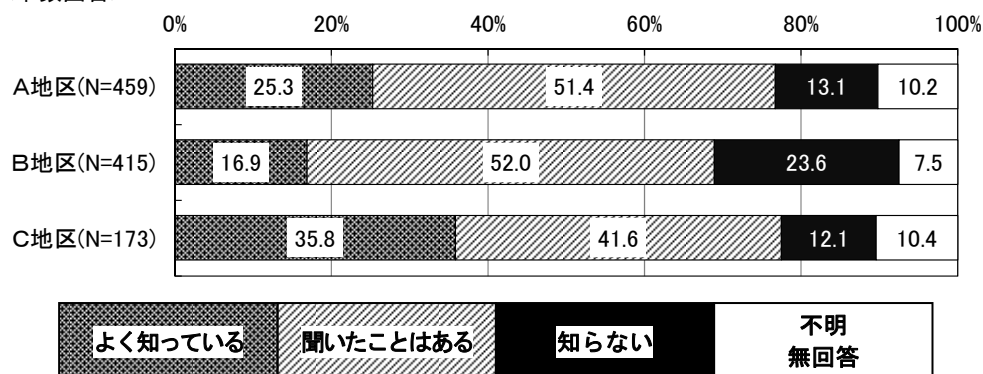
＜単数回答＞



年齢別にみると、30歳代～60歳代では「聞いたことはある」の割合が高く、70歳以上では「よく知っている」の割合は概ね半数となっています。一方、20歳代では、「知らない」の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

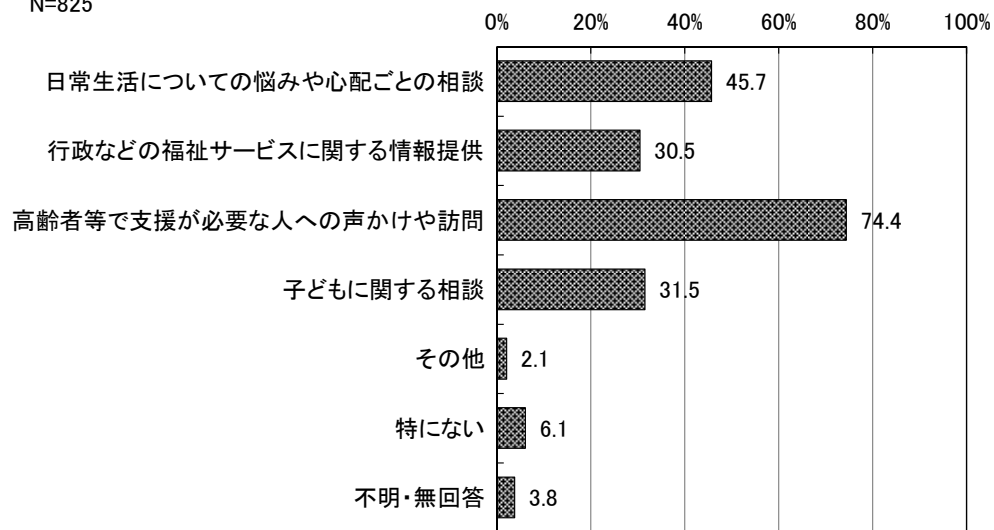
＜単数回答＞



居住地区別にみると、すべての居住地区では「聞いたことはある」の割合が高く、C地区では「よく知っている」の割合が35.8%と、他の居住地区と比較して高くなっています。

問 5-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞
N=825



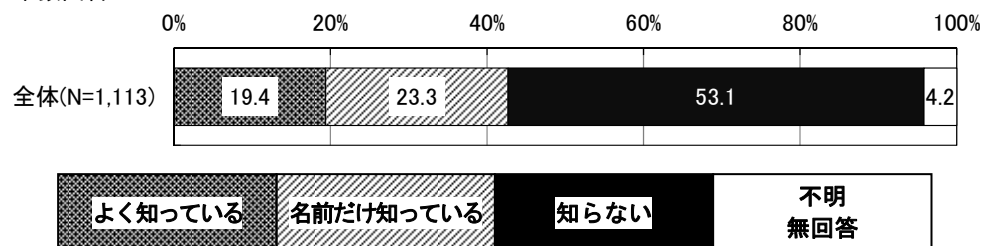
「高齢者等で支援が必要な人への声かけや訪問」が74.4%と最も高く、次いで「日常生活についての悩みや心配ごとの相談」が45.7%、「子どもに関する相談」が31.5%となっています。

その他回答

- ・フォーマルサービスとインフォーマルサービスのパイプ役
- ・生活保護などの相談
- ・家の近くに障害者の方がいて、その方が民生委員の方に相談していた
- ・時々訪問してくれる方がいる
- ・見守り活動
- ・ふれあいネットワークの運営。幼、小、中やその他のさまざまなイベントへの参加
- ・ふれあい会

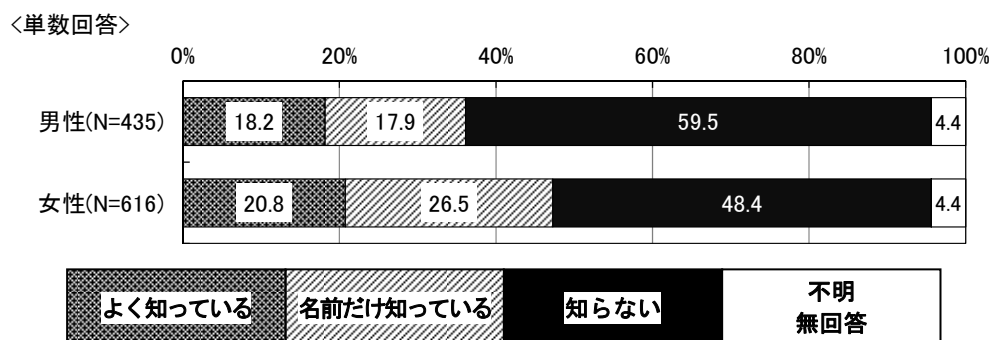
問 6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。（ひとつだけ○）

＜単数回答＞



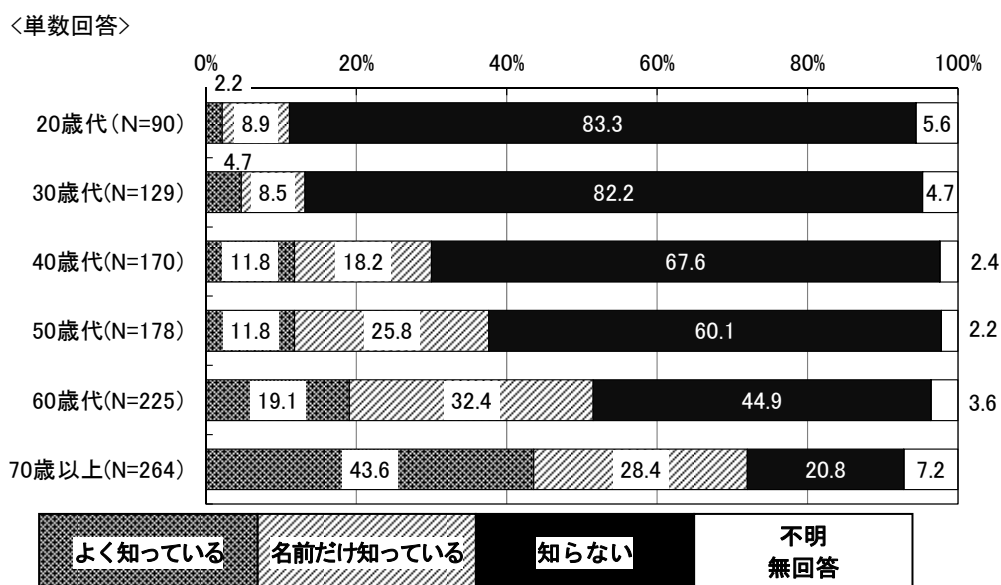
「知らない」が53.1%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」が23.3%、「よく知っている」が19.4%となっています。

【性別グラフ】



性別にみると、「知らない」の割合が男性 59.5%、女性 48.4%と最も高く、『知っている』の割合が男性 36.1%、女性 47.3%と男性より女性の方が『知っている』の割合が高くなっています。

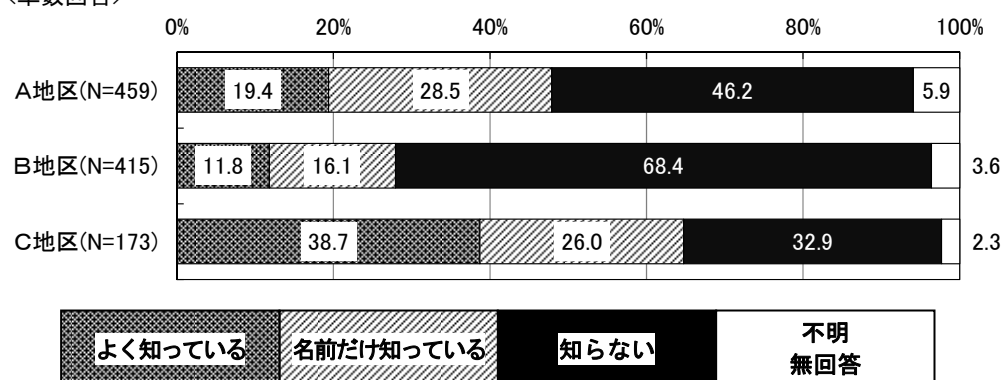
【年齢別グラフ】



年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『知っている』の割合が高くなる傾向がみられます。

【居住地区別グラフ】

＜単数回答＞

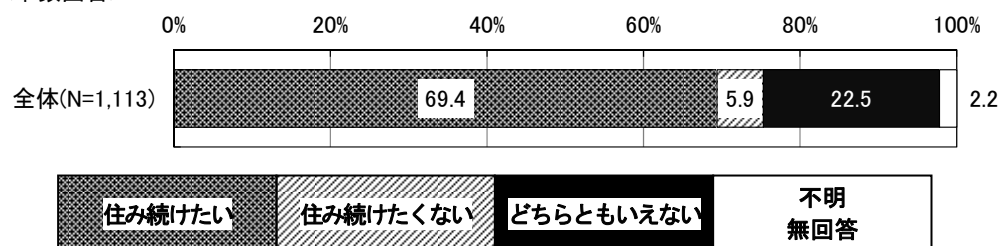


居住地区別にみると、『知っている』の割合は、A地区で 47.9%、C地区で 64.7%と割合は高いが、B地区は「知らない」の割合が 68.4%となっています。

4. 地域での生活について

問7 あなたは、これからも現在住んでいるところに住み続けたいと思いますか。
(ひとつだけ○)

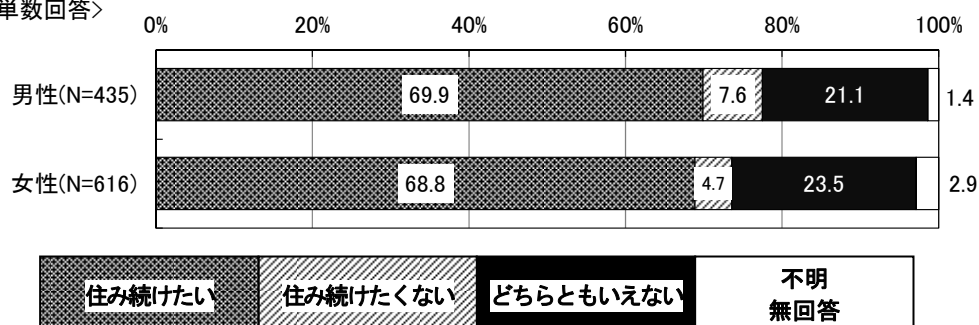
<単数回答>



「住み続けたい」が 69.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 22.5%、「住み続けたくない」が 5.9%となっています。

【性別グラフ】

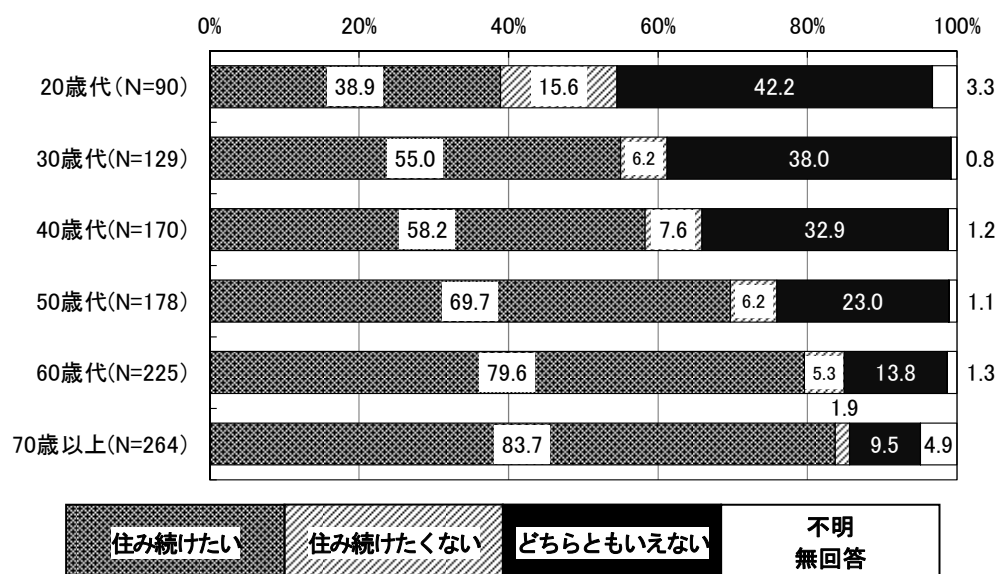
<単数回答>



性別にみると、男女ともに「住み続けたい」の割合が最も高く、男性が 69.9%、女性が 68.8%と、男性の方がわずかに高くなっています。

【年齢別グラフ】

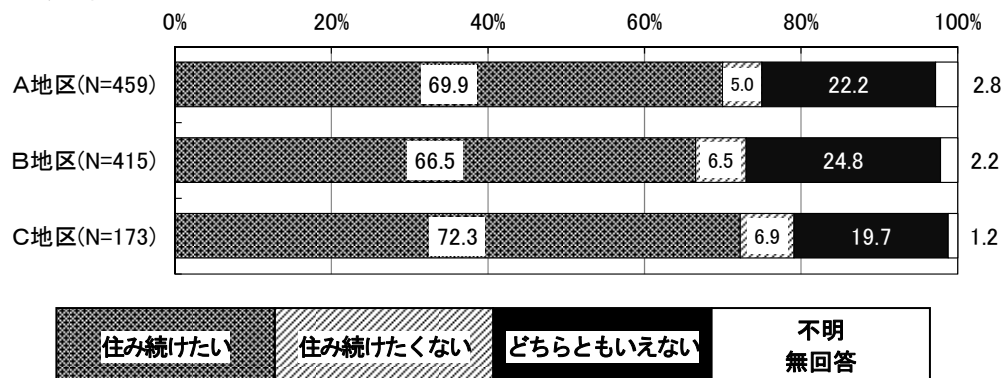
<単数回答>



年齢別にみると、現在住んでいるところに「住み続けたい」と回答した人の割合は、70歳以上で83.7%と最も高く、年齢が上がるにつれてその割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

<単数回答>

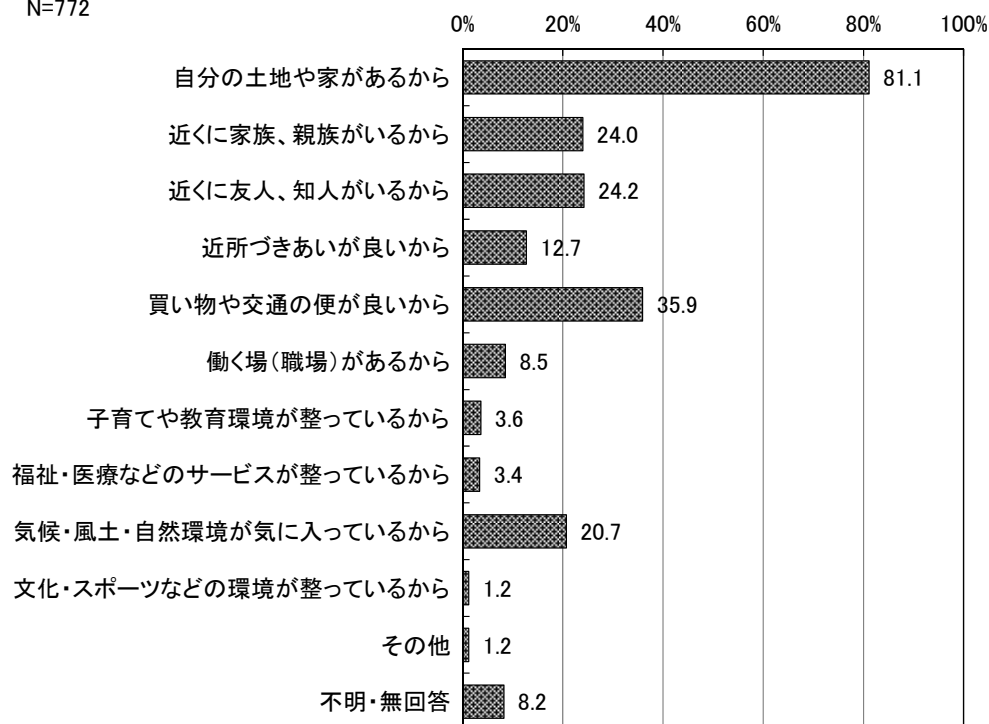


居住地区別にみると、現在住んでいるところに「住み続けたい」と回答した人の割合は、A地区が69.9%、B地区が66.5%、C地区が72.3%となっています。

問7-1 どのような点で住み続けたいと思いますか。(〇は3つまで)

〈複数回答〉

N=772



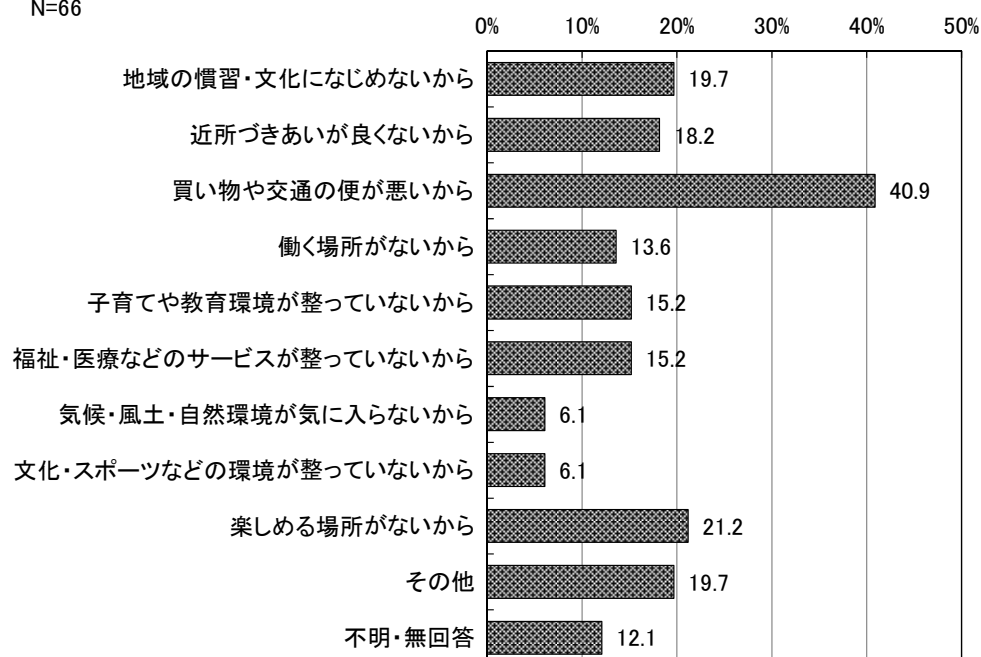
「自分の土地や家があるから」が81.1%と最も高く、次いで「買い物や交通の便が良いから」が35.9%、「近くに友人、知人がいるから」が24.2%となっています。

その他回答

- ・地域の環境がよい
- ・大災害が少ない
- ・将来自分のものになる土地、家がある
- ・住み慣れた土地だから
- ・生まれた所だから
- ・鳥栖ジャンクションがある
- ・福岡市との距離感

問 7-2 どのような点で住み続けたくないと思いますか。(〇は3つまで)

〈複数回答〉
N=66



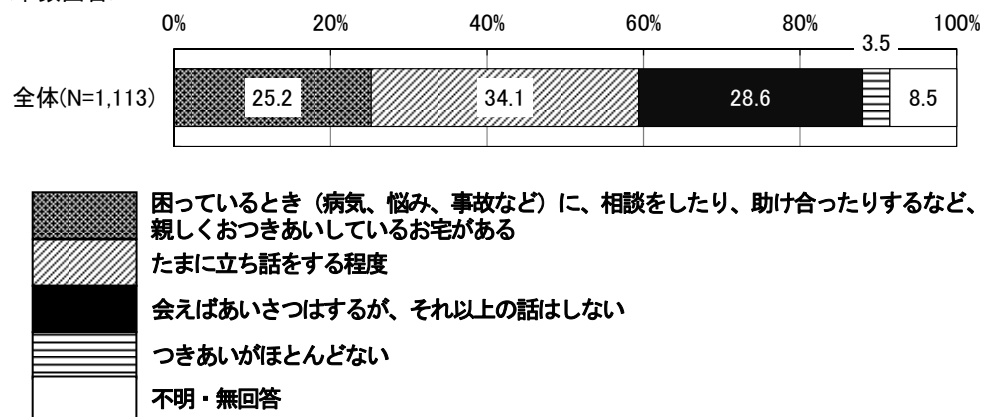
「買い物や交通の便が悪いから」が40.9%と最も高く、次いで「楽しめる場所がないから」が21.2%、「地域の慣習・文化になじめないから」、「その他」が19.7%となっています。

その他回答

- ・親と一緒にだから
- ・早く独り立ちしたいから、仕事場への移動距離を減らしたい
- ・小郡市は大刀洗、基山に比べ道路事情が悪い
- ・マンションで交通の便がよいところがいい
- ・道が暗い
- ・自動車の騒音がうるさくなった
- ・地域の寛容さがない、自分が生きるのに精一杯で悲壮感すら感じる
- ・自治会がよくない
- ・財政再建に対する姿勢が感じられない
- ・市の市民サービスに疑問、市職員等の能力向上が必要
- ・他地域との色々な格差を感じる
- ・病院が少ない
- ・子どもの治療費がかかる
- ・転勤で来たので主人ともに田舎に帰る
- ・いずれ実家に戻りたい

問 8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。
(ひとつだけ○)

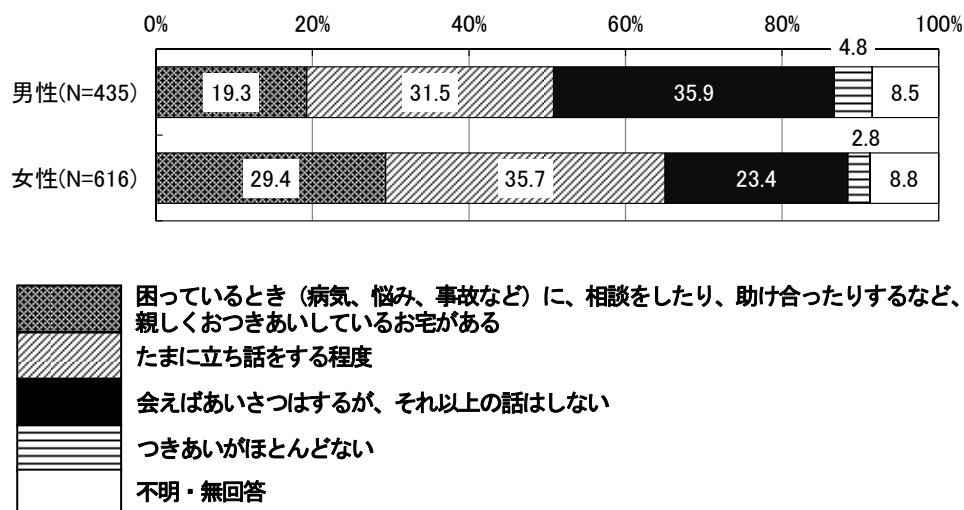
〈単数回答〉



「たまに立ち話をする程度」が 34.1%と最も高く、次いで「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」が 28.6%、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」が 25.2%となっています。

【性別グラフ】

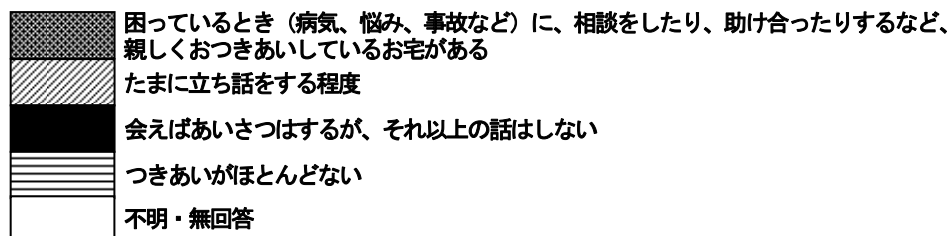
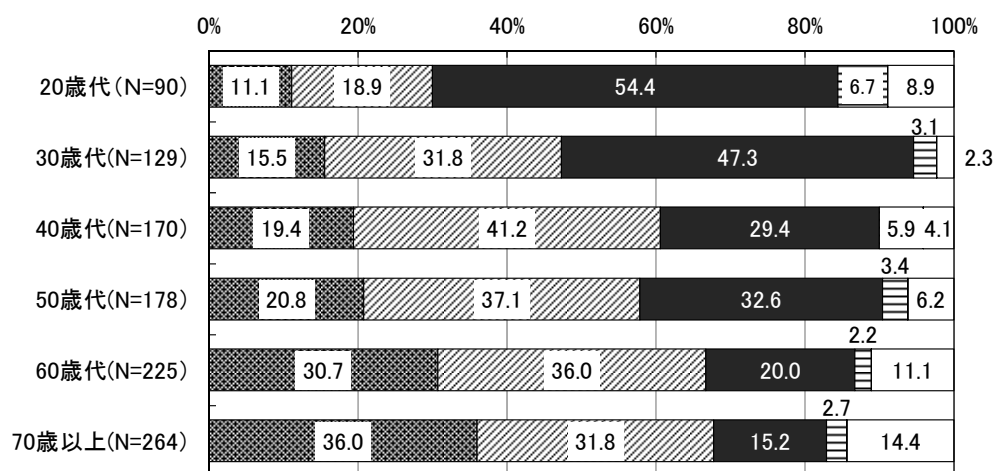
〈単数回答〉



性別にみると、男性は「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」の割合が 35.9%と最も高く、女性は「たまに立ち話をする程度」の割合が 35.7%と最も高くなっています。また、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」の割合が、男性と比較して女性で高くなっています。

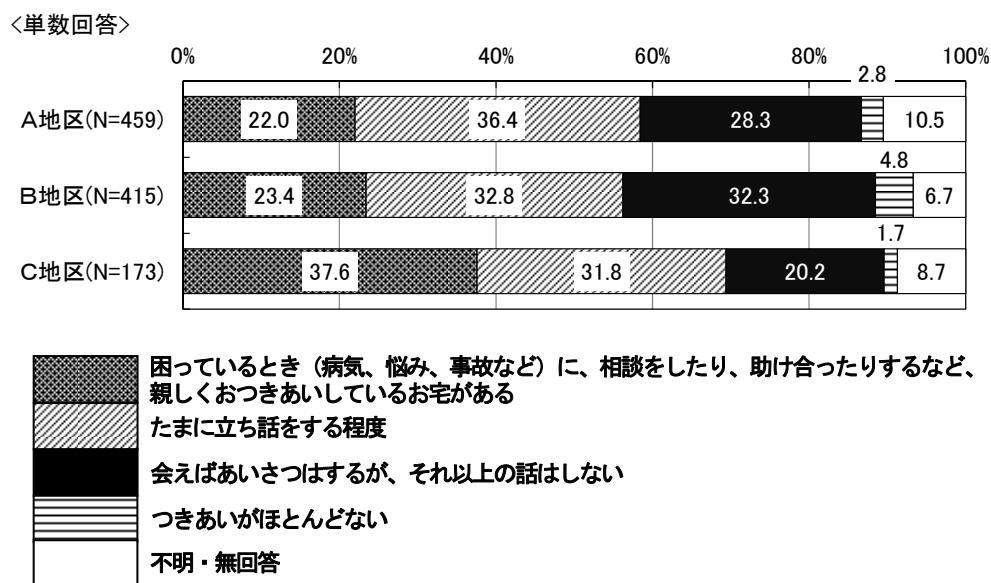
【年齢別グラフ】

＜単数回答＞



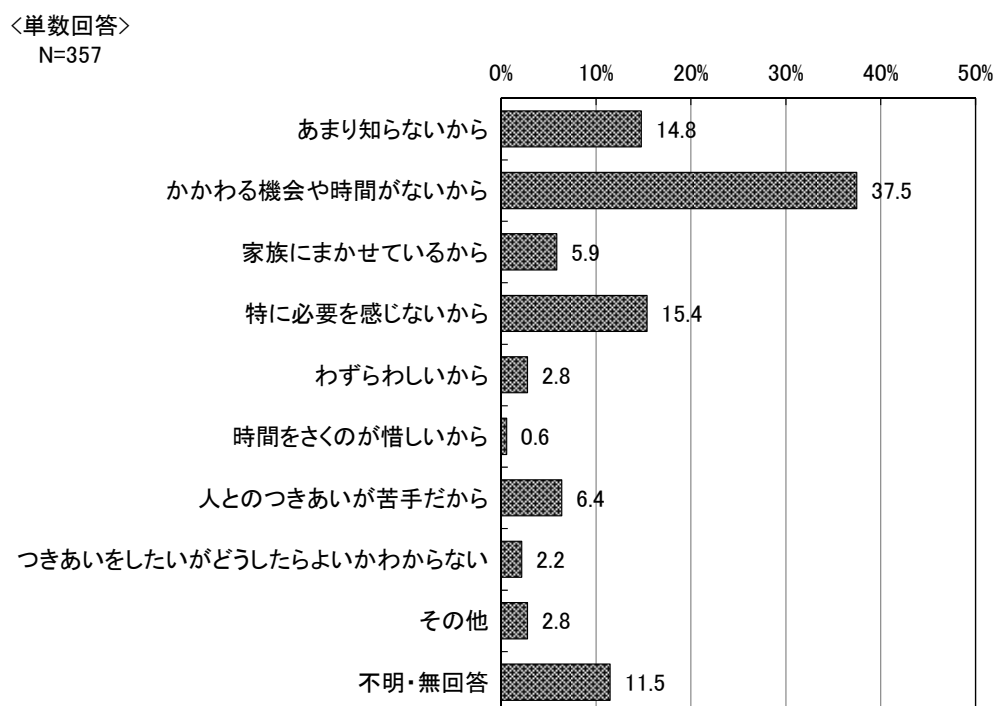
年齢別にみると、40歳代～60歳代では「たまに立ち話をする程度」の割合が高くなっています。20歳代、30歳代では、「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」の割合が高くなっています。一方、70歳以上では、「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】



居住地区別にみると、A地区、B地区では「たまに立ち話をする程度」の割合が高く、C地区では「困っているとき（病気、悩み、事故など）に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある」の割合が高くなっています。

問 8-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。（ひとつだけ○）



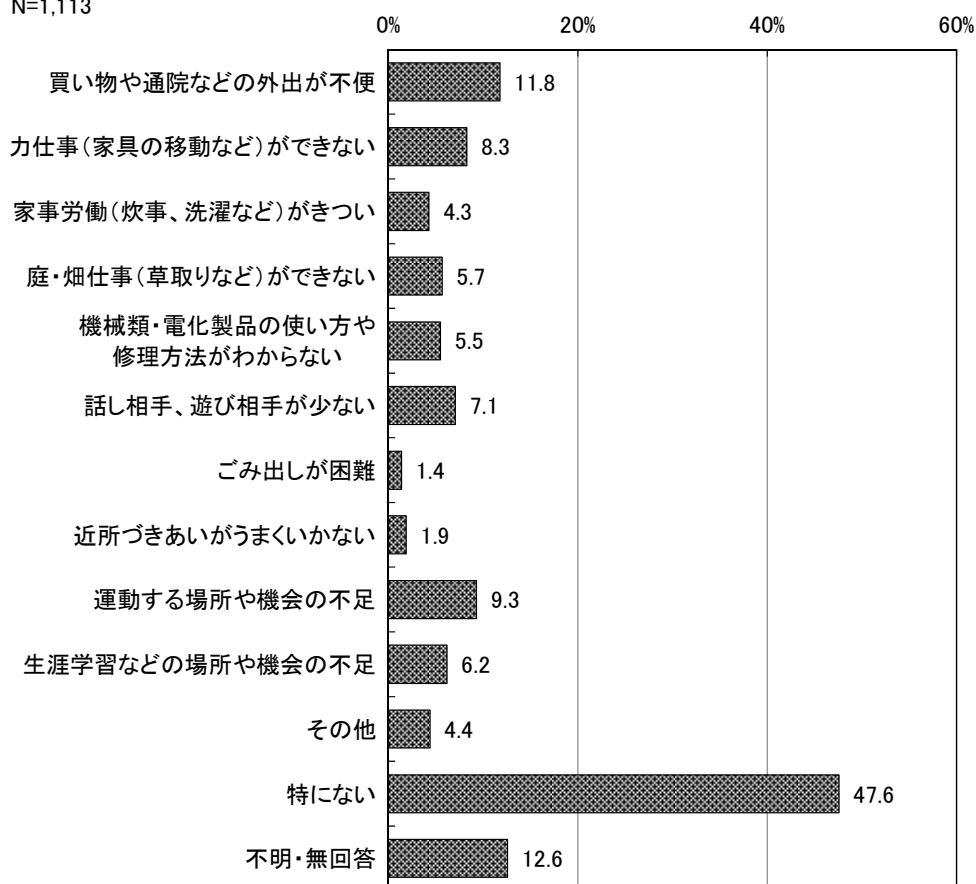
「かかわる機会や時間がないから」が37.5%と最も高く、次いで「特に必要を感じないから」が15.4%、「あまり知らないから」が14.8%となっています。

その他回答

- ・引っ越してきたばかりで付き合い方を考えているから
- ・引っ越して間もないのでよく知らないから
- ・年齢の差。若い人と合わない
- ・共働きの家が多く会うことがない
- ・同じ年齢の人や私と同じように働いてない人が多いため
- ・無職なので気まずい
- ・周りに永住者が多くない(借家住居)
- ・名前も知らないことや地域の会合もないから
- ・将来的にずっと住もうと思っていないから
- ・自分個人としては付き合いたいが、家族が近所に対して非常に閉鎖的で警戒心をもっていたためやりにくかった。今は改善しつつある
- ・隣人に裏切られたから。大病を患っても知らんぷり

問9 毎日の暮らしのなかでの困りごとはどのようなことですか。(〇は3つまで)

<複数回答>
N=1,113



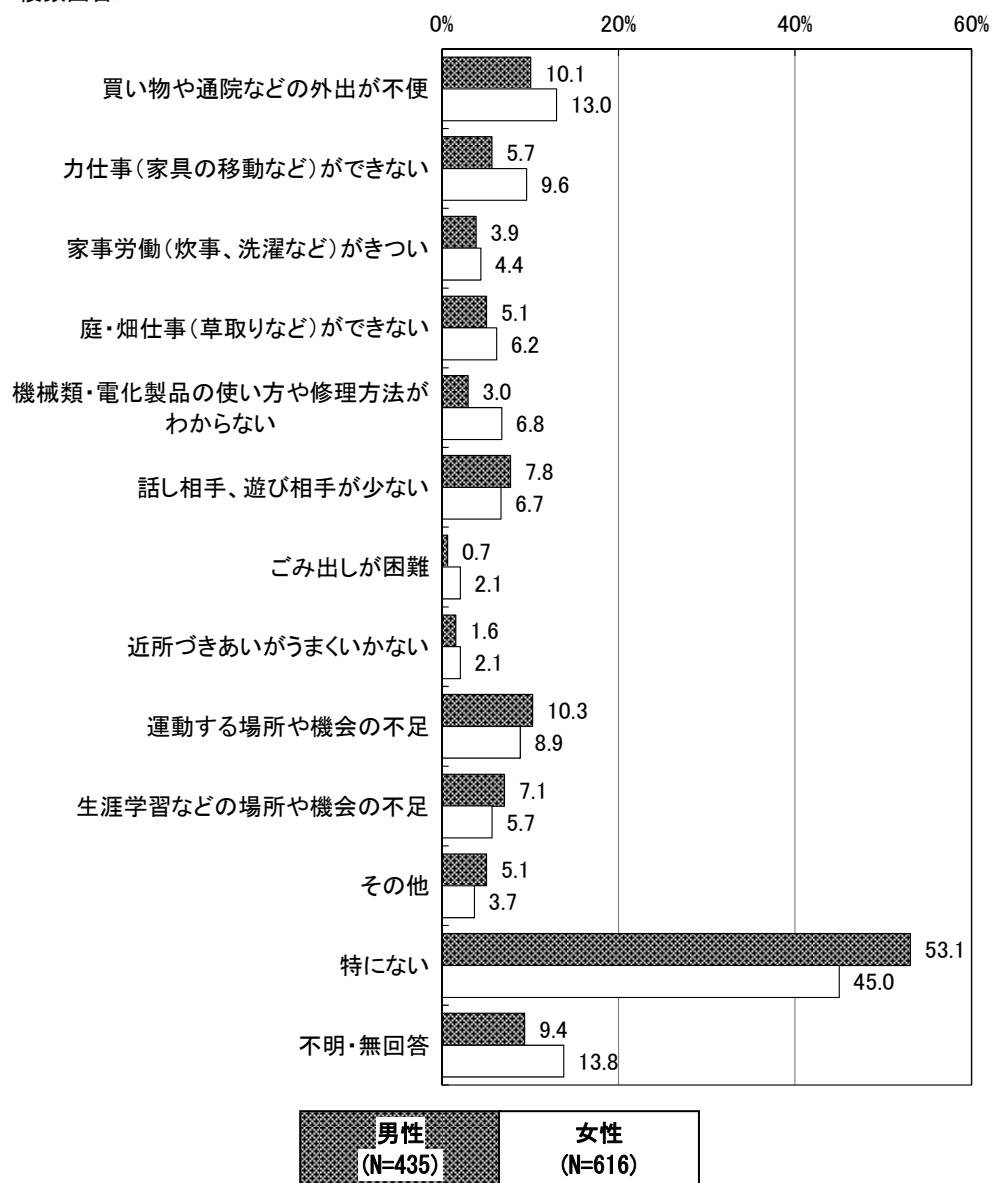
「特にない」が47.6%と最も高く、次いで「買い物や通院などの外出が不便」が11.8%、「運動する場所や機会の不足」が9.3%となっています。

その他回答

- ・アパートの隣のマナーが悪いのでイライラすることがある
- ・同じアパートの共有スペースの使い方・規約を守らない
- ・近所づきあい、溝掃除ができない
- ・近隣の騒音、ヘリコプター（自衛隊）の騒音
- ・団地のせいか近所の方と深く関わりがないので、学校など子どもとの関係での付き合いが多い
- ・介護を受けているので不安
- ・あまり体が動かない
- ・介護に関すること
- ・病気で動けない
- ・外に出られない
- ・近くにスーパーが1店しかない。車がないので遠くに行けない
- ・図書館などが遠い、電車で行っても駅から遠い
- ・駅までの交通手段（JR）がない。特に朝・夜
- ・足の動きや腰が悪いので、一人歩きが少々不安
- ・市役所への外出も大変
- ・バスの運行がない
- ・交通の便が悪い
- ・図書館が遠い
- ・公園が近くにない
- ・三沢駅の駐輪場の場所が悪い。夜は暗くて人気がないのでもっと道路に面したところに移すべき。最近駐輪場で亡くなっている人がいたようですが
- ・道路が狭くて車の運転がおっくう。車と歩行者が近くて、子どもの歩行も心配
- ・公園をきれいにしてほしい。さびが多い。北松尾口公園
- ・歩道が整っていないので危ない
- ・歩道が狭く高低差がきつい
- ・道路の流れが悪い
- ・夜道が暗い
- ・自分が休みの時に行政や病院などが全て休みで困る
- ・下の子が入院（要付添い）のため、上の子を預けるところがない
- ・ごみ袋が小さい。基山町のごみ袋がよいと思う
- ・剪定木の回収日が少なすぎる

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女ともに「特にない」の割合が最も高く、男性で 53.1%、女性で 45.0% となっています。

【年齢別表】

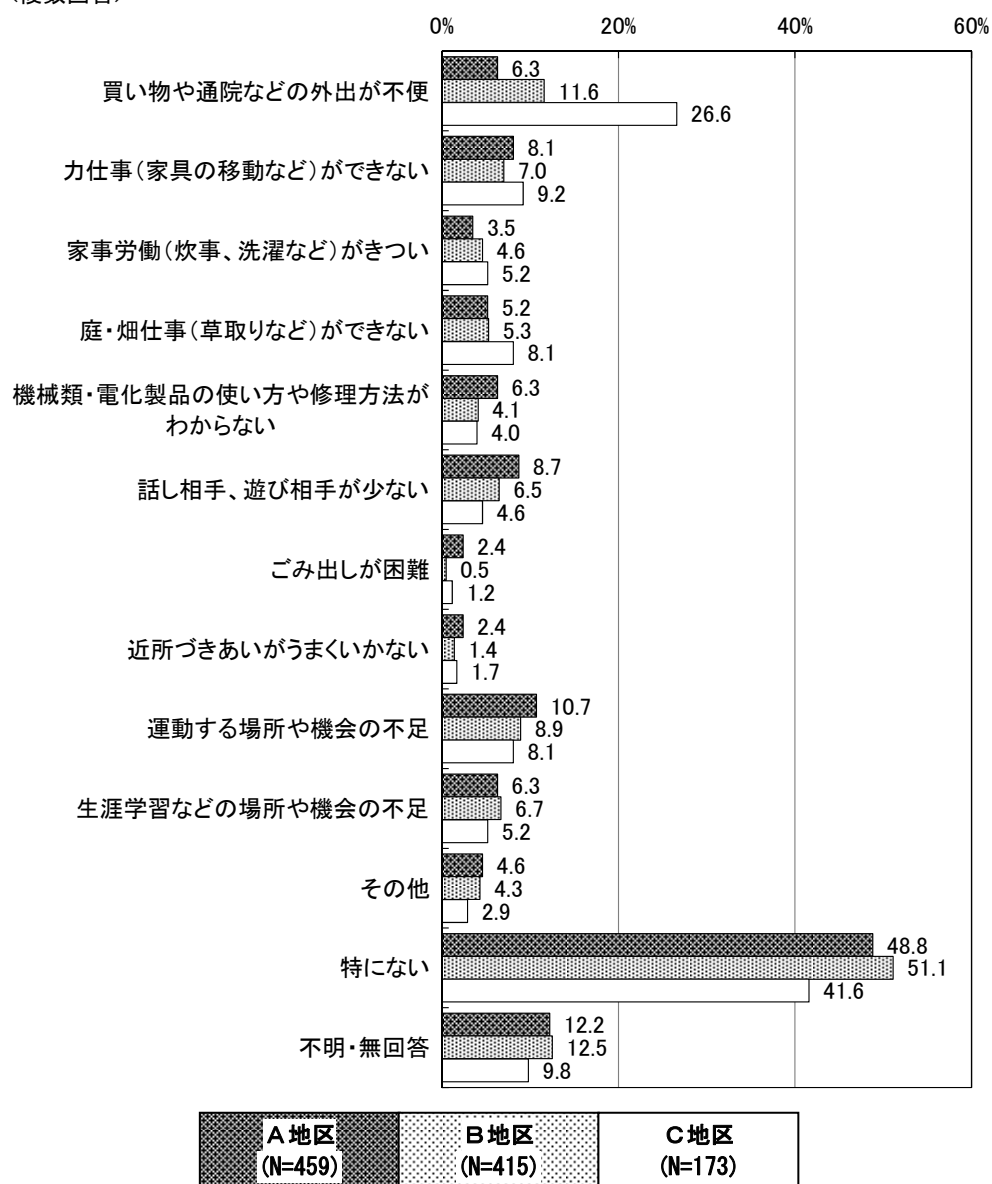
単位：％

〈複数回答〉	買い物や通院などの外出が不便	力仕事（家具の移動など）ができない	家事労働（炊事、洗濯など）がきつい	庭・畑仕事（草取りなど）ができない	機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない	話し相手、遊び相手が少ない	ごみ出しが困難
20 歳代 (N=90)	10.0	1.1	2.2	4.4	4.4	5.6	3.3
30 歳代 (N=129)	12.4	0.8	2.3	0.8	0.0	6.2	4.7
40 歳代 (N=170)	10.0	5.9	3.5	4.1	2.4	3.5	0.6
50 歳代 (N=178)	9.6	3.9	1.7	4.5	2.8	5.6	0.6
60 歳代 (N=225)	6.2	7.6	1.8	3.6	4.0	7.6	0.4
70 歳以上 (N=264)	19.3	18.2	9.5	11.7	12.5	11.0	1.5
〈複数回答〉	近所づきあいがうまくいかない	運動する場所や機会の不足	生涯学習などの場所や機会の不足	その他	特にない	不明・無回答	
20 歳代 (N=90)	4.4	11.1	6.7	1.1	52.2	10.0	
30 歳代 (N=129)	1.6	17.8	9.3	8.5	48.8	6.2	
40 歳代 (N=170)	1.8	11.2	4.7	4.7	55.3	10.0	
50 歳代 (N=178)	0.6	11.8	6.7	4.5	51.1	12.9	
60 歳代 (N=225)	2.2	8.9	8.0	5.8	51.1	14.7	
70 歳以上 (N=264)	1.9	3.0	3.8	1.5	38.3	14.0	

年齢別にみると、すべての年齢では「特にない」と回答した人の割合が高くなっています。次いで「不明・無回答」を除けば、20 歳代～60 歳代では「運動する場所や機会が不足」、70 歳以上では「買い物や通院などの外出が不便」と回答した人の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

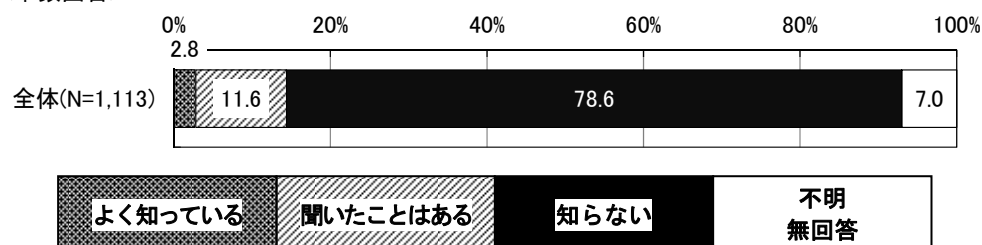
〈複数回答〉



居住地区別にみると「特にない」の割合がどの居住地区においても高くなっています。また、「買い物や通院などの外出が不便」が、C地区で26.6%と、A地区6.3%、B地区の11.6%と比較して高くなっています。

問 10 必要な支援を受けることができず、地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちが、あなたが暮らす地域にいるかどうかを知っていますか。
(ひとつだけ○)

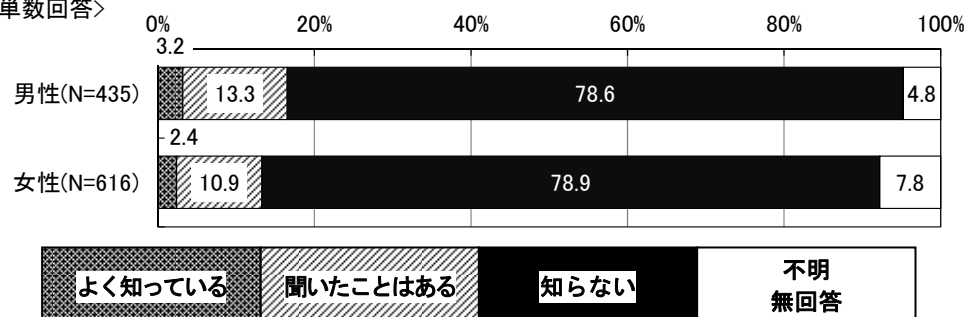
＜単数回答＞



「知らない」が 78.6%と最も高く、次いで「聞いたことはある」が 11.6%、「よく知っている」が 2.8%となっています。

【性別グラフ】

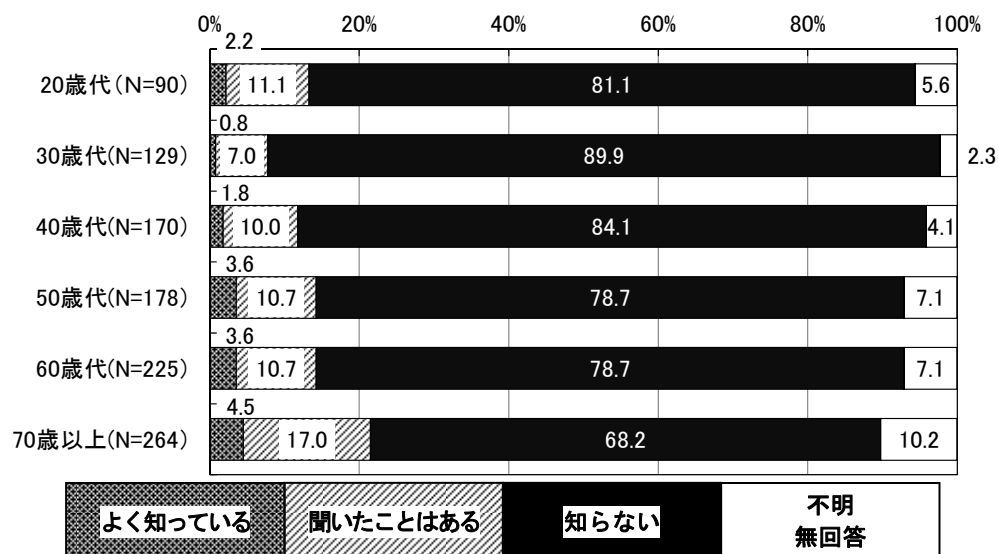
＜単数回答＞



性別にみると、男女ともに「知らない」の割合が約8割になっており、「聞いたことはある」の割合が男性 13.3%、女性 10.9%と女性より男性の方が「聞いたことはある」の割合が高くなっています。

【年齢別グラフ】

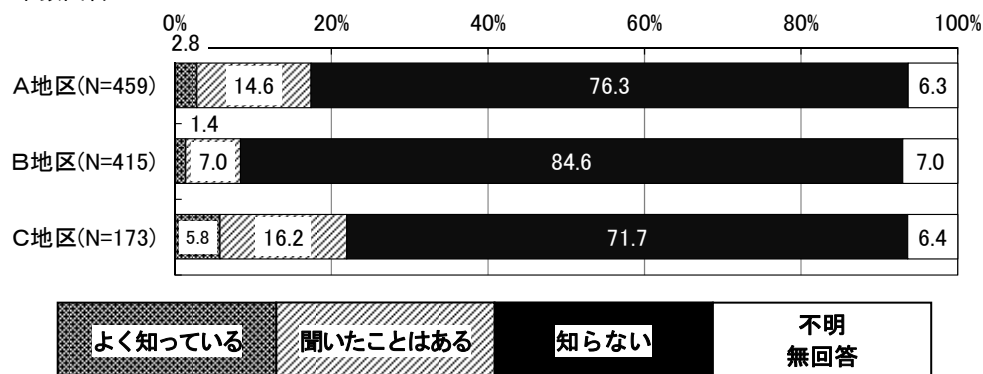
<単数回答>



年齢別でみると、30 歳代が 89.9%で最も高く、70 歳以上が最も低く 68.2%となっています。

【居住地区別グラフ】

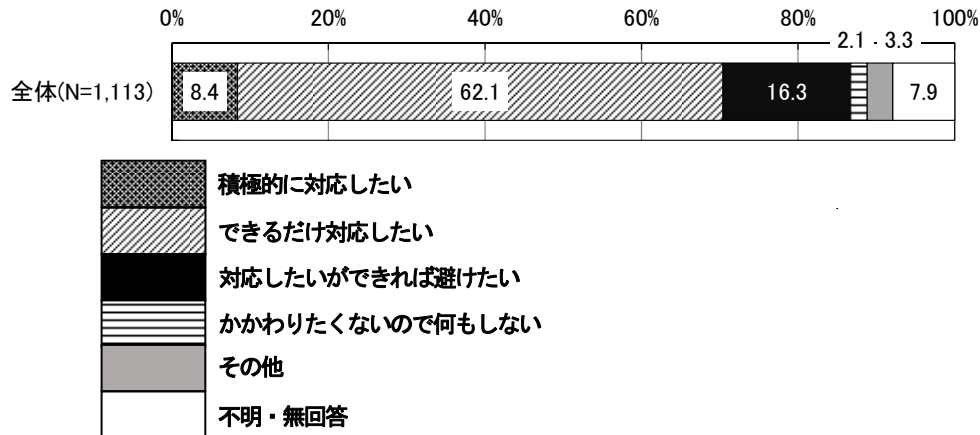
<単数回答>



居住地区別でみると、C 地区で 71.7%の人が「知らない」と回答しており、以下、A 地区の 76.3%、B 地区の 84.6%の順で、その割合が高くなっています。

問 11 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。(ひとつだけ○)

<単数回答>



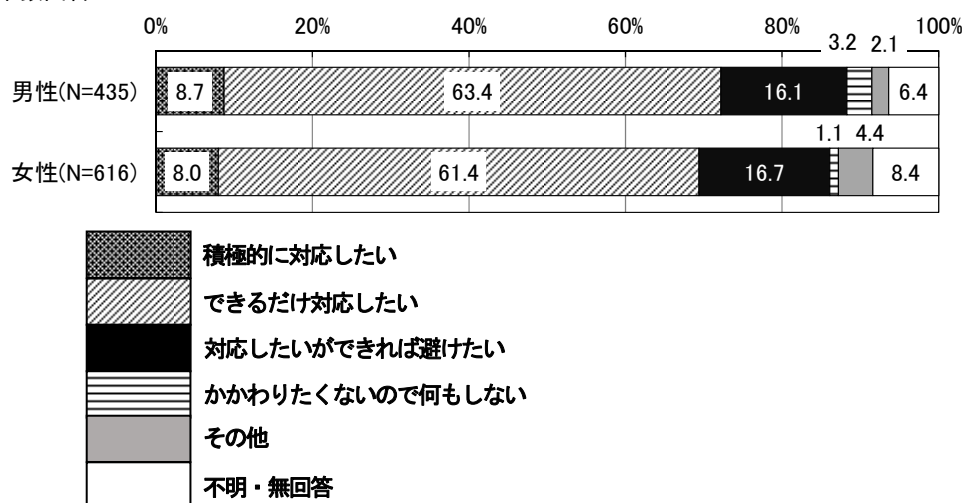
「できるだけ対応したい」が62.1%と最も高く、次いで「対応したいができれば避けたい」が16.3%、「積極的に対応したい」が8.4%となっています。

その他回答

- ・仕事をしていて忙しいのですが、頼まれれば自分のできる範囲であれば
- ・時間など自分の生活に支障のない範囲内で
- ・対応したいと思うが、その場面になってみないとわからない
- ・助けの内容次第では
- ・困りごとの内容による
- ・話を聞いて決めたい
- ・対応したいが、まず民生委員に相談する
- ・話を聞く
- ・知っている人であれば対応するが、知らない人であればあまり対応できない
- ・知り合いなら積極的に対応するが、知らない人ならできれば避けたい
- ・相手によって積極的に対応したり、全くしなかったりすると思う
- ・人によっては対応の方法がわからないから
- ・80歳にもなって何もできない
- ・今は体調が不自由。以前は「積極的に対応したい」だった
- ・自分自身に障害があり、家族も大変で他の人まで助けられない
- ・自分たちも優れないので他人のだんではない
- ・対応したいが自分のことで精一杯
- ・求職中なので仕事を探すのが先
- ・余裕がない
- ・自分が病んでしまっている
- ・そのようなお付き合いをしている人がいない
- ・現在は寮暮らしなので自宅にほとんどいない

【性別グラフ】

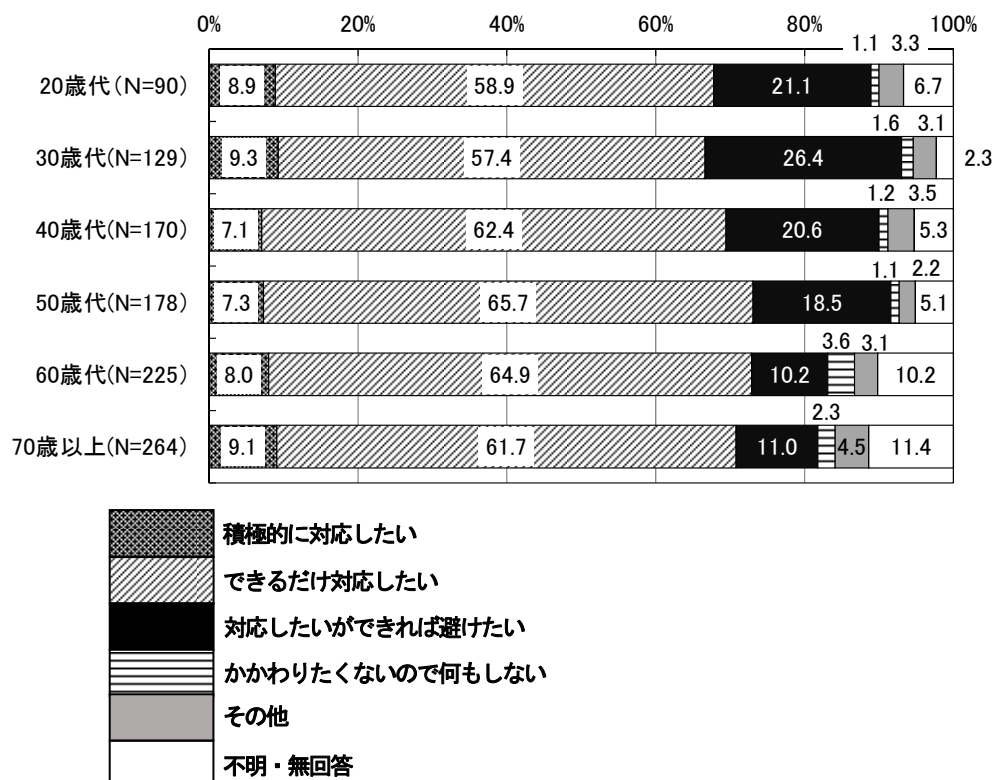
<単数回答>



性別にみると、男女ともに「できるだけ対応したい」の割合が最も高く、男性 63.4%、女性 61.4%と男性がわずかに高くなっています。

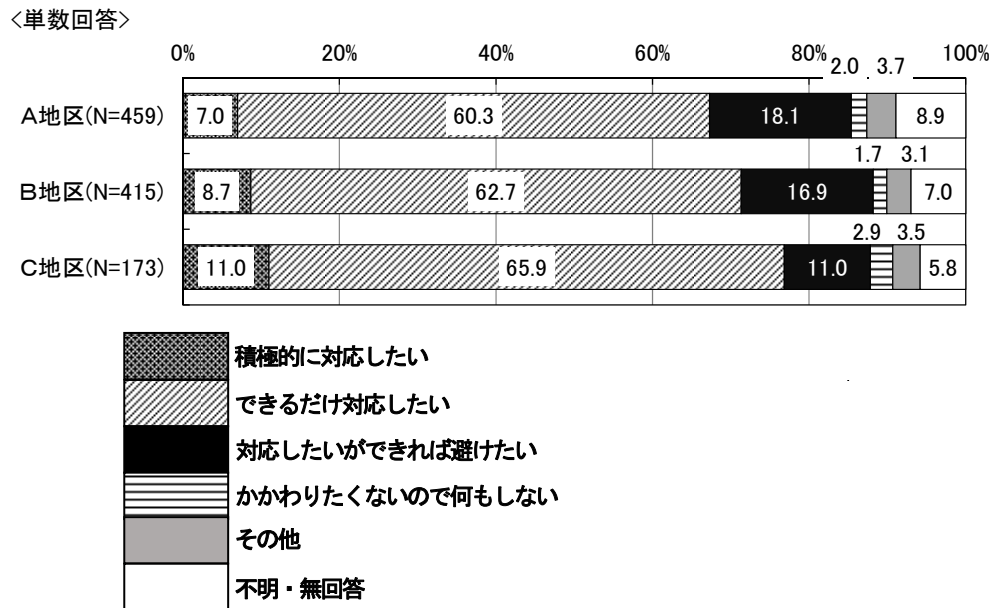
【年齢別グラフ】

<単数回答>



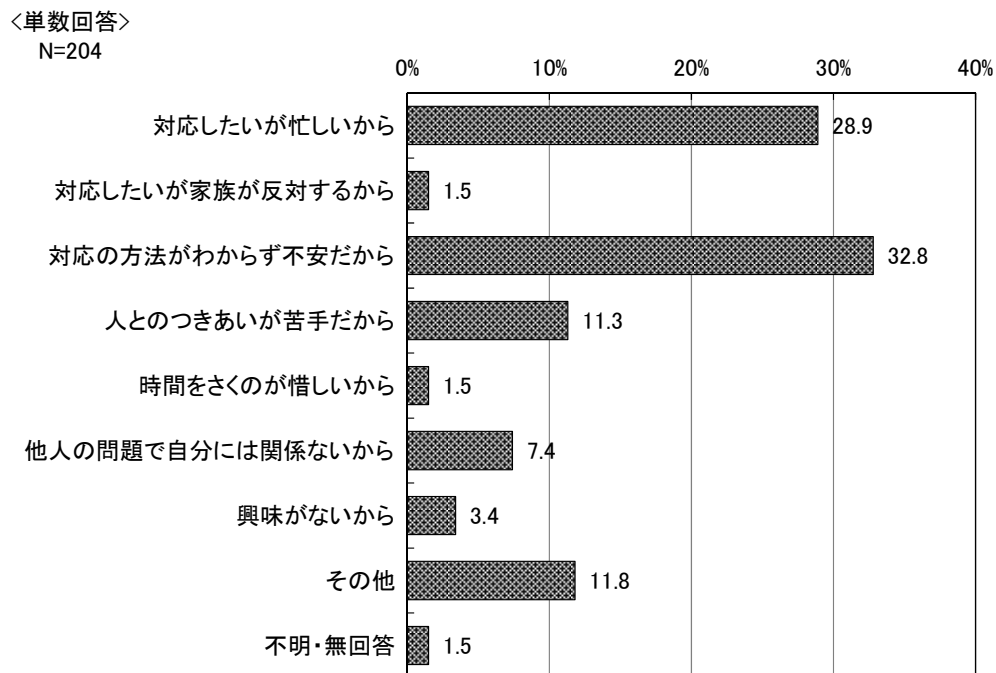
年齢別にみると、すべての年齢で「できるだけ対応したい」と回答した人の割合が最も高くなっています。

【居住地区別グラフ】



居住地区別にみると、「できるだけ対応したい」と回答した人の割合が最も高く、A地区が60.3%、B地区が62.7%、C地区が65.9%となっています。

問 11-1 対応したいができれば避けたい、かかわりたくないのでもしないと考えるのはどのような理由からですか。（ひとつだけ○）



「対応の方法がわからず不安だから」が32.8%と最も高く、次いで「対応したいが忙しいから」が28.9%となっています。

その他回答

- 体力がない
- 高齢のため
- 対応したいが持病があるため
- 自分が思うように動けない
- 自分が障害者です
- 自分の体調不良
- 弱視のため
- 病気

- 対応したいが実家に高齢者がいるため
- 母の介護をしているから

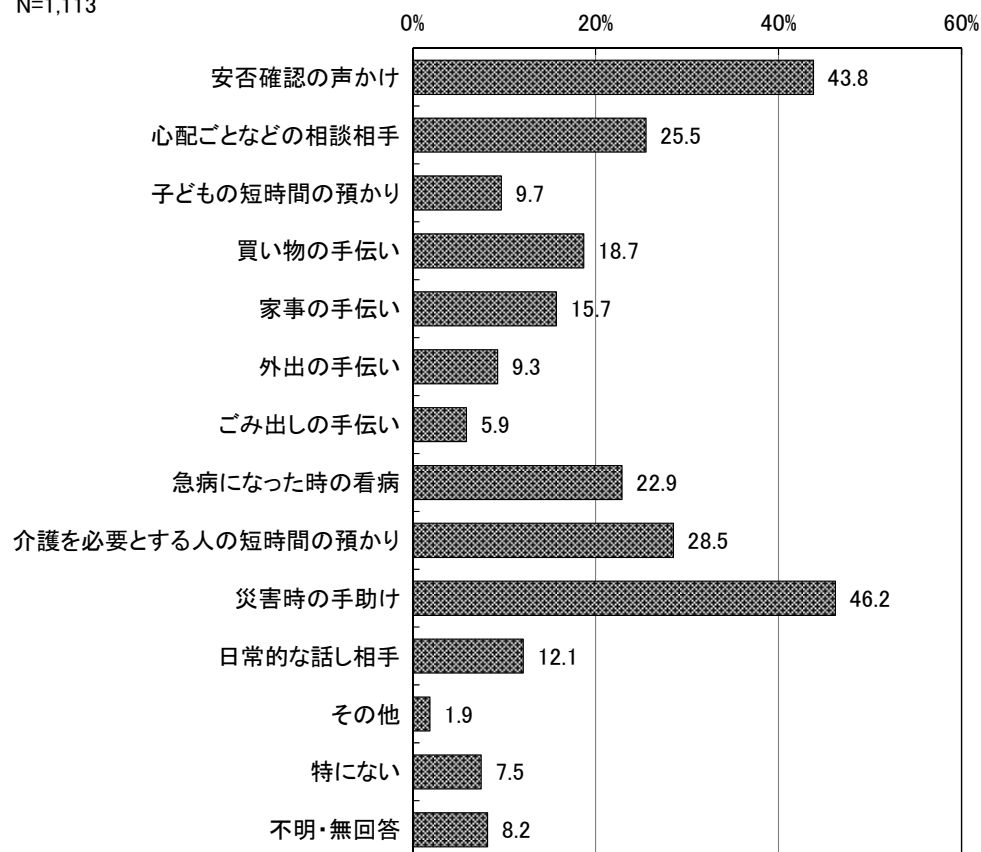
- 自分たちも優れないので他人のだんではない
- 高齢のため、自分のことで精一杯
- 自分のことをするだけで精一杯
- 自分の生活が苦しい

- どのようにしてよいかわからない
- 関わり合い方による

- もめごとに巻き込まれたくない
- 相手が問題を起こすことが多い
- お金にしろ考え方にしろ自分で決めること
- 他人からの支援は気を遣う

問 12 あなたやご家族に助けが必要になった時、どのような支援をしてほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞
N=1,113



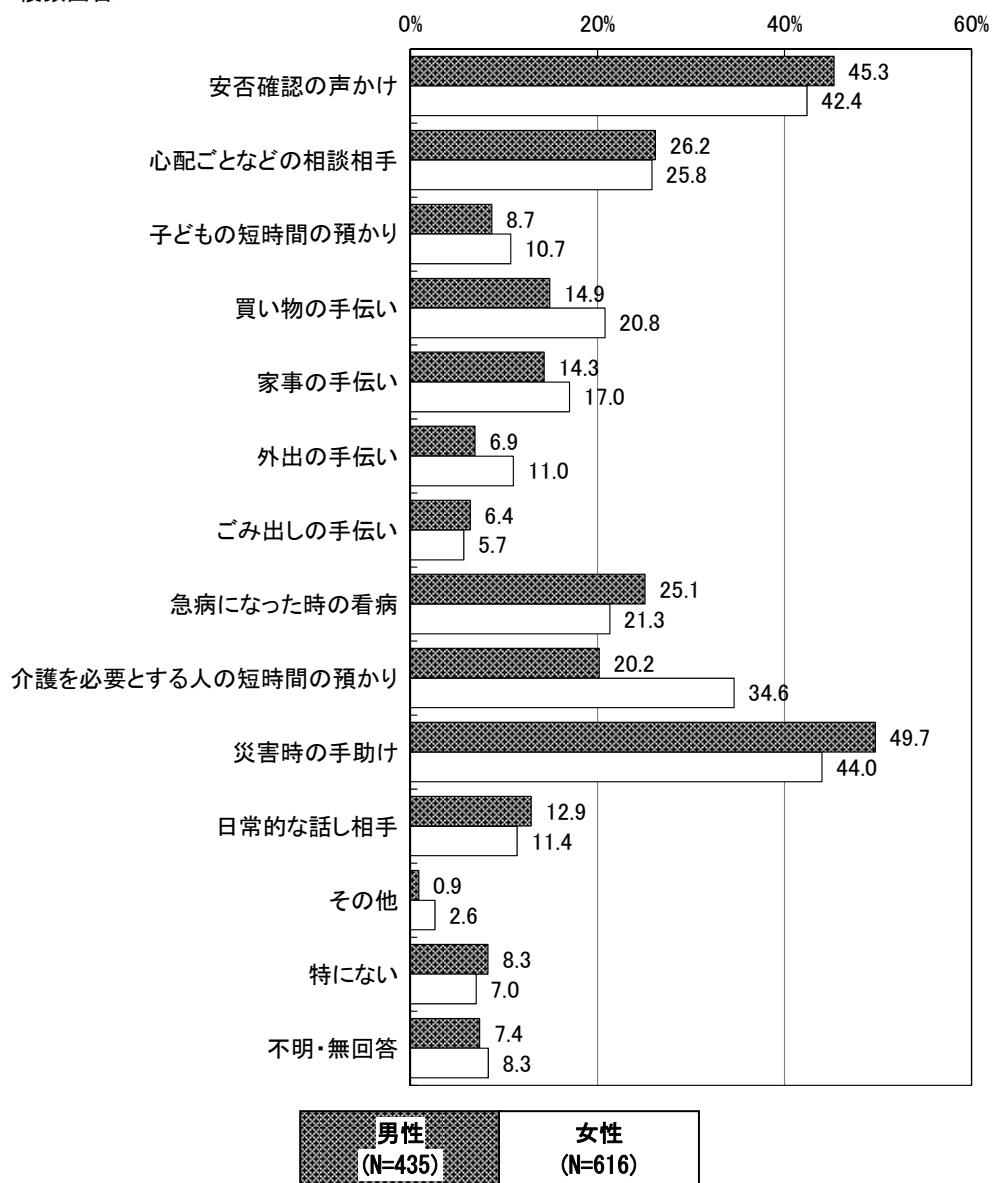
「災害時の手助け」が 46.2%と最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が 43.8%、「介護を必要とする人の短時間の預かり」が 28.5%となっています。

その他回答

- ・グループホームなどの入居の世話
- ・病院や施設の紹介
- ・その時に応じて変わるだろうから、上手くイメージできない
- ・今は必要としていないので先で考える
- ・その時にならないとわからない
- ・今言われてもよくわからない
- ・現在ではわからない
- ・時と場合による

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女ともに「災害時の手助け」が最も高く、女性では 44.0%、男性では 49.7%と、男性の方がわずかに高くなっています。また、女性では「買い物の手伝い」、「介護を必要とする人の短時間の預かり」において男性と比較して割合が高くなっています。

【年齢別表】

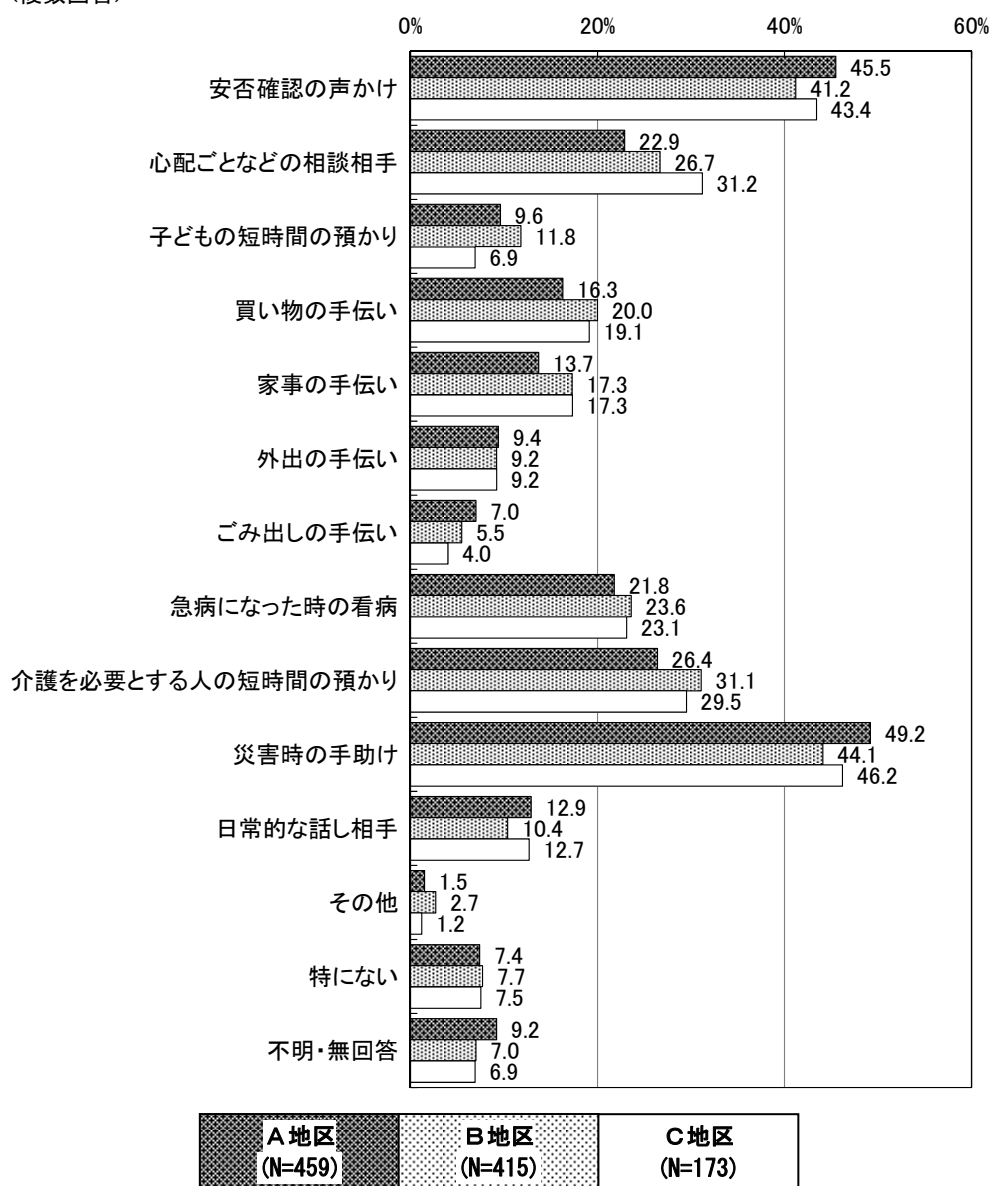
単位：％

〈複数回答〉	安否確認の声かけ	心配ごとなどの相談相手	子どもの短時間の預かり	買い物の手伝い	家事の手伝い	外出の手伝い	ごみ出しの手伝い
20 歳代 (N=90)	53.3	28.9	12.2	20.0	17.8	11.1	4.4
30 歳代 (N=129)	44.2	25.6	34.1	19.4	17.1	11.6	9.3
40 歳代 (N=170)	40.6	32.9	14.1	18.2	18.2	11.8	5.9
50 歳代 (N=178)	38.8	24.7	7.9	14.6	15.7	7.9	3.4
60 歳代 (N=225)	44.0	19.6	3.6	17.3	11.6	8.4	5.8
70 歳以上 (N=264)	45.1	26.5	1.5	20.5	16.7	7.6	6.8
〈複数回答〉	急病になった時の看病	介護を必要とする人の短時間の預かり	災害時の手助け	日常的な話し相手	その他	特にない	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	23.3	24.4	55.6	21.1	3.3	3.3	8.9
30 歳代 (N=129)	20.9	35.7	58.1	10.1	0.0	5.4	6.2
40 歳代 (N=170)	24.1	37.1	48.8	10.6	1.2	5.3	7.6
50 歳代 (N=178)	19.7	36.5	48.3	9.0	1.7	9.6	7.3
60 歳代 (N=225)	18.2	28.4	46.2	11.6	3.1	10.7	6.7
70 歳以上 (N=264)	28.8	16.3	36.0	13.3	1.9	7.2	9.8

年齢別にみると、20 歳代～60 歳代では「災害時の手助け」と回答した人の割合が高くなっています。また 70 歳以上では「安否確認の声かけ」の割合が 45.1%と高くなっています。

【居住地区別グラフ】

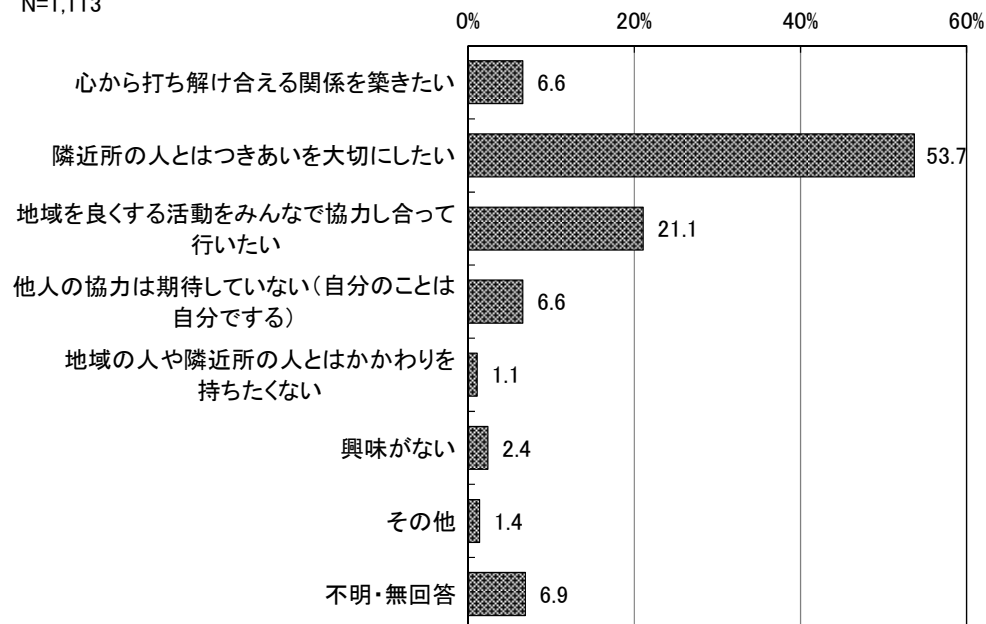
＜複数回答＞



居住地区別にみると、すべての居住地区で「災害時の手助け」の割合が高くなっています。次いですべての居住地区で「安否確認の声かけ」の割合が高くなっています。

問 13 地域での人と人のかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。（ひとつだけ○）

＜単数回答＞
N=1,113



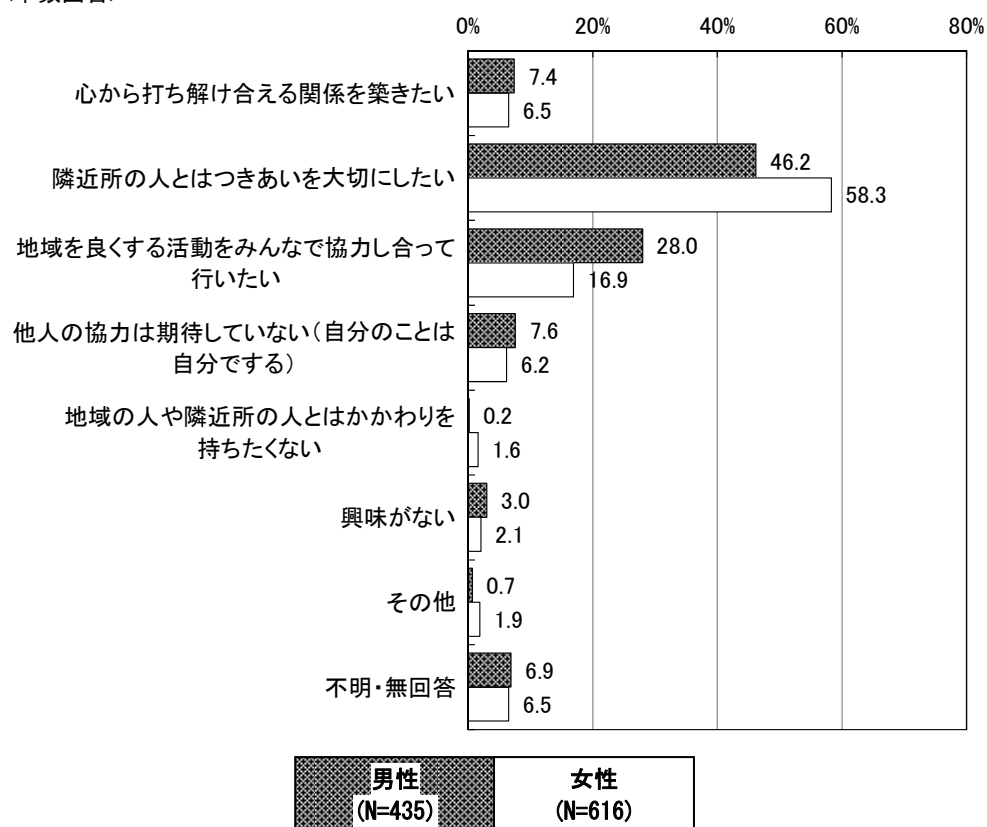
「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が53.7%と最も高く、次いで「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」が21.1%、「心から打ち解け合える関係を築きたい」、「他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）」が6.6%となっています。

その他回答

- ・今現在、特別関わりは必要ないが、仕事を退職前に始める
- ・関わりたいが経済的に余裕がない
- ・深すぎた付き合いはしたくない
- ・協力しなければいけないことは協力するが、深く付き合いおうとは思わない
- ・隣近所とはもめごとなく過ごしたい
- ・マンションなので付き合いはない
- ・ある程度の距離を保った関係

【性別グラフ】

＜単数回答＞



性別にみると、男女ともに「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」が最も高く、女性では58.3%、男性では46.2%と、女性の方がやや高くなっています。また、男性では「地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい」の割合が、女性と比較して高くなっています。

【年齢別表】

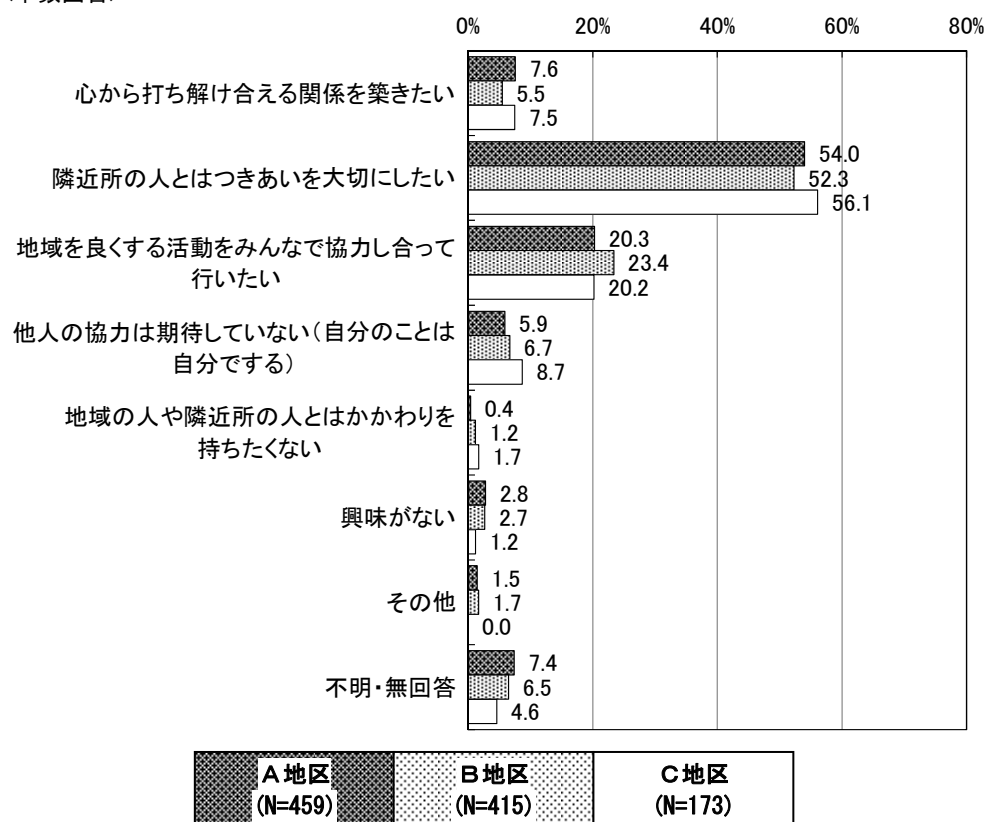
単位：％

＜単数回答＞	心から打ち解け合える関係を築きたい	隣近所の人とはつきあいを大切にしたい	地域を良くする活動をみんなで行いたい	他人の協力は期待していない （自分のことは自分でする）	地域の人や隣近所の人とは かわりを持ちたくない	興味がない	その他	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	6.7	50.0	20.0	6.7	1.1	8.9	1.1	5.6
30 歳代 (N=129)	6.2	51.2	28.7	4.7	0.8	1.6	3.1	3.9
40 歳代 (N=170)	6.5	50.6	22.4	5.3	1.8	2.9	2.9	7.6
50 歳代 (N=178)	6.2	44.9	29.8	7.9	1.1	2.2	1.1	6.7
60 歳代 (N=225)	6.7	56.4	20.0	8.0	1.3	1.3	0.0	6.2
70 歳以上 (N=264)	8.0	61.0	13.3	6.8	0.4	1.5	1.1	8.0

年齢別にみると、「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」と回答した人の割合が、どの年齢においても最も高く、70 歳以上では 61.0％と他の年齢と比較してやや高くなっています。

【居住地区別グラフ】

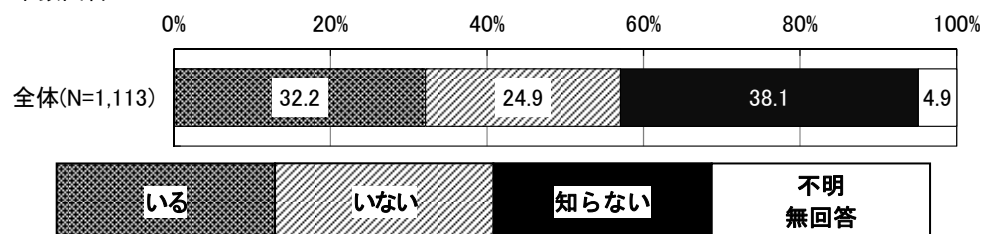
<単数回答>



居住地区別にみると「隣近所の人とはつきあいを大切にしたい」の割合がどの居住地区でも最も高くなっていますが、居住地区間では特に大きな差は見られませんでした。

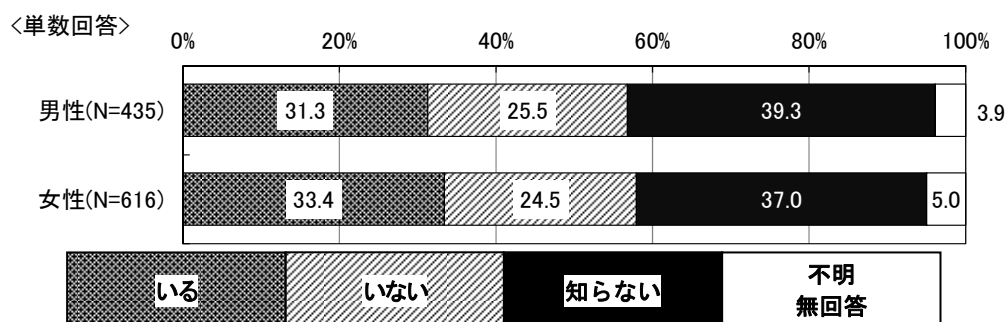
問 14 ひとり暮らしの高齢者など、災害発生時に気になる人が地域にいますか。 (ひとつだけ○)

<単数回答>



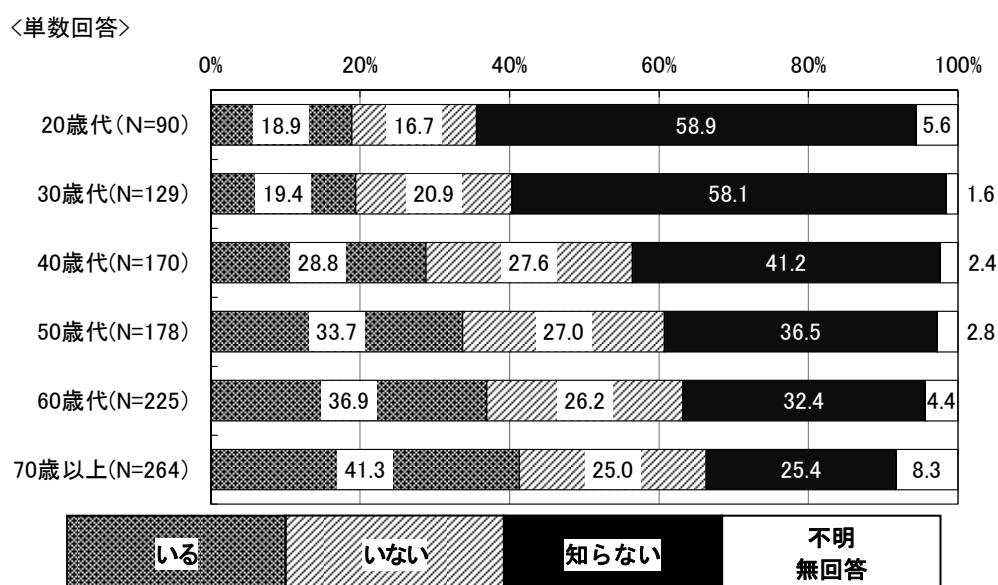
「知らない」が38.1%と最も高く、次いで「いる」が32.2%、「いない」が24.9%となっています。

【性別グラフ】



性別にみると、男女ともに「知らない」の割合が男性 39.3%、女性 37.0%と最も高くなっており、「いる」の割合が男女ともに約3割で、「いない」と比較して高くなっています。

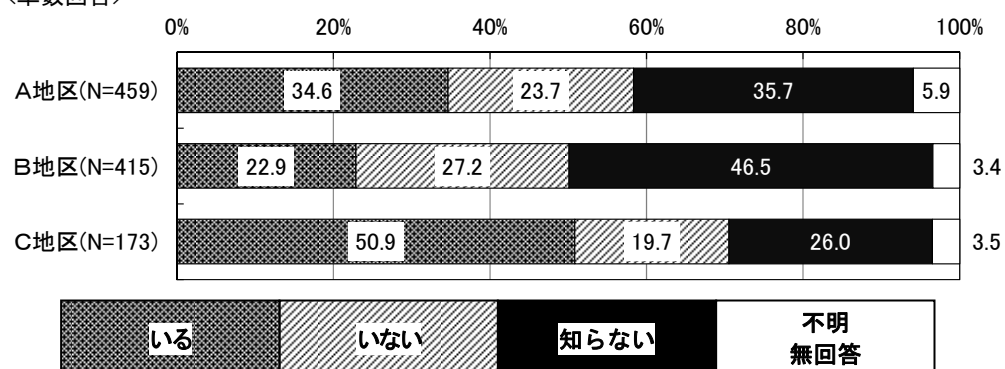
【年齢別グラフ】



年齢別にみると、20歳代～40歳代では「知らない」の割合が高くなっています。60歳代、70歳以上では、「いる」の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

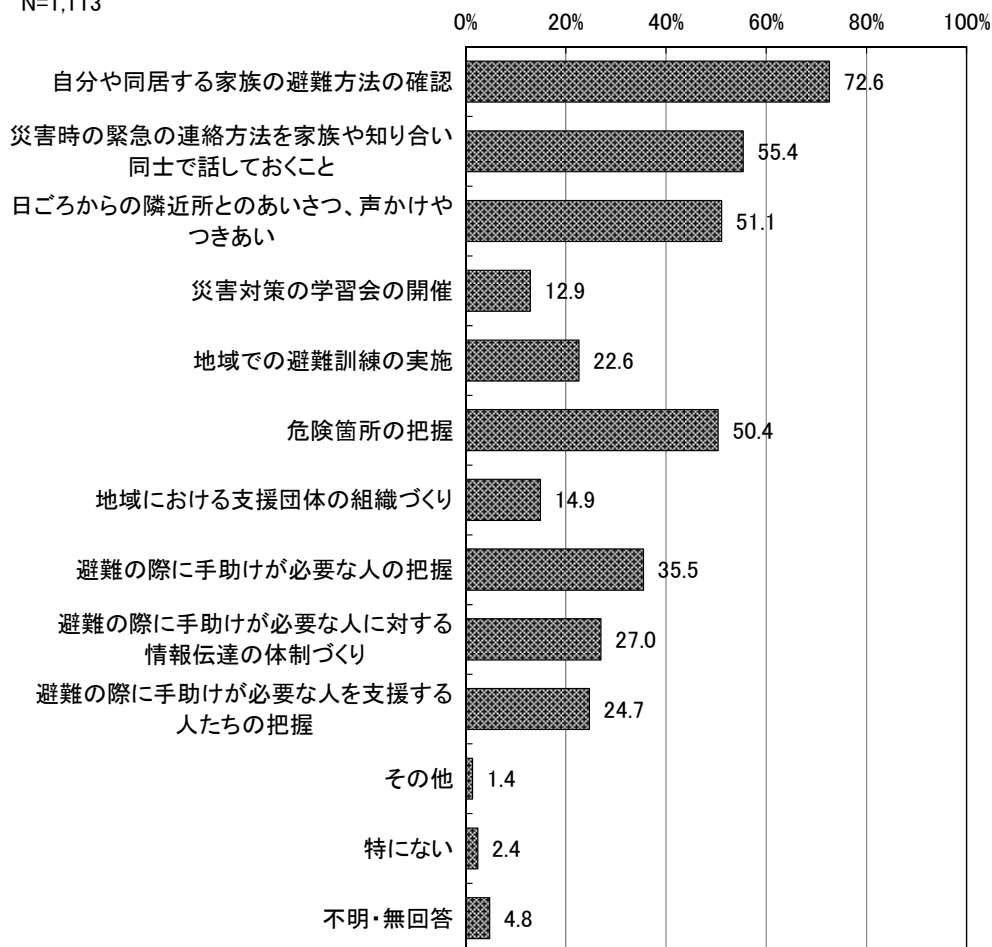
<単数回答>



居住地区別にみると、C地区では「いる」の割合が50.9%と最も高くA地区、B地区では「知らない」の割合が高くなっています。

問 15 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞
N=1,113



「自分や同居する家族の避難方法の確認」が72.6%と最も高く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が55.4%、「日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい」が51.1%となっています。

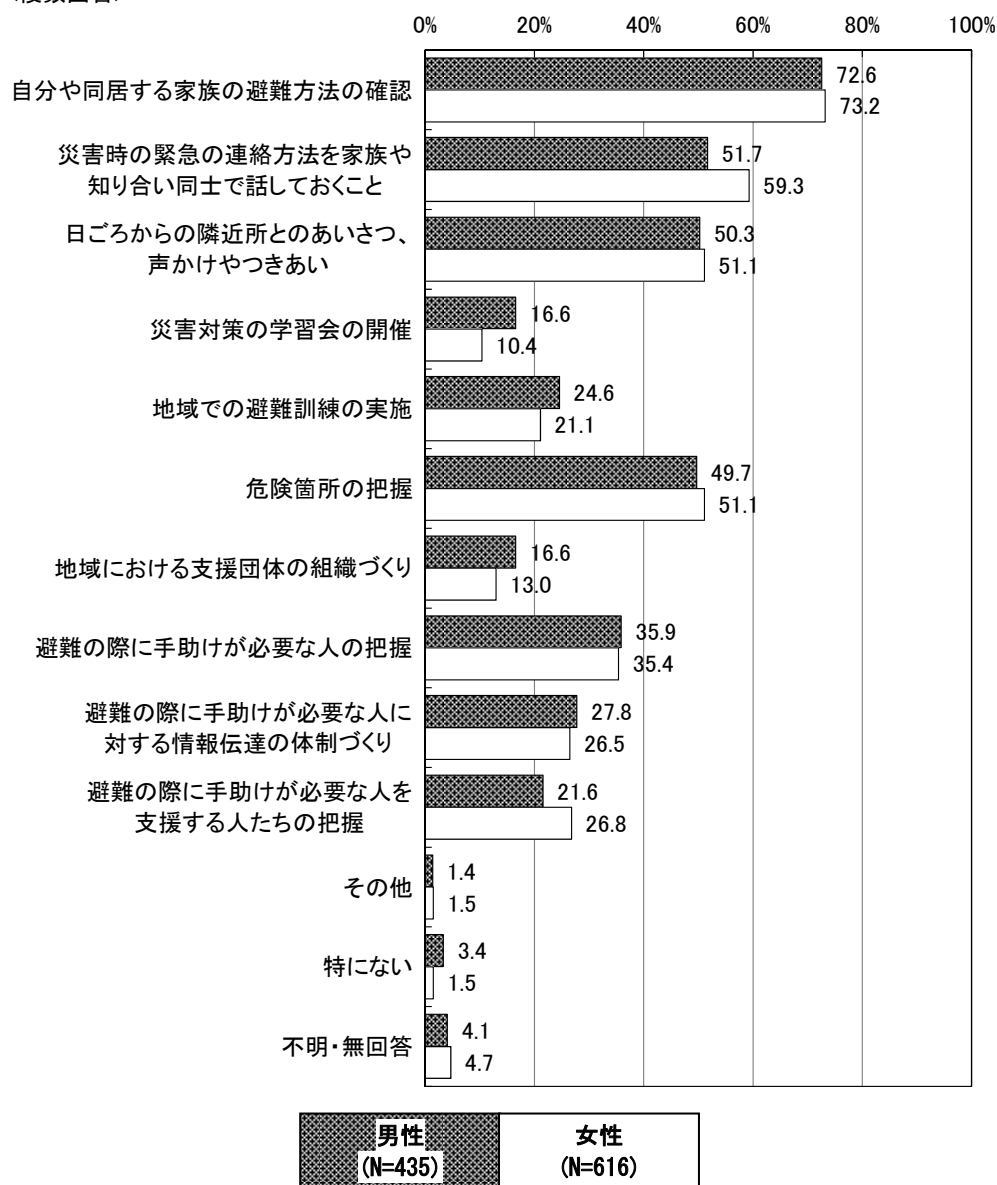
その他回答

- ・個人の準備
- ・緊急時のガイドラインの作成及び小郡市から市民への周知徹底、市民が安心して暮らせるためのインフラ整備、宝満川のハザードマップ
- ・地域の細分化をし、ハザードマップなどの作成
- ・災害規模の想定
- ・これまでの事例を参考に、できることすべての備え・考え得る危険への備え
- ・連絡するも携帯が繋がらない場合の解消。公的には食の供給に対する処置
- ・食料や水の確保
- ・AED等の設置場所の確認

- 自治会の班、校区単位での防災組織づくり
- 学習会は役員レベルだけで把握していても意味がないので、住民への話し合いは各公民館で学習する場が必要だと思う。その時にどんな人が住んでいるのかわかると思う
- 全部必要。特にボランティアではなくて有償ボランティアが有効

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女とも「自分や同居する家族の避難方法の確認」の割合が最も高く、男性 72.6%、女性 73.2%となっています。次いで、「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が男性 51.7%、女性 59.3%と女性の方が男性よりも割合が高くなっています。

【年齢別表】

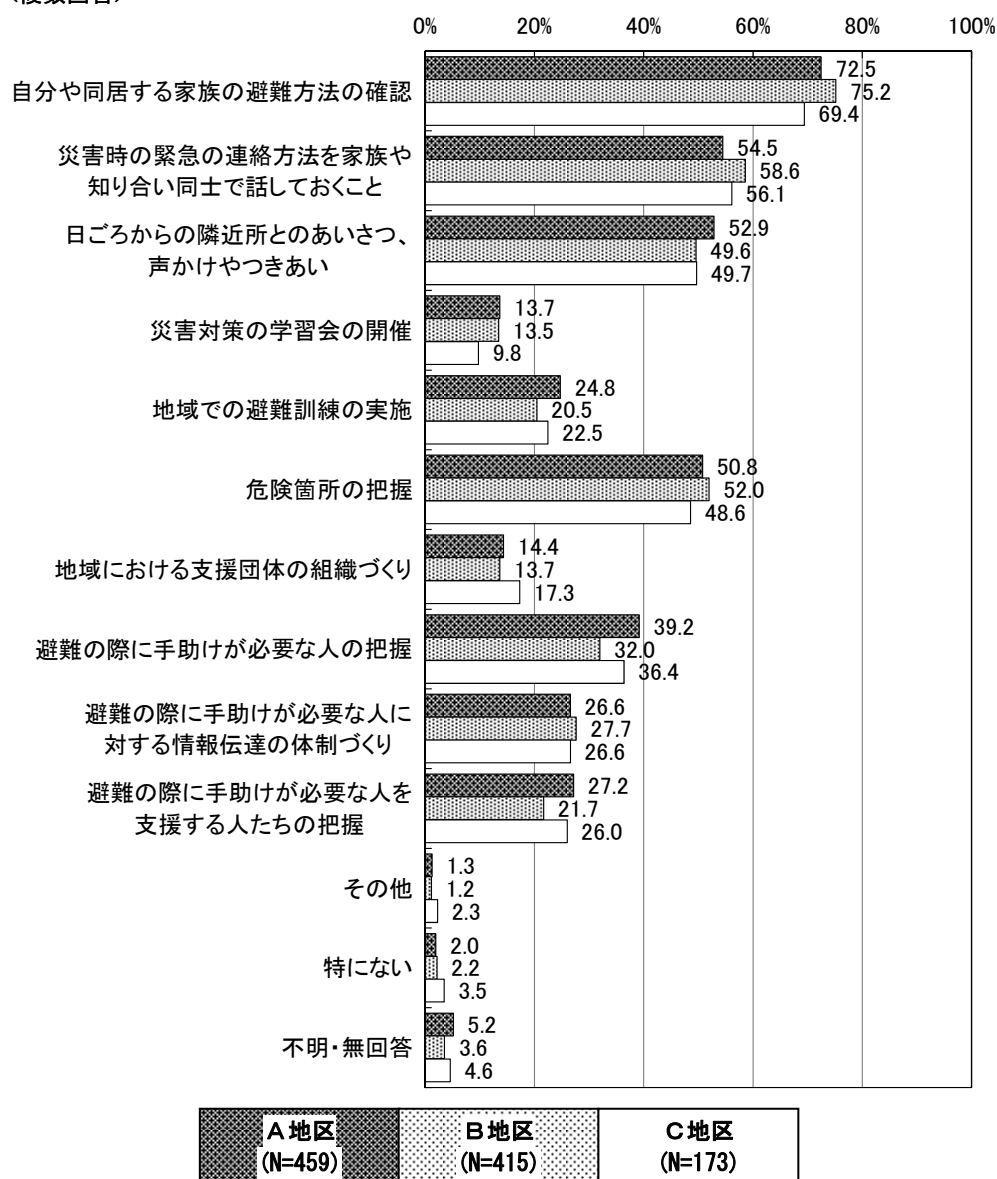
単位：％

＜複数回答＞	自分や同居する家族の 避難方法の確認	災害時の緊急の連絡方法を 家族や知り合い同士で話して おくこと	日ごろからの隣近所との あいさつ、声かけやつきあい	災害対策の学習会の開催	地域での避難訓練の実施	危険箇所の把握	地域における支援団体の組織 づくり
20 歳代 (N=90)	75.6	56.7	44.4	13.3	18.9	56.7	8.9
30 歳代 (N=129)	86.8	66.7	42.6	20.9	24.8	66.7	24.8
40 歳代 (N=170)	83.5	58.8	47.6	12.9	18.2	57.6	14.7
50 歳代 (N=178)	74.2	62.4	50.0	11.8	24.7	51.1	11.8
60 歳代 (N=225)	67.1	52.9	53.8	12.4	23.1	46.7	14.7
70 歳以上 (N=264)	62.9	47.3	58.0	10.2	23.9	39.4	13.6
＜複数回答＞	避難の際に手助けが必要な 人の把握	避難の際に手助けが必要な 人に対する情報伝達の 体制づくり	避難の際に手助けが必要な 人を支援する人たちの把握	その他	特にない	不明・無回答	
20 歳代 (N=90)	42.2	30.0	23.3	1.1	1.1	5.6	
30 歳代 (N=129)	45.0	34.1	35.7	1.6	0.8	0.8	
40 歳代 (N=170)	32.4	30.6	21.2	0.6	0.0	2.9	
50 歳代 (N=178)	37.1	29.8	24.2	2.2	2.2	3.4	
60 歳代 (N=225)	34.2	24.9	24.4	1.3	2.7	5.3	
70 歳以上 (N=264)	31.8	20.5	23.1	1.5	4.5	6.8	

年齢別にみると、すべての年齢で、「自分や同居する家族の避難方法の確認」と回答した人の割合が最も高く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」と回答した人の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

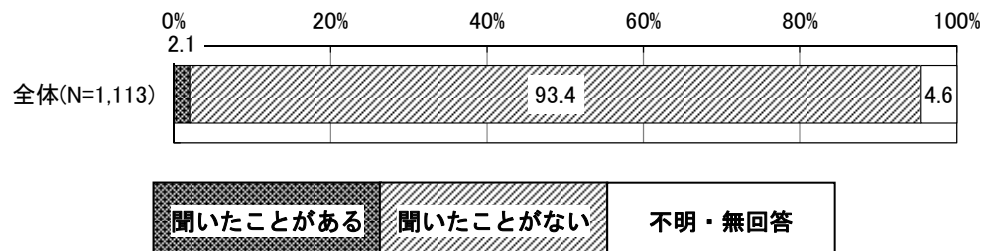
＜複数回答＞



居住地区別にみると、「自分や同居する家族の避難方法の確認」と回答した人の割合がすべての居住地区で最も高く、次いで「災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が高くなっています。また、「危険箇所の把握」の割合が約5割となっています。

問 16 あなたがお住まいの地域の出来事として、高齢者に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。(ひとつだけ○)

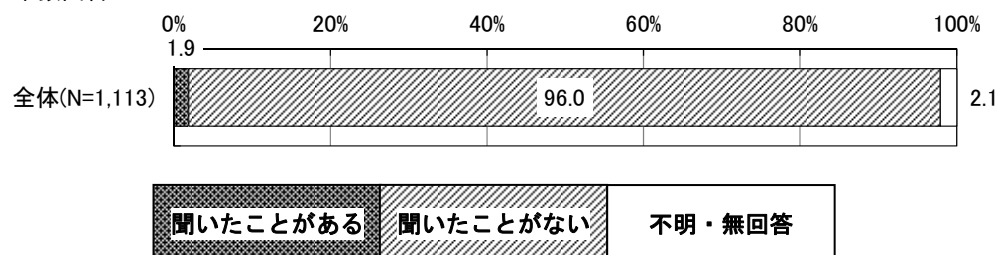
＜単数回答＞



「聞いたことがない」が93.4%、「聞いたことがある」が2.1%となっています。

問 17 あなたがお住まいの地域の出来事として、子どもに対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。(ひとつだけ○)

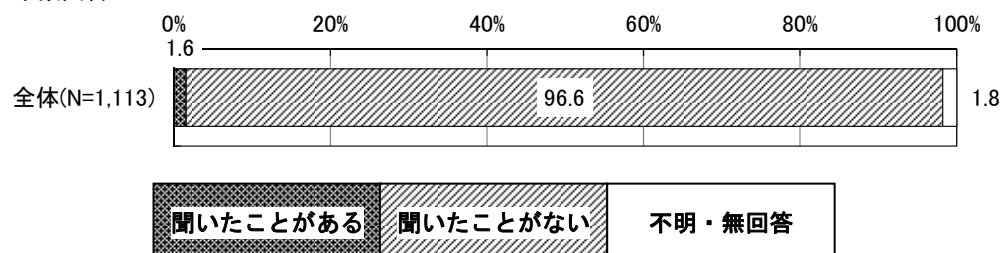
＜単数回答＞



「聞いたことがない」が96.0%、「聞いたことがある」が1.9%となっています。

問 18 あなたがお住まいの地域の出来事として、障害のある人に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。(ひとつだけ○)

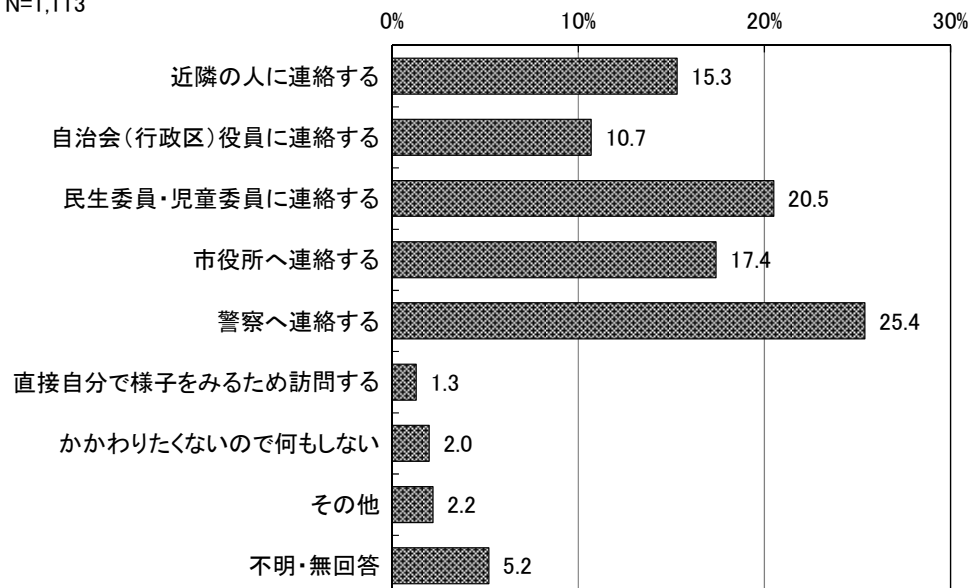
＜単数回答＞



「聞いたことがない」が96.6%、「聞いたことがある」が1.6%となっています。

**問 19 もしあなたの周囲で、虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初
にどのように対応しますか。（ひとつだけ○）**

＜単数回答＞
N=1,113



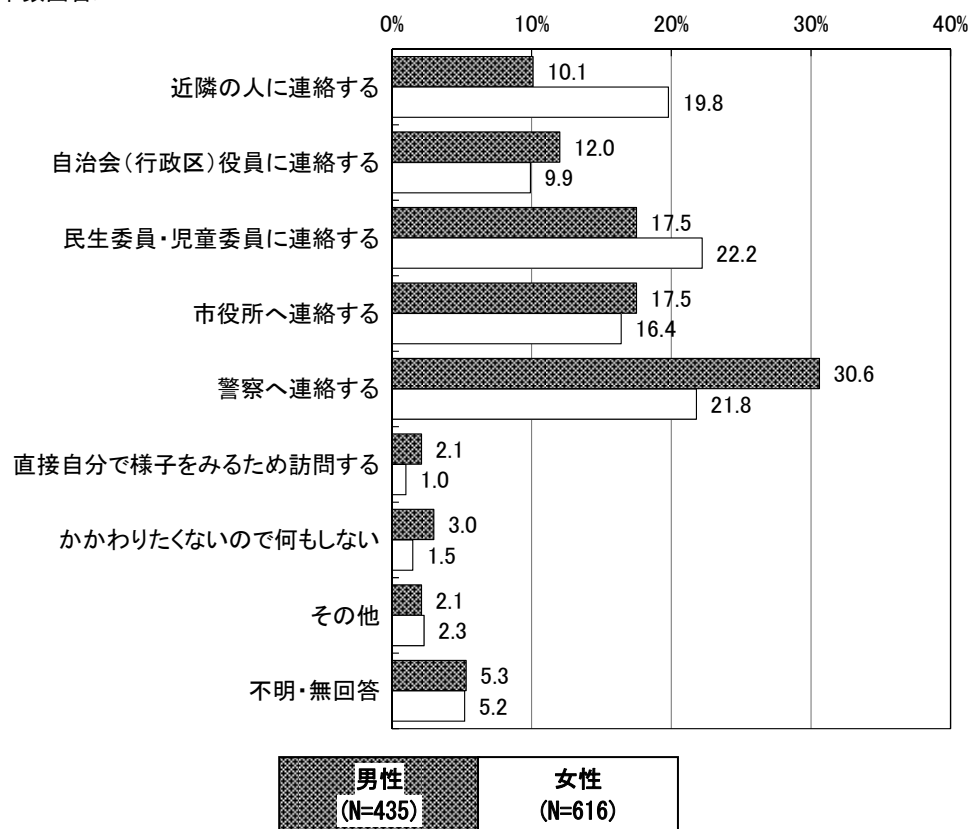
「警察へ連絡する」が 25.4%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員に連絡する」が 20.5%、「市役所へ連絡する」が 17.4%となっています。

その他回答

- ・ 包括支援センター、福祉事務所へ相談
- ・ 児童相談所へ連絡
- ・ 虐待とははっきり分かれば警察へ連絡する。あいまいな場合は様子をみる
- ・ 家族や親戚に相談
- ・ 家族、友達に相談
- ・ 家族に相談する
- ・ 近所の人に相談
- ・ 知人に電話する
- ・ 学校へ相談する
- ・ その時の状況
- ・ どの方法がいいかわからない
- ・ 様子をみる
- ・ 正しい連絡先がわからない

【性別グラフ】

＜単数回答＞



性別にみると、男性では「警察に連絡する」の割合が最も高く 30.6%（女性は 21.8%）であるのに対し、女性では「民生委員・児童委員に連絡する」が最も高く 22.2%（男性は 17.5%）で、男女間で差がみられます。また、「近隣の人に連絡する」についても男女間で差が生じています。

【年齢別表】

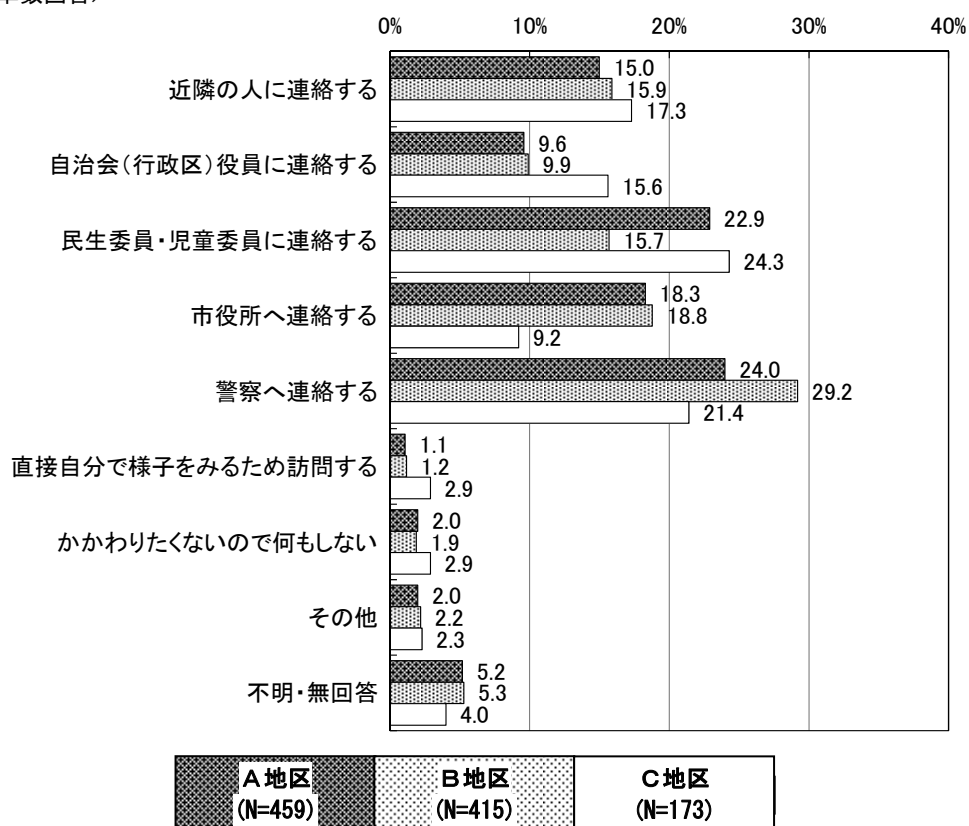
単位：％

〈複数回答〉	近隣の人に連絡する	自治会（行政区）役員に連絡する	民生委員・児童委員に連絡する	市役所へ連絡する	警察へ連絡する	直接自分で様子をみるため訪問する	かかりたくないのかもしない	その他	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	17.8	1.1	4.4	17.8	40.0	3.3	4.4	4.4	6.7
30 歳代 (N=129)	17.1	4.7	10.1	23.3	32.6	0.0	2.3	7.0	3.1
40 歳代 (N=170)	22.4	5.9	7.1	28.2	28.2	0.6	1.2	2.4	4.1
50 歳代 (N=178)	14.0	14.6	19.7	17.4	26.4	2.2	2.2	0.0	3.4
60 歳代 (N=225)	14.2	12.4	26.7	13.3	24.4	0.4	2.2	0.0	6.2
70 歳以上 (N=264)	12.9	15.9	33.7	9.1	15.5	2.3	1.5	2.3	6.8

年齢別にみると、20 歳代から 50 歳代の年齢では、「警察へ連絡する」と回答した人の割合が最も高く、60 歳代、70 歳以上の年齢では、「民生委員・児童委員に連絡する」と回答した人の割合が高くなっています。また 40 歳代では、「市役所へ連絡する」と回答した人の割合も高くなっています。

【居住地区別グラフ】

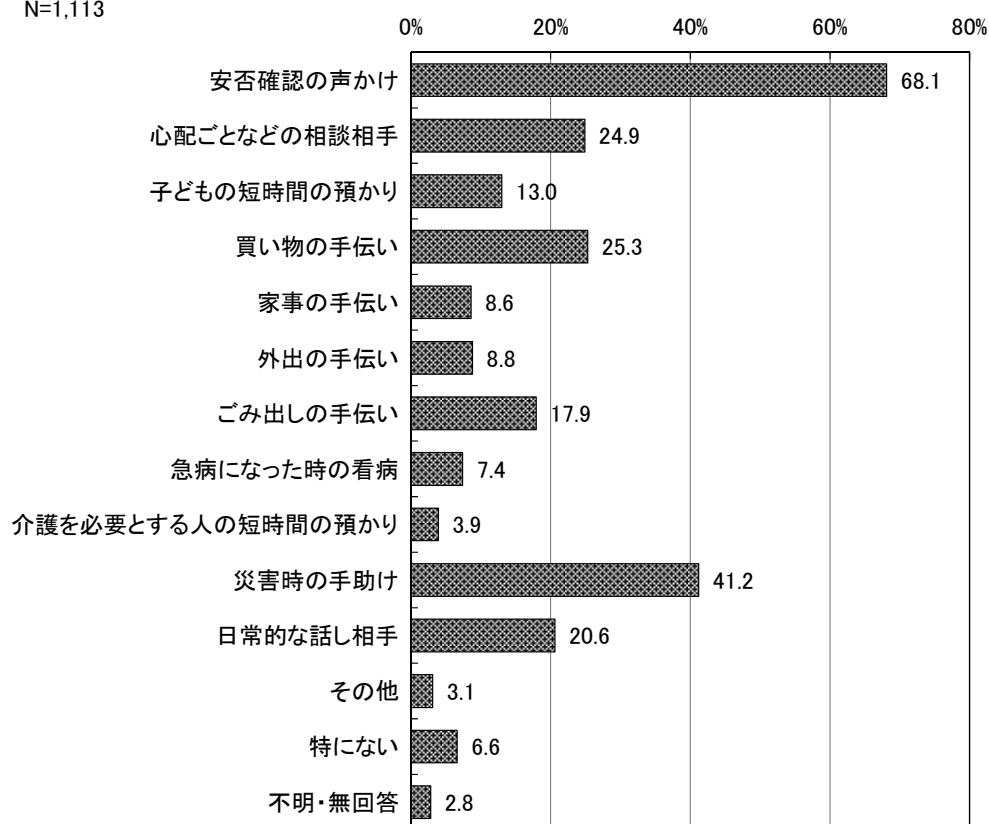
＜単数回答＞



住居地区別にみると、「警察へ連絡する」と回答した人の割合がA地区 24.0%、B地区 29.2%と最も高く、C地区では「民生委員・児童委員に連絡する」の割合が 24.3%と高くなっています。

問 20 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞
N=1,113



「安否確認の声かけ」が 68.1%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が 41.2%、「買い物の手伝い」が 25.3%となっています。

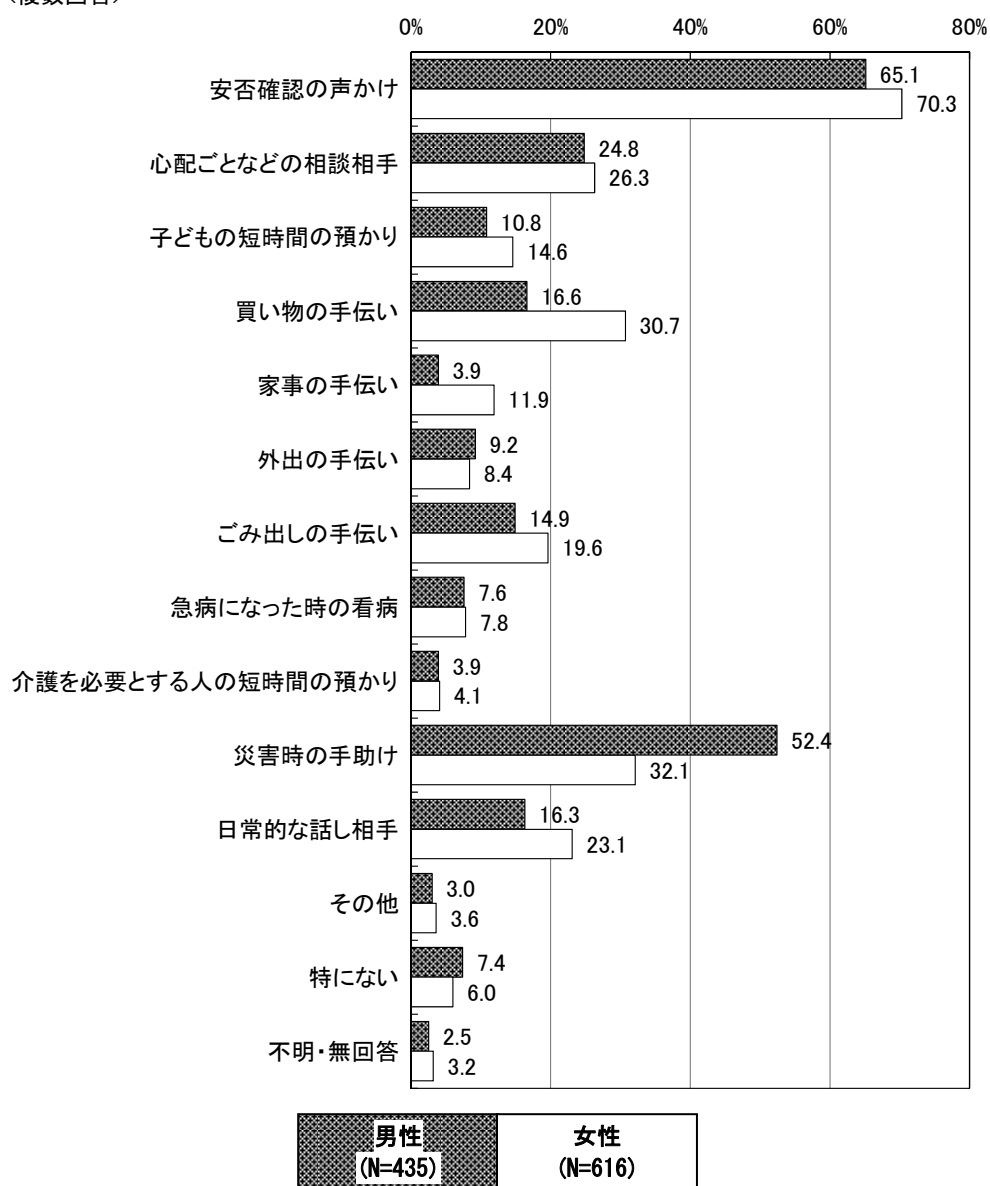
その他回答

- ・介護を必要とする人の介助
- ・困っていることを市役所などへ連絡してあげる
- ・どのような支援をしてほしいか聞く
- ・介護サービス（保険による）案内
- ・民生委員、市役所に連絡する
- ・行政を案内する、支援を求める
- ・その人との関係により、その時に頼まれたことをできるか否か判断する
- ・相手による。わからない
- ・話してから決める
- ・状況による
- ・困っている人の確認が難しい
- ・実際はわからない

- 人付き合いが苦手なのでどうしたらいいかわからない
- 自分には何ができるかわからない
- 自分が高齢者なのでわからない
- 私自身が 80 歳にもなって家事と畑をやっとしているので余裕がない
- 闘病中につき何もできない
- 自分自身のことで精一杯
- 何もできないと思う
- 自分自身が病気
- 余裕がない
- 障害者のためにできない

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女ともに「安否確認の声かけ」が最も高く、女性では70.3%、男性では65.1%と、女性の方がわずかに高くなっています。次いで「災害時の手助け」の割合が男性では52.4%、女性では32.1%と女性の方より男性の割合が高くなっています。

【年齢別表】

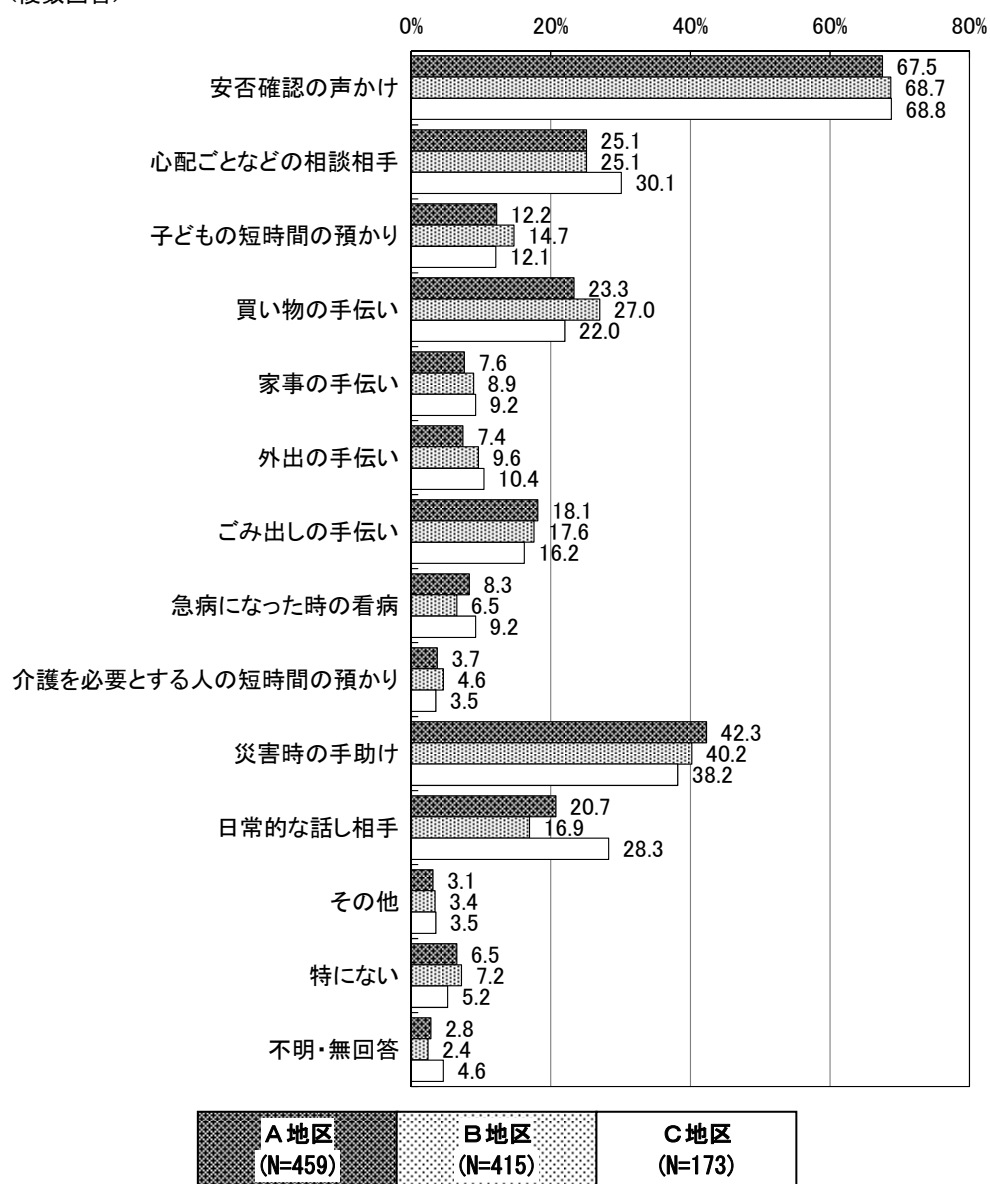
単位：％

〈複数回答〉	安否確認の声かけ	心配ごとなどの相談相手	子どもの短時間の預かり	買い物の手伝い	家事の手伝い	外出の手伝い	ごみ出しの手伝い
20 歳代 (N=90)	63.3	23.3	12.2	17.8	8.9	8.9	12.2
30 歳代 (N=129)	72.1	26.4	20.2	20.9	9.3	9.3	15.5
40 歳代 (N=170)	70.6	27.6	19.4	29.4	9.4	8.2	14.7
50 歳代 (N=178)	71.9	20.8	9.6	29.2	7.3	9.0	20.2
60 歳代 (N=225)	70.7	22.2	12.4	28.9	10.7	10.2	21.8
70 歳以上 (N=264)	61.7	30.7	8.3	19.3	6.1	7.2	17.4
〈複数回答〉	看病 急病になった時の	介護を必要とする 人の短時間の預かり	災害時の手助け	日常的な話し相手	その他	特にない	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	7.8	3.3	44.4	18.9	5.6	3.3	3.3
30 歳代 (N=129)	5.4	4.7	41.1	17.8	3.1	5.4	2.3
40 歳代 (N=170)	2.9	4.1	43.5	13.5	2.9	2.9	0.6
50 歳代 (N=178)	7.9	2.8	48.3	16.9	2.8	6.2	1.1
60 歳代 (N=225)	8.9	3.6	47.6	19.1	1.8	6.2	3.6
70 歳以上 (N=264)	10.6	4.9	26.5	29.5	4.5	11.0	5.3

年齢別にみると、すべての年齢で「安否確認の声かけ」の割合が高くなっています。次いで、20 歳代から 60 歳代では「災害時の手助け」、70 歳以上では「心配ごとなどの相談相手」と回答した人の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

＜複数回答＞

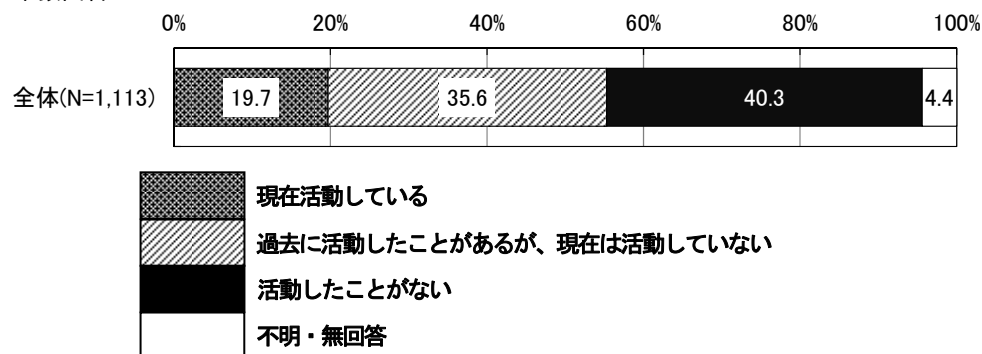


居住地区別にみると、すべての居住地区で「安否確認の声かけ」の割合が高くなっています。次いで、「災害時の手助け」の割合が高くなっています。

5. 地域活動やボランティア活動について

問 21 あなたは現在、自治会（行政区）や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をしていますか。（ひとつだけ○）

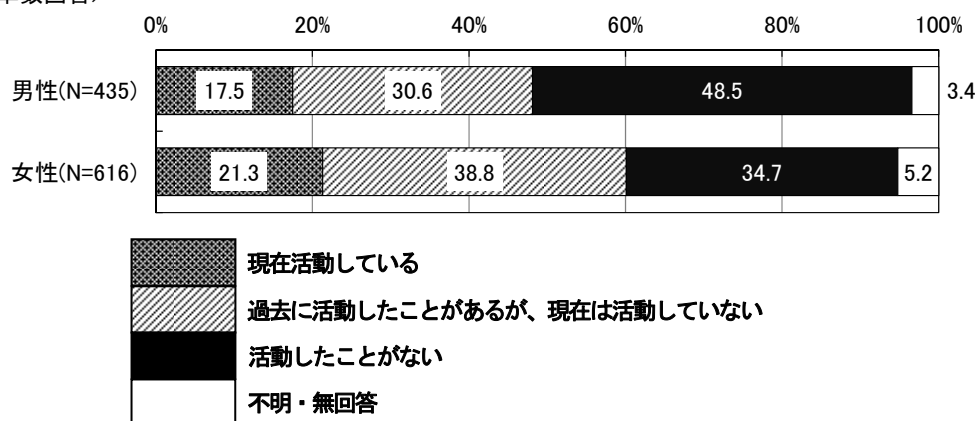
<単数回答>



「活動したことがない」が40.3%で最も高く、次いで「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が35.6%、「現在活動している」が19.7%となっています。

【性別グラフ】

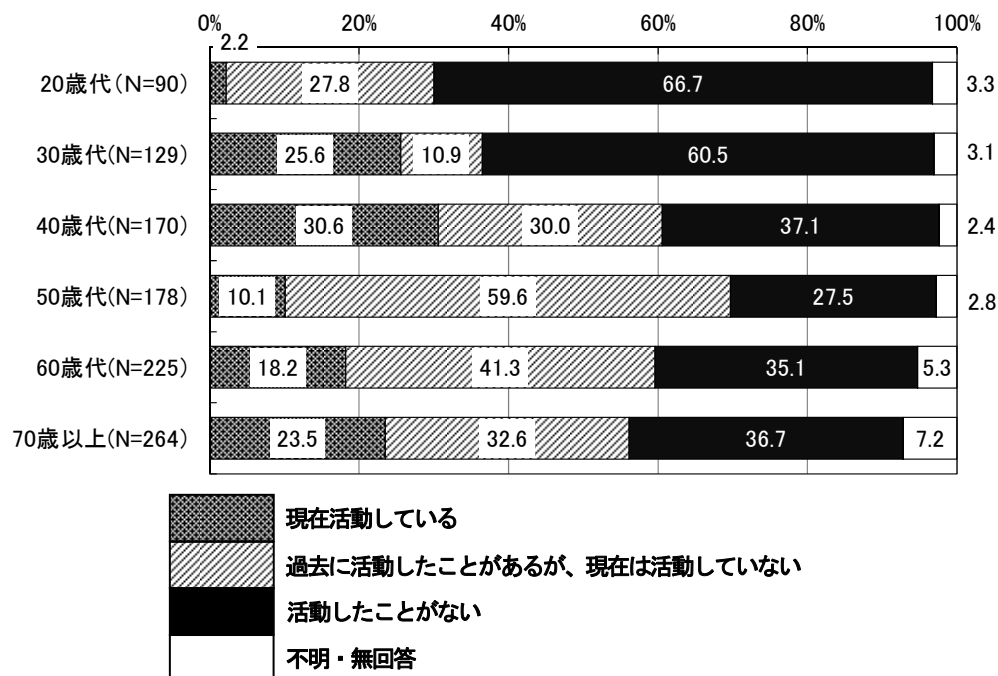
<単数回答>



性別にみると、男性では「活動したことがない」が最も高く48.5%（女性34.7%）であるのに対し、女性では「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が最も高く38.8%（男性30.6%）で、男女間で差がみられます。また、女性では「現在活動している」の割合が21.3%で、男性の17.5%と比較してやや高く、現在地域活動に参加している人が多い状況となっています。

【年齢別グラフ】

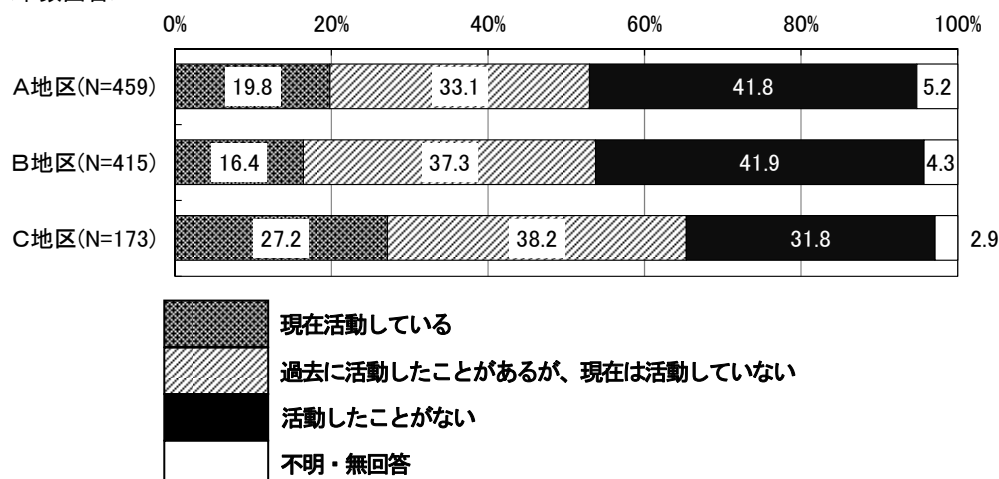
<単数回答>



年齢別にみると、20歳代、30歳代では「活動したことがない」の割合が6割を超えるのに対し、40歳代以降では4割を下回っています。

【居住地区別グラフ】

<単数回答>

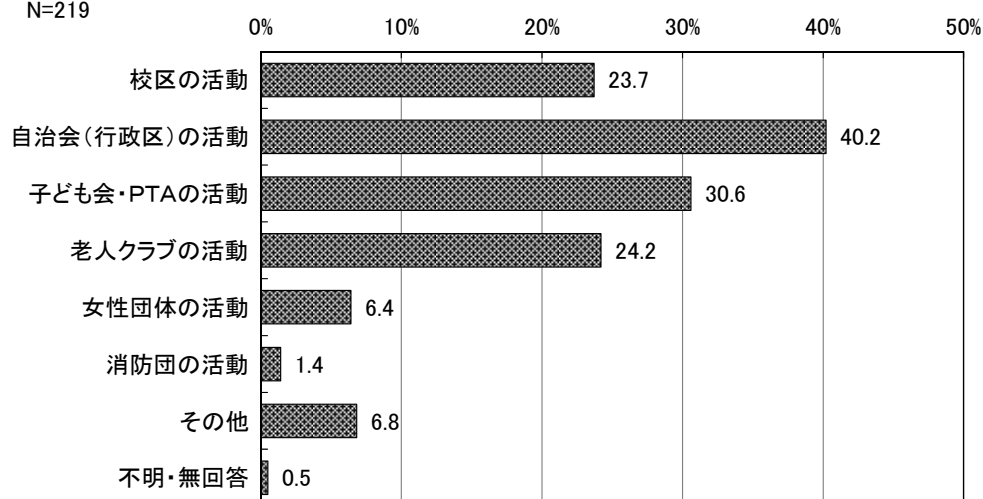


居住地区別にみると、A地区、B地区では「活動したことがない」が高く、C地区では「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が高くなっています。「現在活動している」についてはC地区で27.2%と他の居住地区と比較して割合が高くなっています。

問 21-1 どんな活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

<複数回答>

N=219



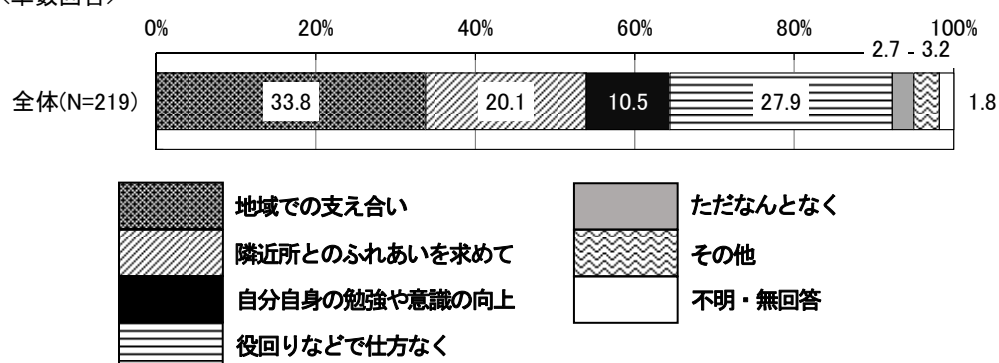
「自治会（行政区）の活動」が 40.2%と最も高く、次いで「子ども会・PTAの活動」が 30.6%、「老人クラブの活動」が 24.2%となっています。

その他回答

- ・シルバー人材センター内
- ・アンビシャス広場
- ・男の料理教室
- ・障害者団体
- ・お宮
- ・ふれあいネットワーク
- ・勤務先での活動
- ・体育委員（区）
- ・神社総代

問 21-2 どのような目的で活動していますか。(ひとつだけ○)

<単数回答>



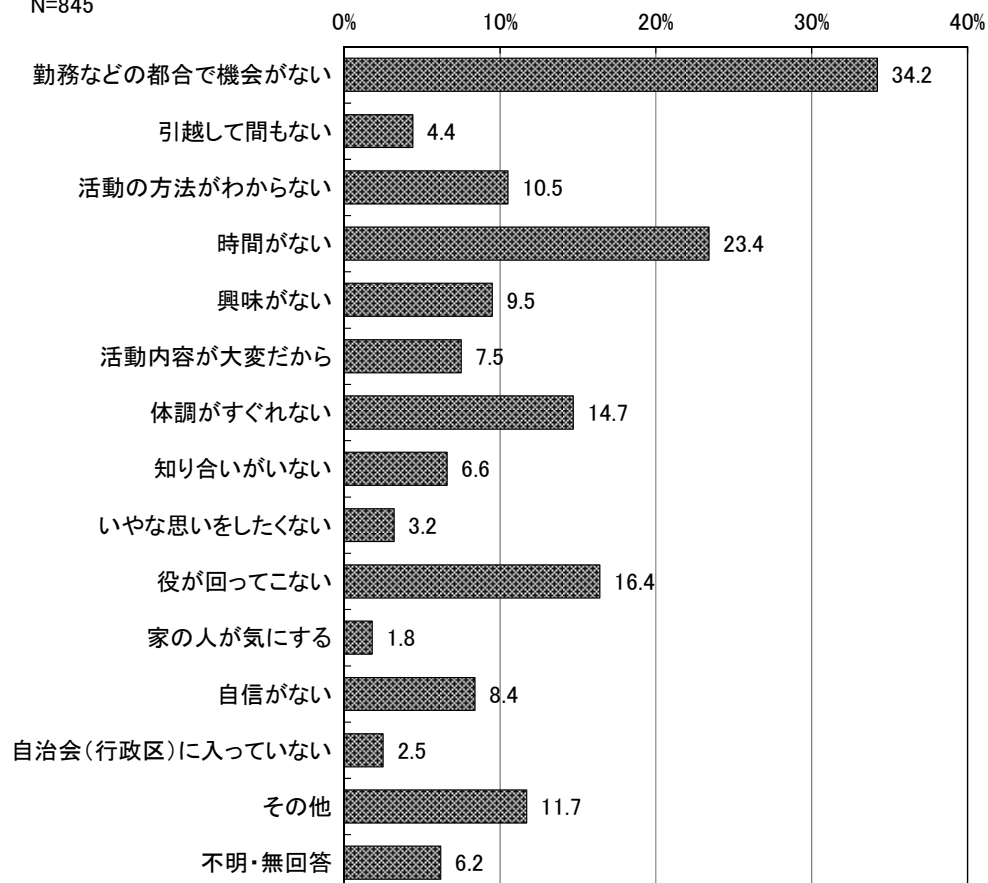
「地域での支え合い」が 33.8%と最も高く、次いで「役回りなどで仕方なく」が 27.9%、「隣近所とのふれあいを求めて」が 20.1%となっています。

その他回答

- ・役回りだけど向上のため
- ・地域と家族との触れ合い
- ・私自身の生き方の問題
- ・他に引き受ける人がいなかった

問 21-3 現在活動していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

〈複数回答〉
N=845



「勤務などの都合で機会がない」が34.2%と最も高く、次いで「時間がない」が23.4%、「役が回ってこない」が16.4%となっています。

その他回答

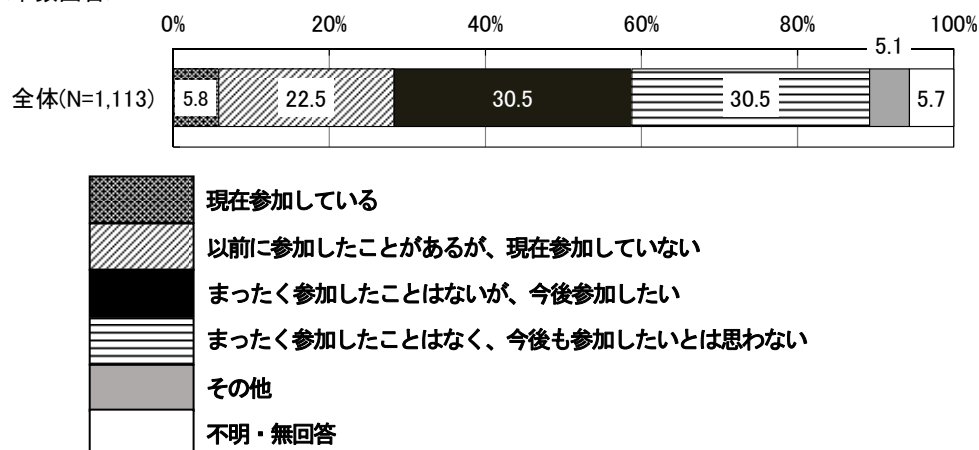
- ・高齢のため
- ・高齢のため(77歳)、今までボランティア活動の必要性がなかった
- ・老化し一人暮らしのため何もできない
- ・高齢で体が動けない
- ・高齢化でたぶん無理
- ・年齢的にできない
- ・年齢的なもの

- ・子どもが大きくなったから
- ・子どもが成人したから
- ・子ども会の活動をしていたが、しなくてよい年齢になった
- ・子どもが成長し、子ども会に入る必要がなくなったから
- ・子どもの成長とともに地域活動から遠のいていった
- ・子どもが成長して子ども会の役が終わったから
- ・子どもの成長で子ども会の子がいないから
- ・子どもが成長した。区の役員はした
- ・各活動に該当する家族がいない
- ・子どもが学校を卒業したから
- ・子どもが卒業したから
- ・母親の介護のため、数時間家を空けられない
- ・家族の世話で時間がない、手一杯
- ・パートで時間に余裕がない
- ・95歳の義母と同居のため
- ・自分の子どものことで一杯
- ・私が左半身麻痺のため
- ・介護を受けているため
- ・自分の自立を優先したい
- ・子どもがまだ小さい
- ・家族が病気のため
- ・病人を抱えている
- ・妊娠中
- ・介護中
- ・家族の都合
- ・引越して5年以内に、全て役員はやった（町内会長以外）
- ・数年後に役が回ってくるから
- ・区の役員は2年だったため
- ・過去10年ほど区の役員
- ・10年ごとに自治会活動
- ・順番で役員になったから
- ・12年間活動したため
- ・来年回ってくるから
- ・昨年役員だったから
- ・当番制のため
- ・関わりたくない
- ・平等な処遇になっていないから

- ・活動資金を市などへ要請したりすることが嫌い。何でも求めすぎる。嫌いなので参加したくない
- ・わずらわしい
- ・どんな活動があるのか知らない
- ・機会がない

問 22 あなたは、問 21 のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動に参加したことがありますか。（ひとつだけ○）

<単数回答>



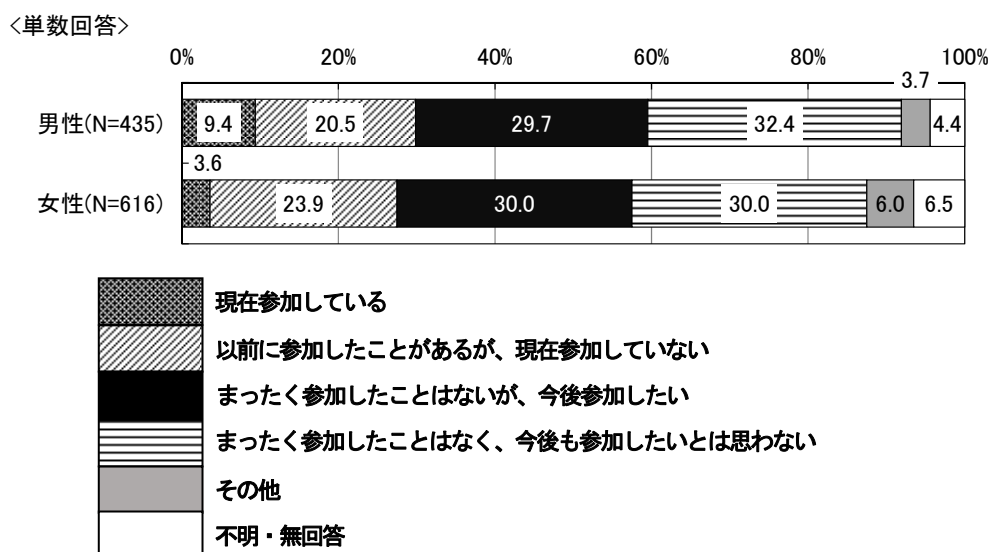
「まったく参加したことはないが、今後参加したい」、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」がともに 30.5%と最も高く、次いで「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が 22.5%となっています。

その他回答

- ・会社のボランティアに参加している
- ・近隣の方を世話したことがある
- ・参加したことはないが、今後はその時にならないとわからない
- ・参加したことはないが、興味のあることならば今後参加したい
- ・参加したことはない。今後は内容によって都合がつけば。何かができるという自信はありませんが
- ・全く参加したことはないが、機会があれば参加してもよい
- ・必要な場合は参加することになるのでは
- ・その時の家族の事情に応じて考える
- ・退職したら考える（体力も考慮）
- ・時間があればしたい
- ・何とも言えない

- ・高齢のため、したくてもできない
- ・体調不良で今はできない
- ・年齢的に無理
- ・したいが体が動かない
- ・参加するには体調に自信がない
- ・自分自身のことをするのがやっとなので参加できない
- ・まったく参加したことはなく、今後も参加できない
- ・仕事が休みの日はゆっくりしていきたい。すみません、自分と家族のことで精一杯
- ・現在家庭の事情で参加できない(老老介護の状態)
- ・全く参加したことなく、参加する余裕がない
- ・協力したいが体力的、性格的に無理
- ・親の介護のため、参加できない
- ・自分の現状で一杯
- ・勤務で時間が取れない
- ・参加はしたいが勤務の都合で時間がとれない
- ・したことはないが、できるかどうか不安

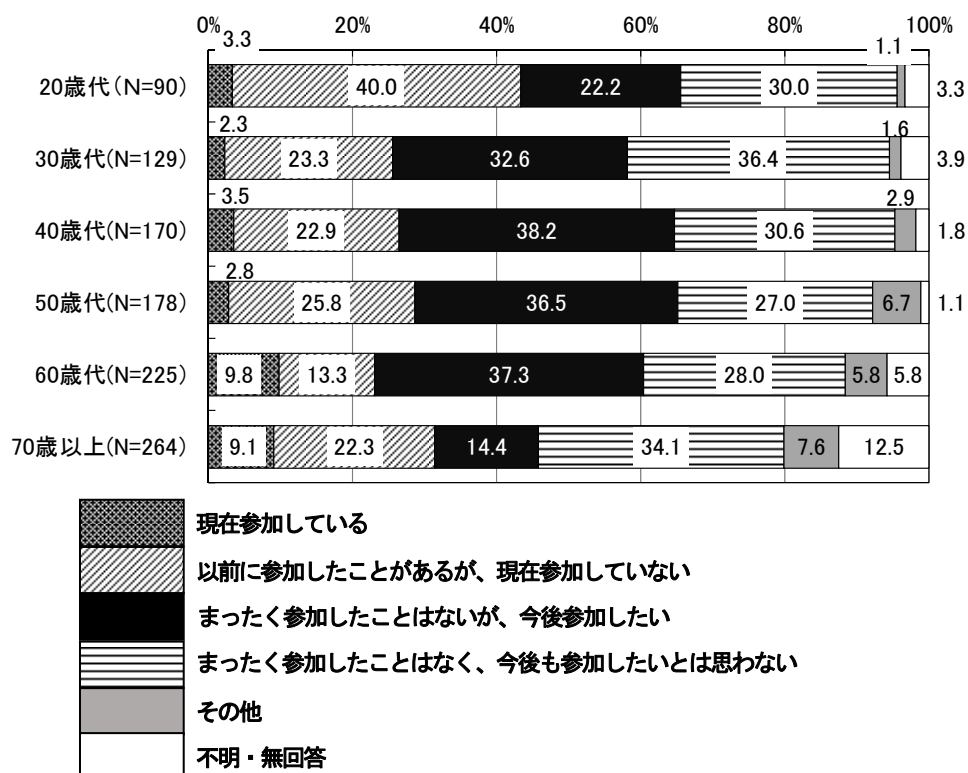
【性別グラフ】



性別にみると、男性では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が32.4%と最も高く、女性では「まったく参加したことはないが、今後参加したい」、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」がともに30.0%と最も高くなっております。女性より男性の方で参加したことがない人、今後も参加の意志がない人が多くなっています。

【年齢別グラフ】

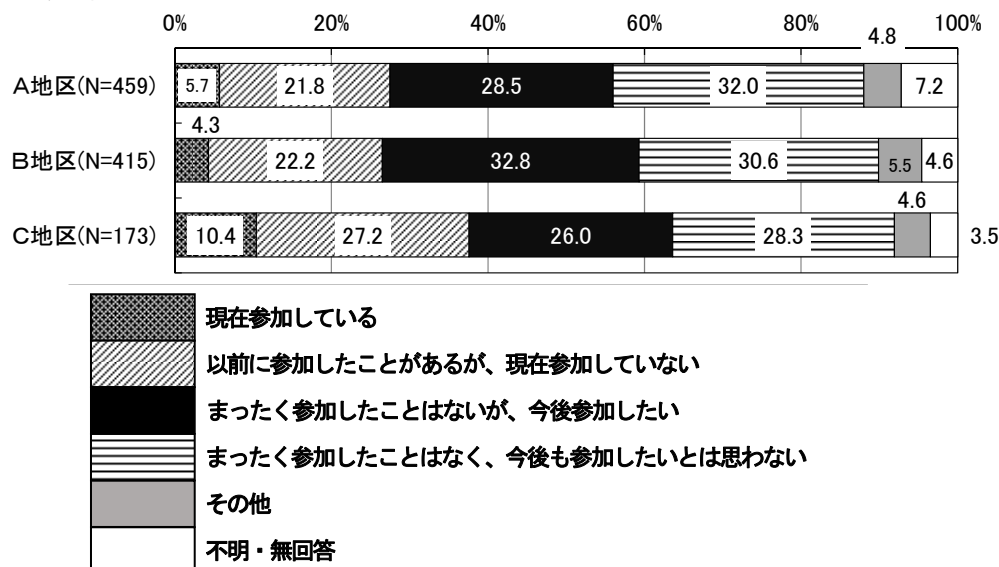
＜単数回答＞



年齢別にみると、「まったく参加したことはないが、今後参加したい」では40歳代が38.2%、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では30歳代が36.4%と、やや高くなっています。また、「現在参加している」では、70歳以上が9.1%となっており、年齢が高い人ほどボランティア活動に参加している人が多くなっています。

【居住地区別グラフ】

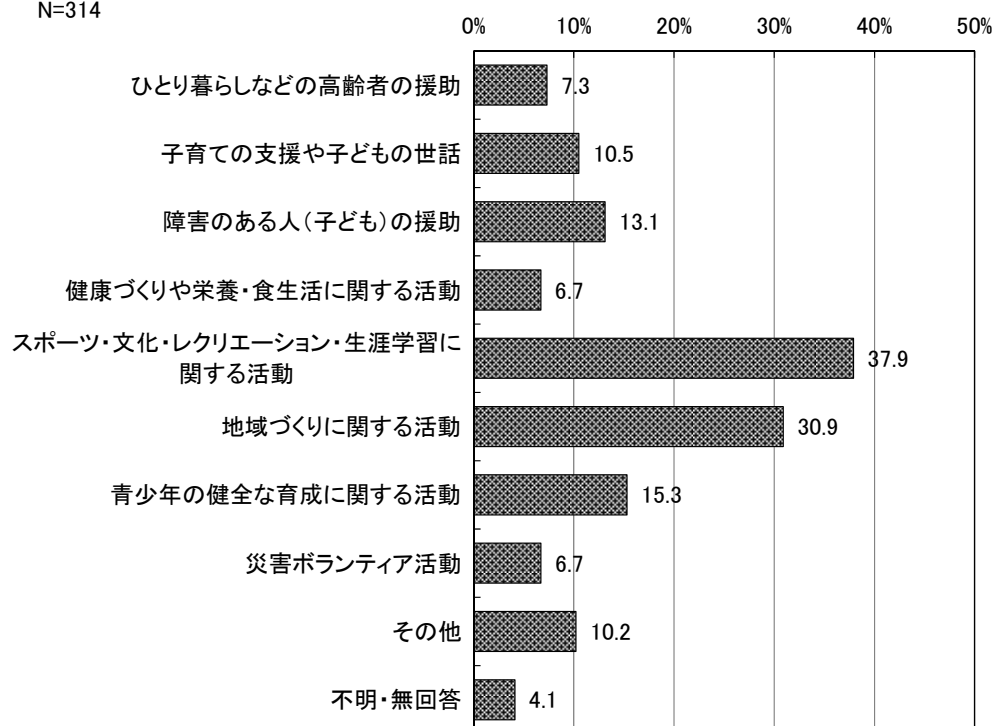
＜単数回答＞



居住地区別にみるとA地区、C地区では「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」の割合が最も高く、B地区では「まったく参加したことはないが、今後参加したい」の割合が32.8%と最も高くなっています。

問 22-1 あなたは、どのようなボランティア活動に参加してきましたか。 (あてはまるものすべてに○)

＜複数回答＞
N=314



「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が37.9%と最も高く、次いで「地域づくりに関する活動」が30.9%、「青少年の健全な育成に関する活動」が15.3%となっています。

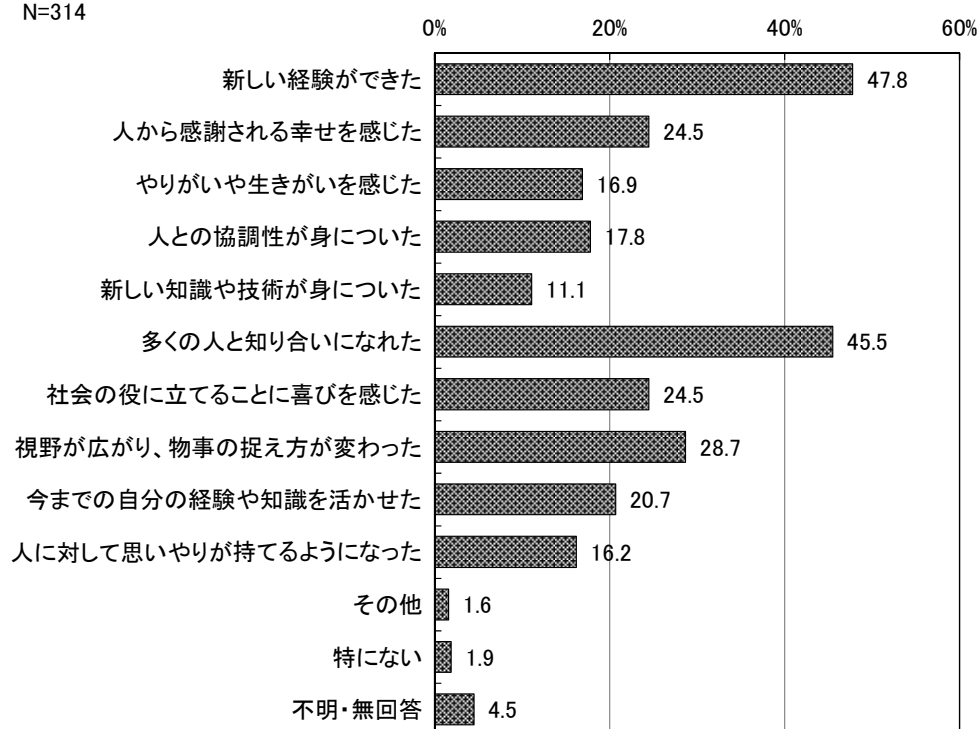
その他回答

- ・ごみ拾い
- ・一人で住居周辺の清掃を4年間位していたのでボランティア活動とまでは言えないのですが、体が動ければやってみると気持ちがよい
- ・ホームレスの人のおにぎり作り、福祉施設へのボランティアなど
- ・老人ホームでの手伝い、少年の船やサマーキャンプでのスタッフ
- ・障害者の方々のオムツたたみ、視覚障害者の方々の朗読奉仕他 20 年余
- ・障害者施設の行事の手伝い、無認可保育所の草刈りなど
- ・介護施設への支援をさせて頂いている、町の清掃
- ・地元で行われていたボランティア活動
- ・児童養護施設でのボランティア
- ・精神障害者の社会復帰に関する活動
- ・ホームレス支援、DV 防止支援

- 宝満川一斉清掃ボランティア
- ごみ拾い、動物愛護保護
- 病院のボランティア
- 施設イベント、演芸
- 花火大会、草取り
- 老人クラブ
- 糖尿病ウォークラリーなど
- 老人会長、公民館長
- 海外ボランティア
- 外国人の援助
- 権利擁護など
- 清掃

問 22-2 ボランティア活動に参加をして、よかった点はどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

＜複数回答＞
N=314



「新しい経験ができた」が47.8%と最も高く、次いで「多くの人と知り合いになれた」が45.5%、「視野が広がり、物事の捉え方が変わった」が28.7%となっています。

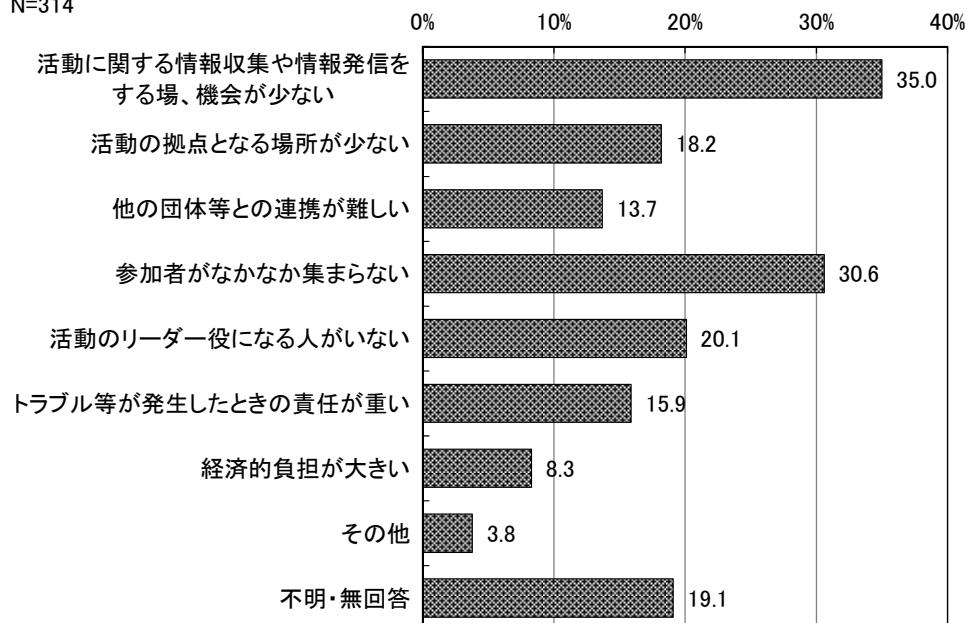
その他回答

- 当たり前のことと思っています
- 意外に楽しかった
- 自信がついた

問 22-3 よりよい活動を進める上で改善が求められていること（求められていたこと）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

<複数回答>

N=314



「活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない」が35.0%と最も高く、次いで「参加者がなかなか集まらない」が30.6%、「活動のリーダー役になる人がいない」が20.1%となっています。

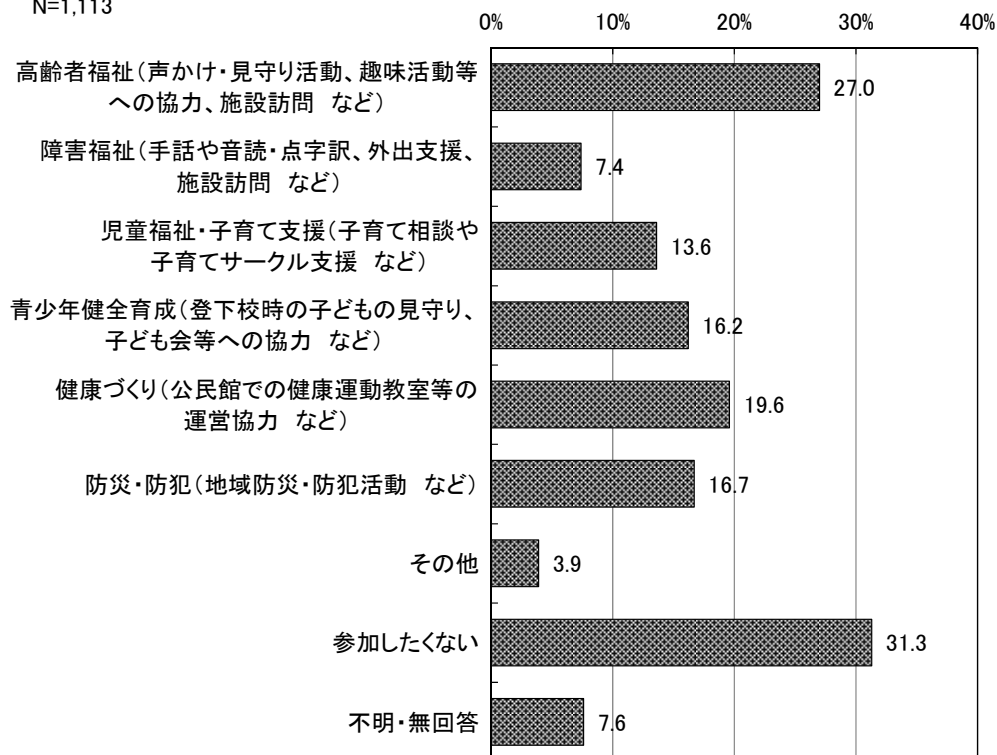
その他回答

- ・移動手段（バス）の使いにくさ。手伝いをしたい人も、してほしい人も集まりにくいように感じた
- ・体力を欠きついていけない

問 23 あなたは、今後、次のような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

＜複数回答＞

N=1,113



「参加したくない」が31.3%と最も高く、次いで「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」が27.0%、「健康づくり（公民館での健康運動教室等の運営協力 など）」が19.6%となっています

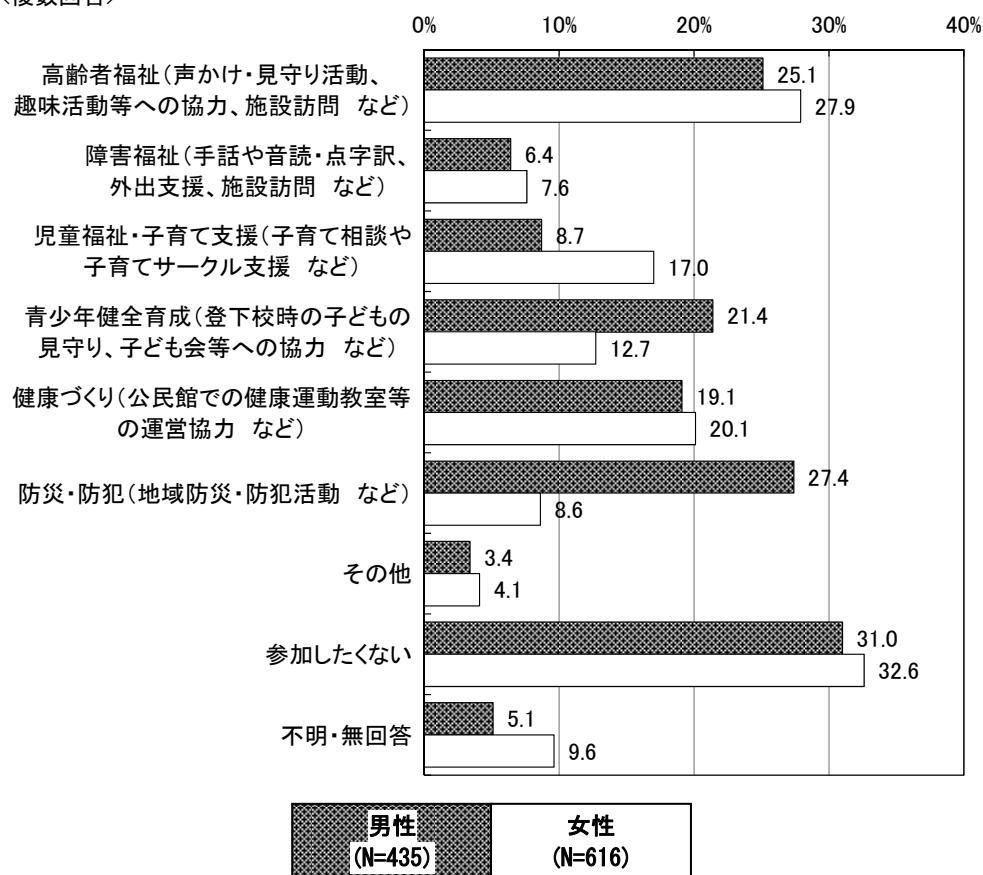
その他回答

- できる範囲でやりたい
- 外国から移住して来た人（国籍問わず）に対する支援（言葉の問題や近所とのトラブルなど）
- 外国人への日本語支援等のコミュニケーション支援
- 川などの清掃
- 仕事を平成23年に辞めてボランティアを少ししたが、年齢も高くなってきたので辞めた
- 高齢のため。自分のことは自分で。なるべく迷惑をかけないように協力する
- 高齢だから
- もうすぐ自分たちが援助を受けなくてはならない状態
- 申し訳ありませんが、これからはお世話になる方に

- ・自分が体調不良になり、まず自分の体調をもどしたい
- ・現在体調不良のため
- ・長期治療中の病気があるため参加できない
- ・高齢のため自分のことで手一杯
- ・精神的にも時間的にも余裕がない
- ・自分の体を動かすだけで精一杯
- ・体が不自由なので不可能（動作）
- ・仕事の時間の関係で考えない
- ・肺癌手術のため、経過次第
- ・時間的余裕がない
- ・年齢的に難しい
- ・参加できない

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別でみると、「参加したくない」と考える男性の割合は 31.0%、女性は 32.6%で大きな差はありませんが、参加したいと考えている人のうち、男性では「防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）」の 27.4%が、女性では「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」の 27.9%が最も高い割合となっています。また、「児童福

祉・子育て支援（子育て相談や子育てサークル支援 など）」、「青少年健全育成（登下校時の子どもの見守り、子ども会等への協力 など）」、「防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）」については、男女間で大きな差がみられます。

【年齢別表】

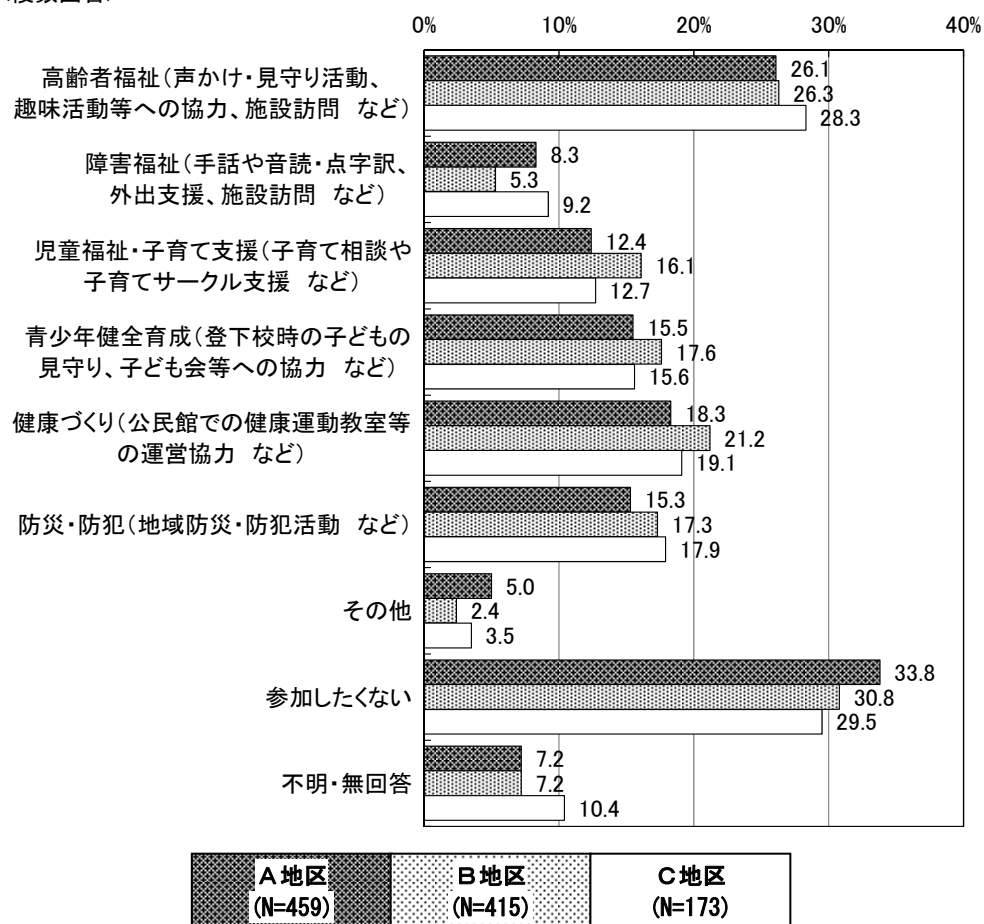
単位：％

〈複数回答〉	高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）	障害福祉（手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問 など）	児童福祉・子育て支援（子育て相談や子育てサークル支援 など）	青少年健全育成（登下校時の子どもの見守り、子ども会等への協力 など）	健康づくり（公民館での健康運動教室等の運営協力 など）	防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）	その他	参加したくない	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	20.0	7.8	17.8	21.1	25.6	23.3	1.1	31.1	2.2
30 歳代 (N=129)	18.6	7.8	34.9	24.8	11.6	17.1	2.3	29.5	3.1
40 歳代 (N=170)	24.1	10.6	19.4	16.5	15.9	18.2	1.2	37.1	2.9
50 歳代 (N=178)	32.0	7.9	18.0	16.3	20.8	23.0	4.5	27.5	6.2
60 歳代 (N=225)	31.1	7.6	8.0	18.2	20.0	12.4	4.9	28.0	9.3
70 歳以上 (N=264)	26.5	3.4	0.4	8.7	23.5	11.4	5.7	36.0	14.4

年齢別にみると 50 歳代、60 歳代では「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」と回答した人の割合が最も高く、20 歳代、40 歳代、70 歳以上では「参加したくない」と回答した人の割合が高くなっています。また、30 歳代では「児童福祉・子育て支援（子育て相談や子育てサークル支援 など）」が、最も高くなっており、児童福祉・子育て支援に参加意欲が高いことがうかがえます。

【居住地区別グラフ】

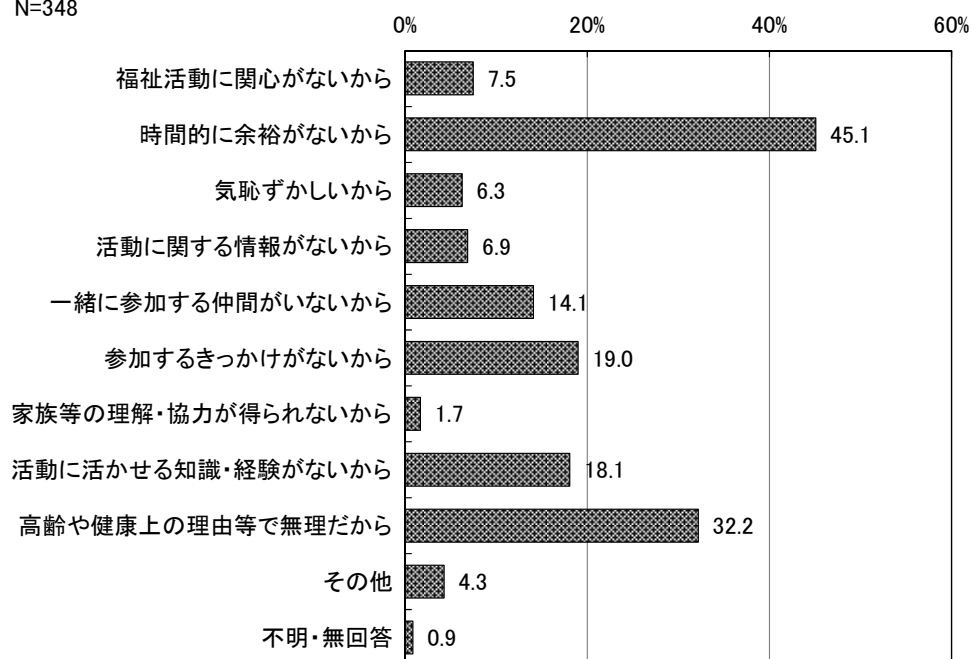
〈複数回答〉



居住地区別にみると、すべての居住地区では「参加したくない」の割合が最も高く、次いで「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）」の割合が高くなっています。

問 23-1 参加したくないのはなぜですか。(〇は3つまで)

<複数回答>
N=348



「時間的に余裕がないから」が45.1%と最も高く、次いで「高齢や健康上の理由等で無理だから」が32.2%、「参加するきっかけがないから」が19.0%となっています。

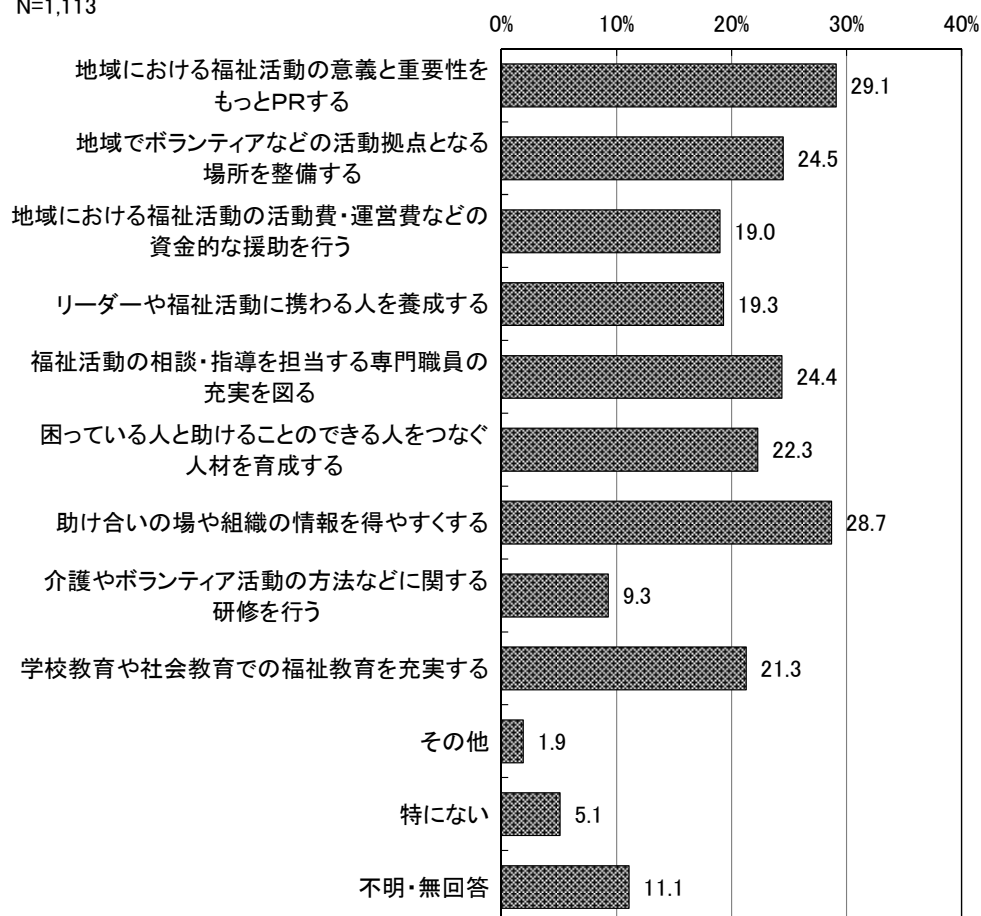
その他回答

- ・定年後に参加したい
- ・近所に高齢の家族が一人暮らしをしており世話があるため
- ・週2回リハビリの送迎をしているので時間がない
- ・身内に認知症の高齢者がおりそれだけで手一杯
- ・配偶者の面倒をみなければならない
- ・子どもが小さく、家を空けられない
- ・障害者がいるので余裕がない
- ・自分の親で精一杯
- ・自分がまず人に迷惑をかけたくない
- ・自分でいっぱいいっぱい
- ・時間と気持ちの余裕がない
- ・今は忙しく、また今の環境から周りの方のためという気持ちにはなれない
- ・他人との付き合いが下手だから
- ・高齢だから
- ・現在体調が悪いため

- 自分の体が動かない
- 体調がすぐれない
- 耳が不自由なため

問 24 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(○は3つまで)

〈複数回答〉
N=1,113



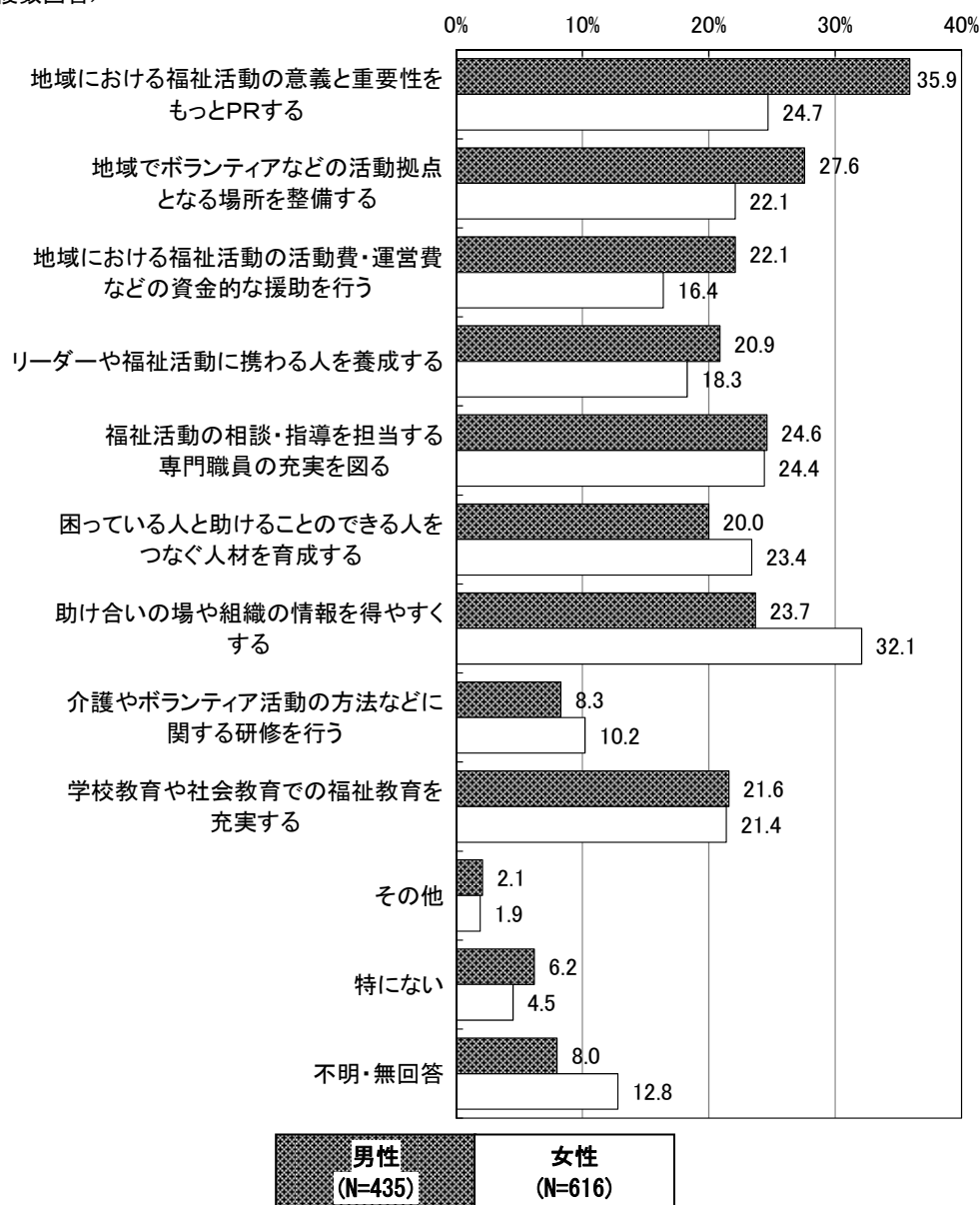
「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が29.1%と最も高く、次いで「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が28.7%、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する」が24.5%となっています。

その他回答

- 「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」は難しく考えないで、地域の班で会合を持てる体制を作ることと思う。地域全体は行政がすること。社会福祉協議会は班での活動（寄合）をすすめる
- 市民全体が地域福祉を担っているので、特定の何かやだれかのみというのは今までと同じになってしまう
- 活動をする組織が必要になると思うが、そういう組織が不必要だと思う。人と人のつながりの教育を
- 支え合い、助け合い、活動する意欲があり、かつ、することができる人に対して直接呼びかける
- できる人、やれる人が参加する。できない人にはその理由があるので責めない
- 人の援助や迷惑をかけないようにとことん準備しておく
- 他の地域から来た人を温かく受け入れる風土
- 元気なシルバーを活用する
- できることなら全て重要
- 本人のやる気
- 個人の負担になる活動が増えるのはやめてほしい。子ども会は入りたい人だけ入ればよいと思う

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男性では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が高く、女性では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が高くなっています。また、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する」、「地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う」の割合が、女性よりも男性の方が高く、特に差がみられます。

【年齢別表】

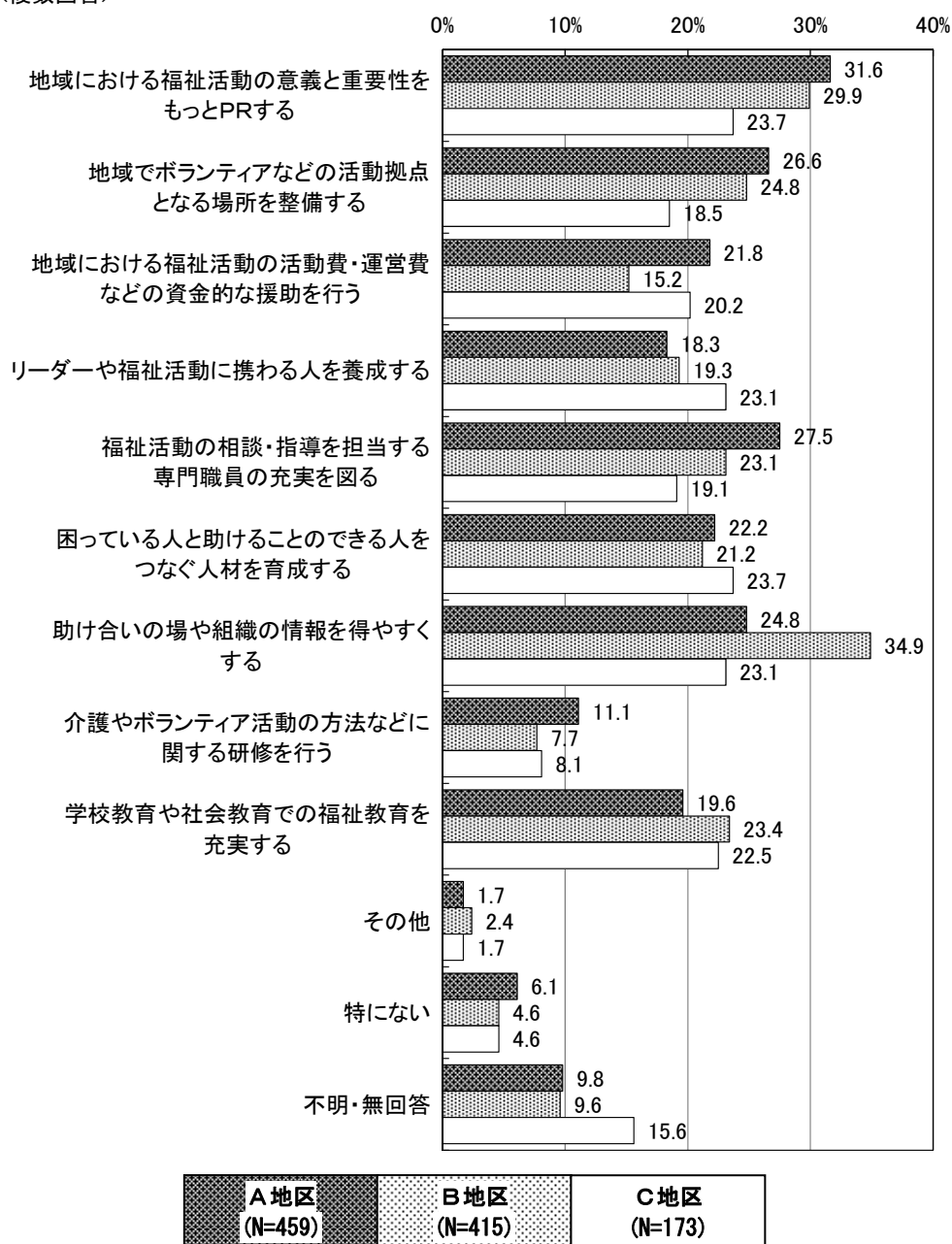
単位：％

＜複数回答＞	地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする	地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	リーダーや福祉活動に携わる人を養成する	福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る	困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する
20 歳代 (N=90)	27.8	31.1	22.2	17.8	20.0	17.8
30 歳代 (N=129)	27.9	24.8	20.2	16.3	22.5	14.7
40 歳代 (N=170)	24.7	24.7	23.5	19.4	26.5	23.5
50 歳代 (N=178)	30.9	28.1	17.4	24.7	25.8	25.8
60 歳代 (N=225)	28.9	29.8	20.4	17.3	29.8	23.6
70 歳以上 (N=264)	33.0	15.5	14.0	19.7	19.7	21.6
＜複数回答＞	助け合いの場や組織の情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	その他	特にない	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	46.7	6.7	24.4	1.1	6.7	1.1
30 歳代 (N=129)	32.6	10.1	34.1	1.6	3.9	7.0
40 歳代 (N=170)	35.3	5.9	23.5	4.7	1.2	7.1
50 歳代 (N=178)	31.5	6.2	19.7	0.6	4.5	10.7
60 歳代 (N=225)	25.8	14.7	17.3	0.9	5.3	10.2
70 歳以上 (N=264)	17.0	9.5	18.2	2.7	8.3	18.9

年齢別にみると、20 歳代、40 歳代、50 歳代では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」と回答した人の割合が最も高く、30 歳代では「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」と回答した人の割合が 34.1%と最も高くなっています。また 70 歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」と回答した人の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

＜複数回答＞

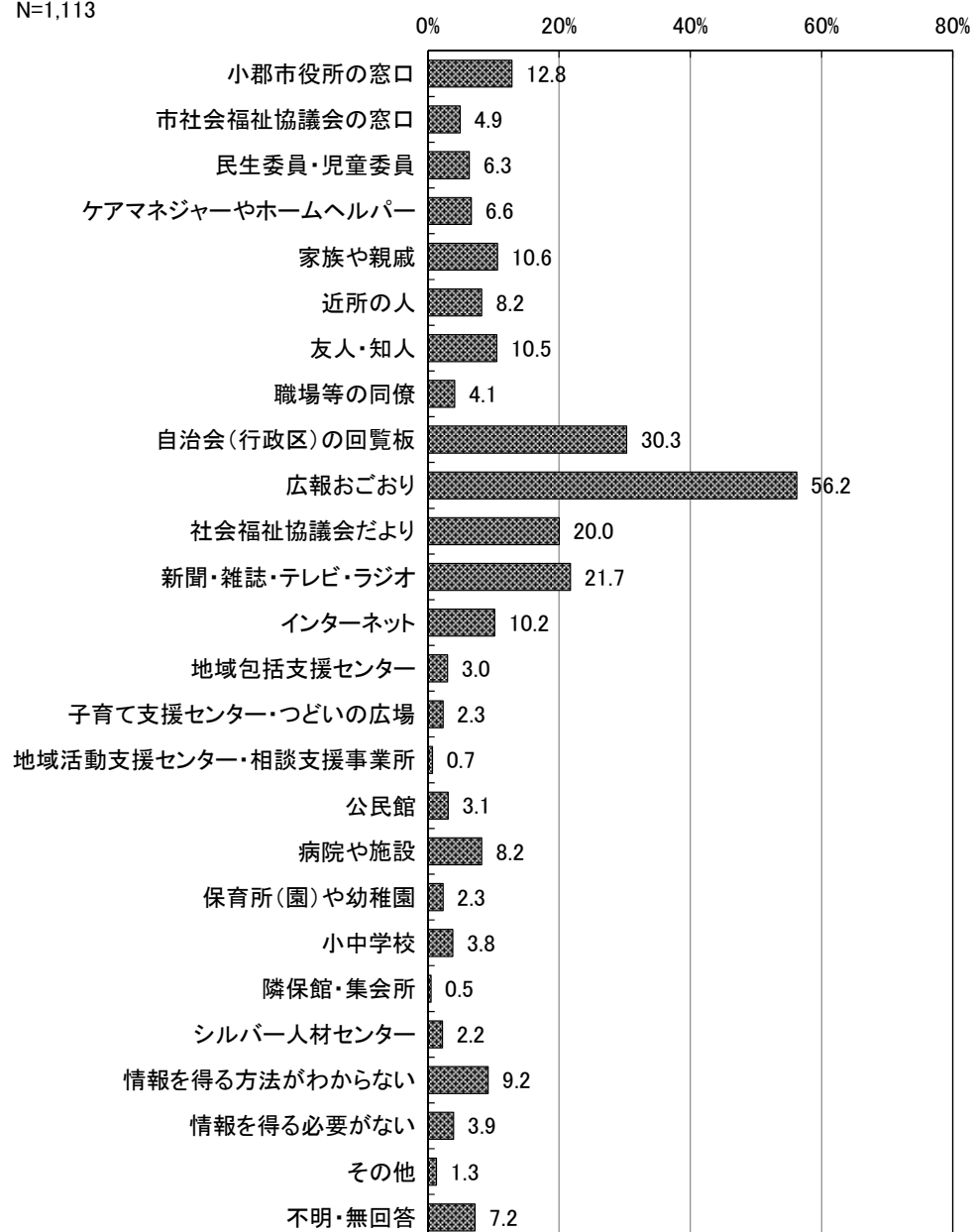


居住地区別にみると、A地区では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」の割合が最も高く、B地区では「助け合いの場や組織の情報を得やすくする」が、またC地区では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」と「困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する」が同率で最も高くなっています。

6. 福祉サービスについて

問 25 あなたは、現在「福祉サービス」に関する情報を主にどこから（どのようにして）入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

<複数回答>
N=1,113



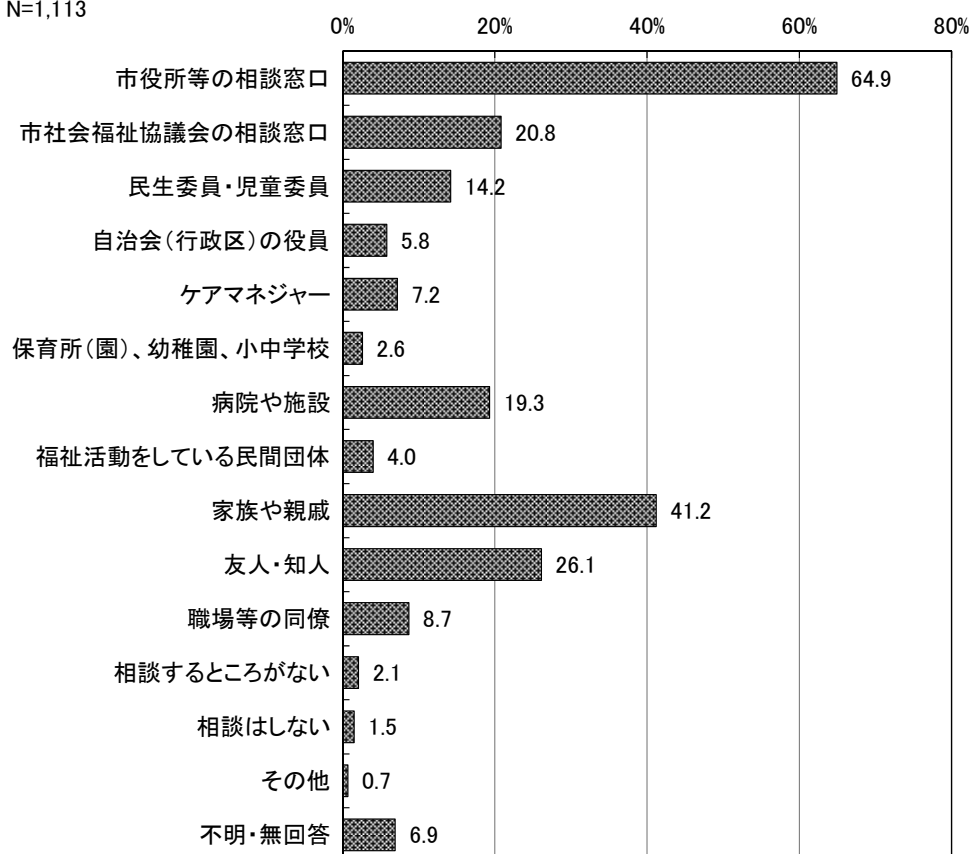
福祉サービスに関する情報の主な入手先としては、「広報おごおり」が56.2%と最も高く、次いで「自治会（行政区）の回覧板」が30.3%、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が21.7%となっています。

その他回答

- ・ボランティアセンターで
- ・現在は福祉サービスを受ける必要がないので詳しくは情報を得る方法がわからない。地域活動へ参加して少しずつ入手している
- ・福祉サービスのお世話になることが今の所ないので、現実味がないというのが現状
- ・選択肢にあがっている人たちと交流しないので情報がほとんど入らない
- ・全く情報が入ってこないから知らない
- ・知らない
- ・今現在関わることがない
- ・今のところ情報を必要としていないので注意して見たことがない
- ・情報を得ることをしていない

問 26 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えたときや「福祉サービス」の利用が必要となったとき、どこ（誰）に相談しますか。 （あてはまるものすべてに○）

<複数回答>
N=1,113



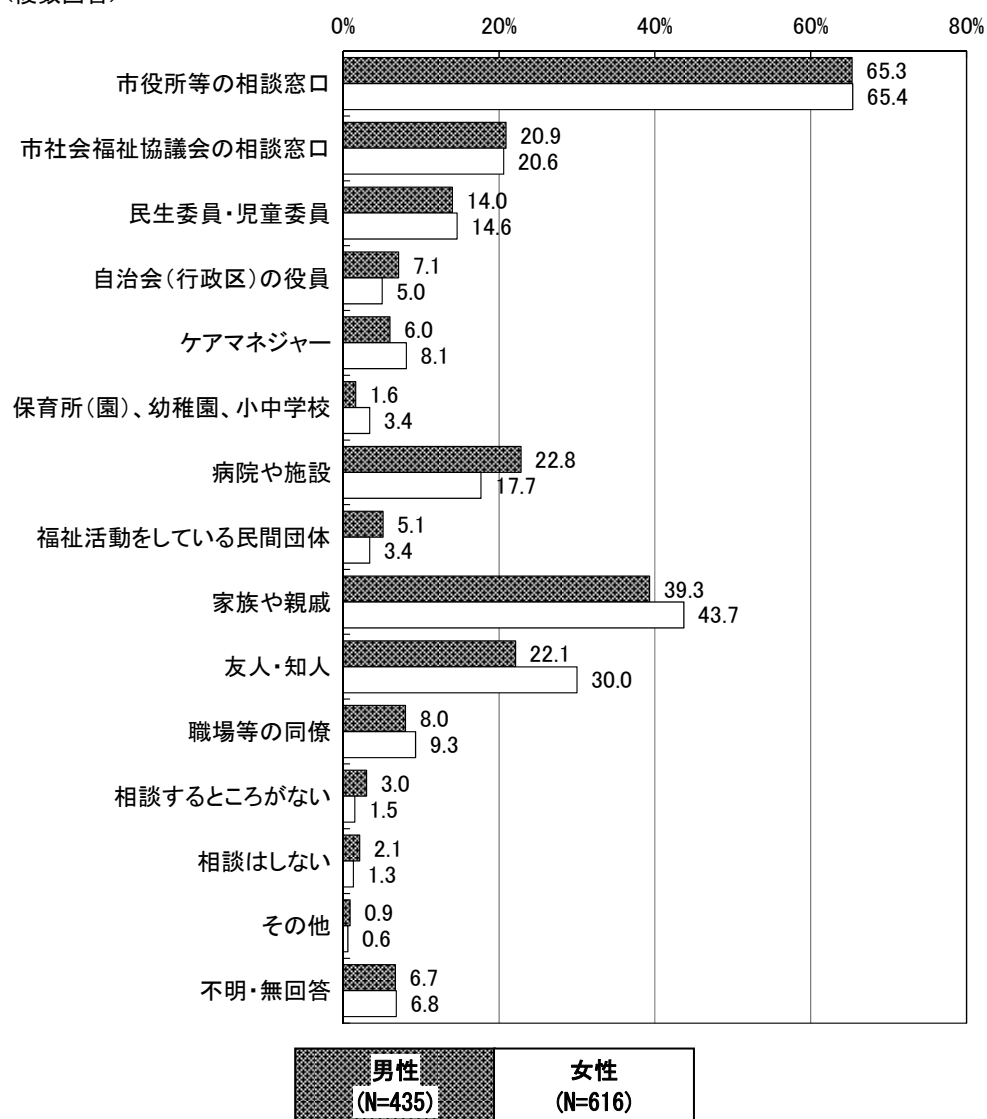
「市役所等の相談窓口」が64.9%と最も高く、次いで「家族や親戚」が41.2%、「友人・知人」が26.1%となっています。

その他回答

- その場にならないとわからない
- 相談するところがわからない
- 社会福祉士
- 家族(子)

【性別グラフ】

〈複数回答〉



性別にみると、男女ともに「市役所等の相談窓口」が最も高く、約 6.5 割となっています。また、「家族や親戚」では、女性が 43.7%、男性が 39.3%と女性がやや高くなっています。

【年齢別表】

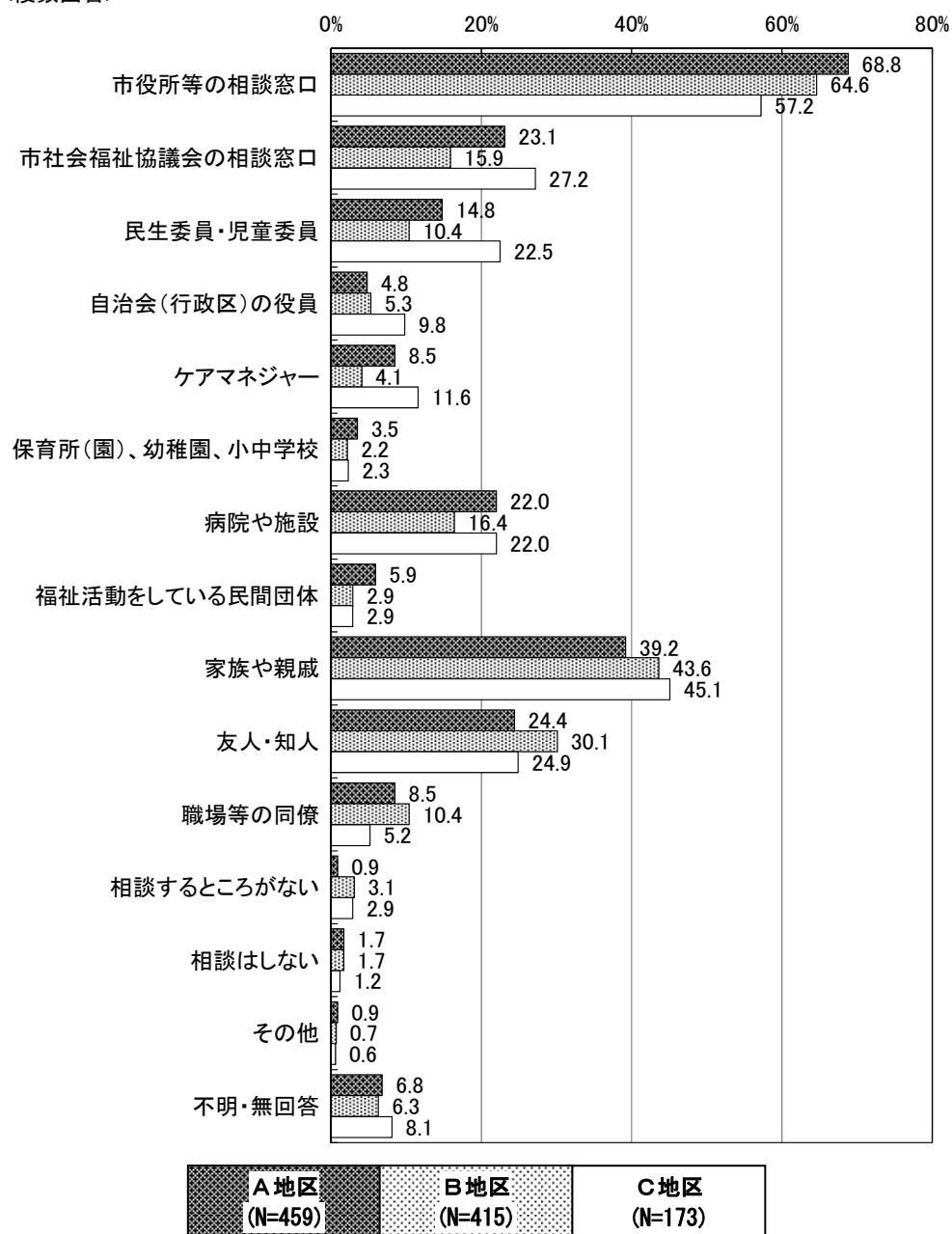
単位：％

〈複数回答〉	市役所等の相談窓口	市社会福祉協議会の相談窓口	民生委員・児童委員	自治会（行政区）の役員	ケアマネジャー	小中学校 保育所（園）、幼稚園、	病院や施設	福祉活動をしている民間団体
20 歳代 (N=90)	58.9	5.6	3.3	0.0	1.1	2.2	14.4	5.6
30 歳代 (N=129)	69.8	11.6	4.7	1.6	5.4	13.2	17.1	5.4
40 歳代 (N=170)	67.1	13.5	1.2	3.5	5.3	4.7	17.6	1.8
50 歳代 (N=178)	68.0	19.7	10.1	4.5	9.6	1.1	23.6	5.1
60 歳代 (N=225)	70.7	26.7	16.4	6.7	8.4	0.0	24.0	3.1
70 歳以上 (N=264)	58.3	30.7	32.2	11.7	8.7	0.0	17.8	4.9
〈複数回答〉	家族や親戚	友人・知人	職場等の同僚	相談するところがない	相談はしない	その他	不明・無回答	
20 歳代 (N=90)	54.4	36.7	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	
30 歳代 (N=129)	55.8	33.3	18.6	0.0	0.8	0.0	3.1	
40 歳代 (N=170)	41.2	29.4	14.7	2.9	1.8	1.8	5.9	
50 歳代 (N=178)	33.7	28.1	14.6	2.8	1.7	0.6	6.2	
60 歳代 (N=225)	32.4	22.2	3.1	2.7	3.1	0.9	8.4	
70 歳以上 (N=264)	44.7	21.2	0.0	2.3	1.1	0.8	6.4	

年齢別にみると、すべての年齢では「市役所等の相談窓口」の割合が最も高くなっています。次いで、「家族や親戚」と回答した人の割合が高くなっています。また、「市社会福祉協議会の相談窓口」、「民生委員・児童委員」と回答した人については、年齢が高い人ほど割合が高くなる傾向がみられます。

【居住地区別グラフ】

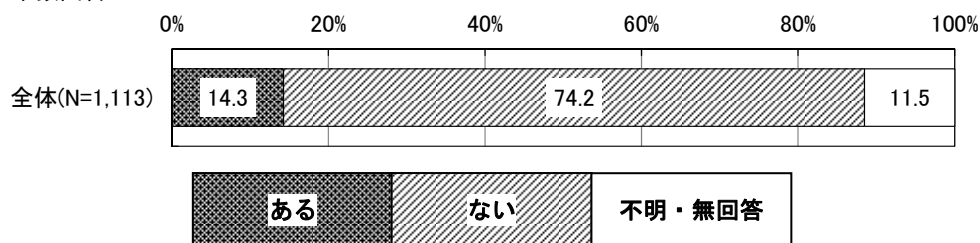
＜複数回答＞



居住地区別にみると、どの居住地区でも「市役所等の相談窓口」の割合が最も高く、A地区では68.8%と他の居住地区と比較してわずかに高くなっています。次いで、どの居住地区でも「家族や親戚」が高く、C地区では45.1%と他の居住地区と比較してわずかに高くなっています。

問 27 あなた自身やあなたのご家族は、これまでに、「福祉サービス」の利用に際して不都合を感じたり、不満に思ったりしたことがありますか。(ひとつだけ○)

<単数回答>

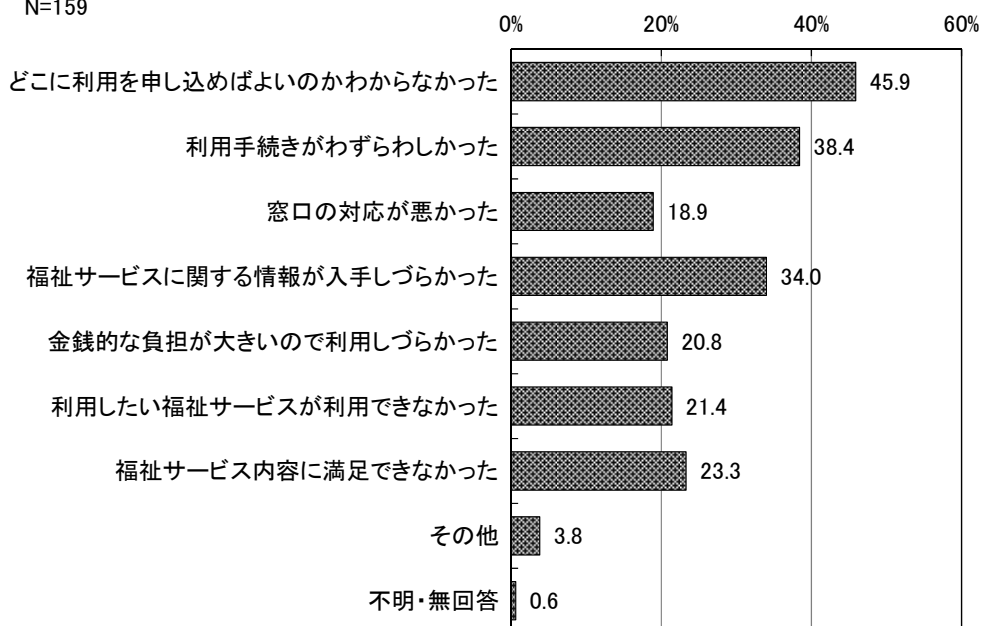


不都合を感じたり、不満に思ったことが「ない」が 74.2%、「ある」が 14.3%となっています。

問 27-1 不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

<複数回答>

N=159



「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が 45.9%と最も高く、次いで「利用手続きがわずらわしかった」が 38.4%、「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が 34.0%となっています。

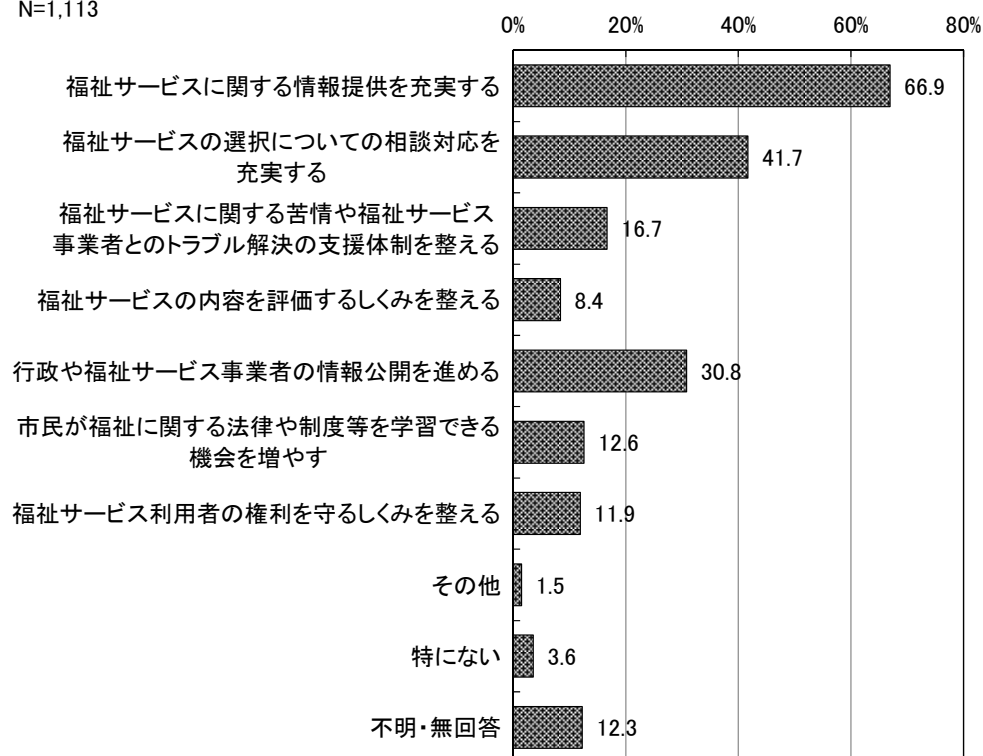
その他回答

- ・介護が必要な親と同居しているが、介護保険が適用されるホームヘルパーを活用できない
- ・申し込み後、日数がかかり、利用に至らなかった

- 所得だけで決めるのはおかしい
- 真剣味がない
- 姉夫婦の後見人になっていろいろな事がわかった

問 28 福祉サービス利用者が、自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。
(○は3つまで)

〈複数回答〉
N=1,113



「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が66.9%と最も高く、次いで「福祉サービスの選択についての相談対応を充実する」が41.7%、「行政や福祉サービス事業者の情報公開を進める」が30.8%となっています。

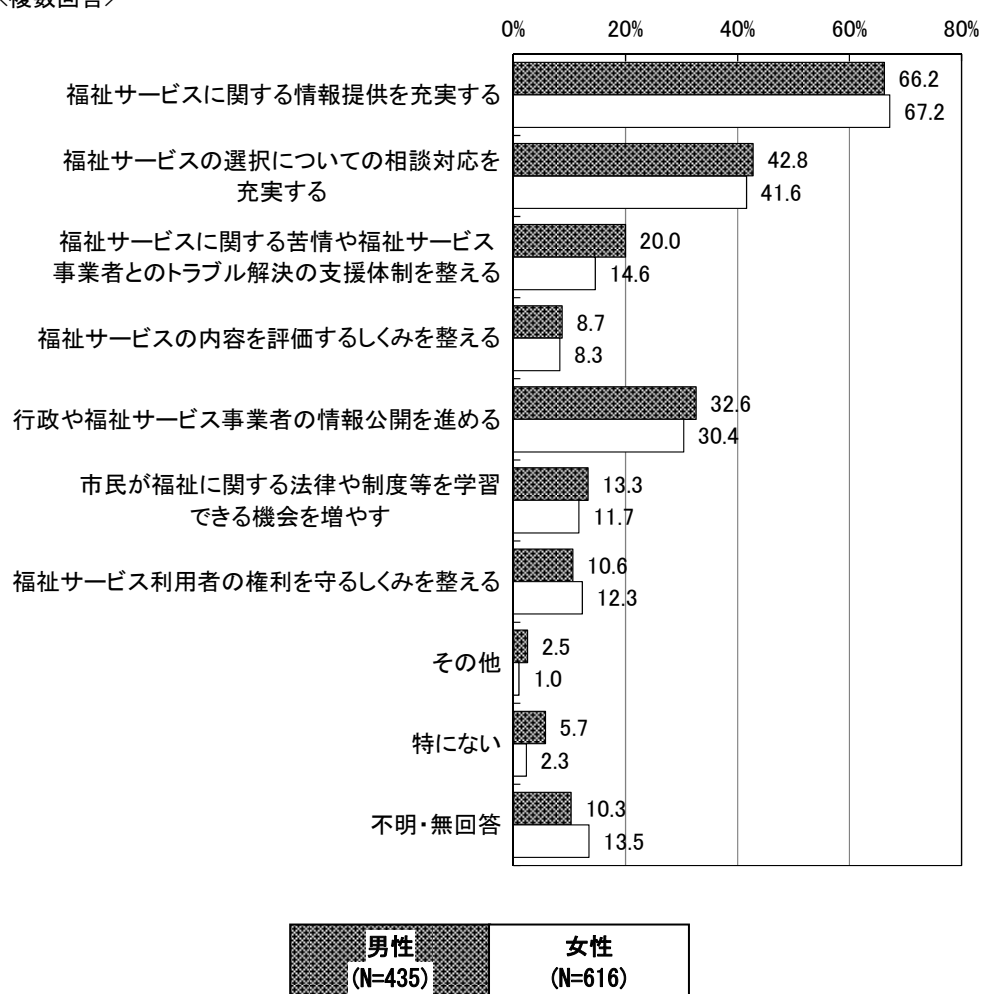
その他回答

- 福祉サービスを真に必要としている人に対して、市から懇切丁寧な説明を、わかるまで行う
- 技術、専門知識をもった職員（もしくは外部の人）の目線を取り入れる
- 手続きを簡素に（休日 OK・代理人 OK）
- 福祉サービスの施設を増やすこと
- できることなら全て必要

- 金銭的負担があまりかからないようにする（収入に合わせて）
- 援助金を増やすべきだと思う
- 公的な福祉に携わる人々は1年間介護施設にヘルパーとして勤務された人にすれば、現場の実態が理解できてよい方法が見つかるのでは
- 健康保険に関する以外の事項に行政が関わる必要はない。一般の企業体の方が処理能力は大きく強い
- 規則だけの判断で実情がみえない面があり、本当にサービスが必要な人に行き届いていない面がある

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が男性で 66.2%、女性で 67.2%と最も高くなっており、男女間では特に大きな差はみられませんでした。

【年齢別表】

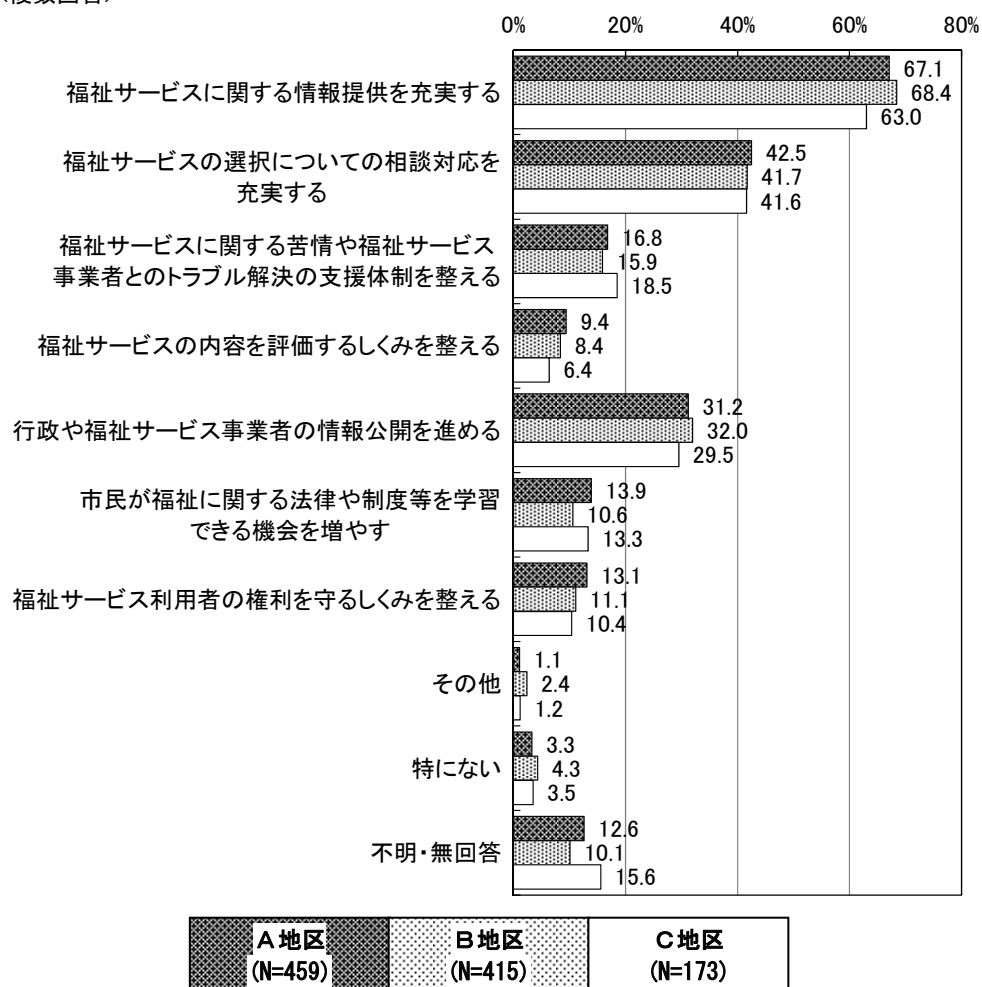
単位：％

＜複数回答＞	福祉サービスに関する情報提供を充実する	福祉サービスの選択についての相談対応を充実する	福祉サービスに関する苦情や福祉サービス事業者とのトラブル解決の支援体制を整える	福祉サービスの内容を評価するしくみを整える	行政や福祉サービス事業者の情報公開を進める	市民が福祉に関する法律や制度等を学習できる機会を増やす	福祉サービス利用者の権利を守るしくみを整える	その他	特になし	不明・無回答
20 歳代 (N=90)	68.9	43.3	10.0	8.9	28.9	12.2	13.3	1.1	3.3	10.0
30 歳代 (N=129)	72.9	44.2	16.3	10.1	27.1	16.3	14.0	2.3	4.7	5.4
40 歳代 (N=170)	71.8	44.7	17.6	11.8	32.9	10.0	8.2	1.2	2.4	10.6
50 歳代 (N=178)	70.2	36.5	20.2	10.1	33.1	14.0	8.4	1.7	4.5	10.7
60 歳代 (N=225)	62.7	44.4	19.6	7.1	33.3	12.0	15.1	2.2	1.3	16.4
70 歳以上 (N=264)	61.7	40.9	14.4	5.7	29.5	11.0	11.7	1.1	5.7	14.4

年齢別にみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」と回答した人の割合がどの年齢でも最も高く、20 歳代～50 歳代では約 7 割となっています。

【居住地区別グラフ】

＜複数回答＞



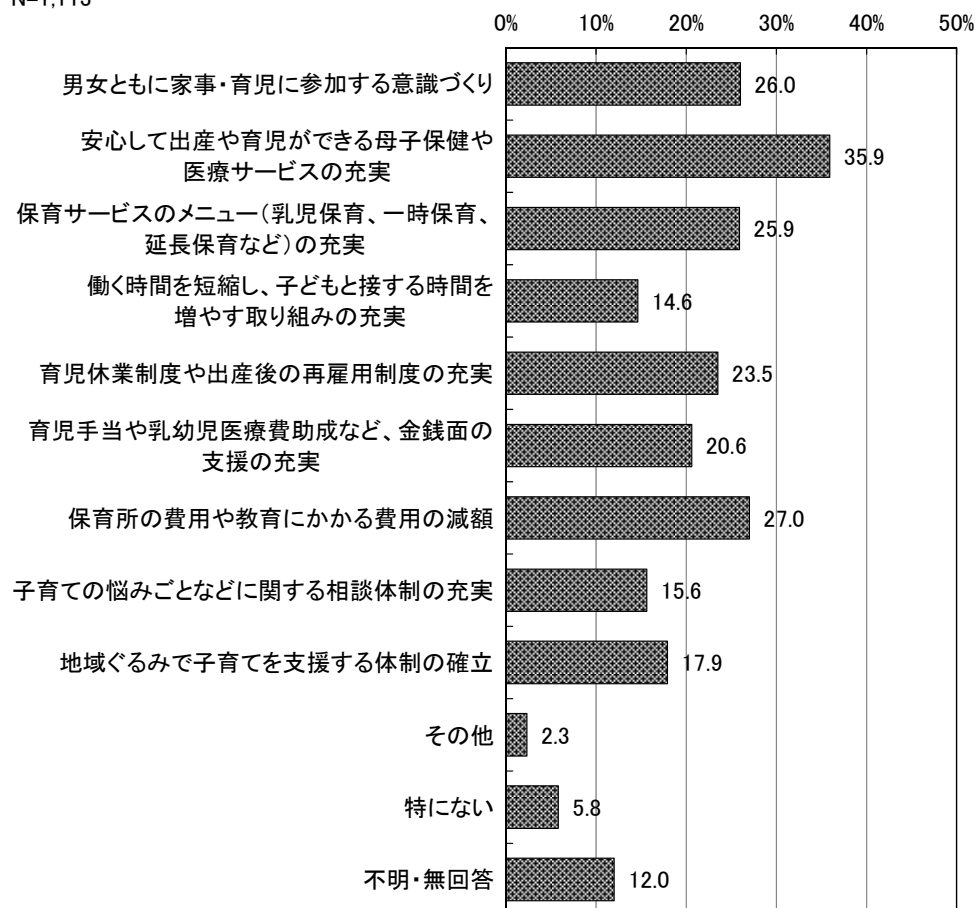
居住地区別にみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」の割合がどの居住地区でも最も高く、B地区で68.4%となっています。また、居住地区間では特に大きな差は見られませんでした。

7. これからの福祉のあり方について

問 29 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（○は3つまで）

<複数回答>

N=1,113



「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が35.9%と最も高く、次いで「保育所の費用や教育にかかる費用の減額」が27.0%、「男女ともに家事・育児に参加する意識づくり」が26.0%となっています。

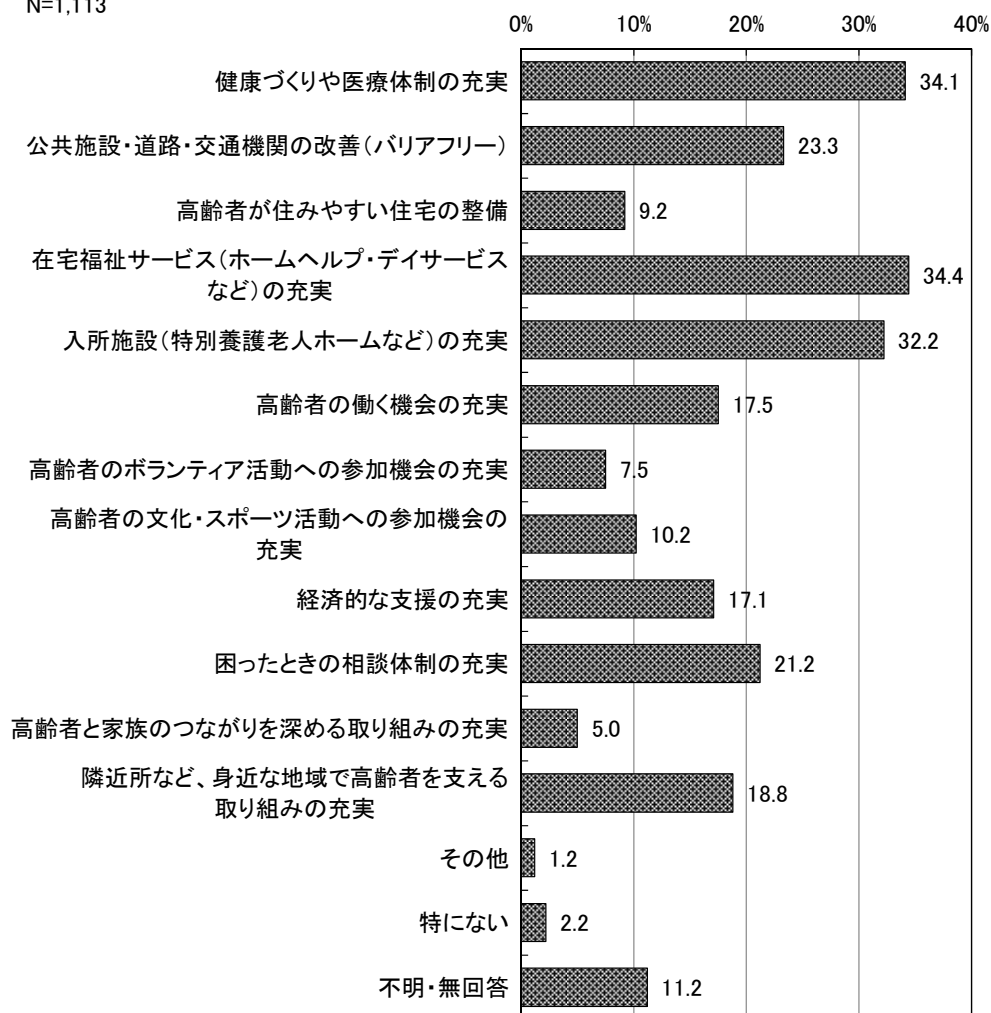
その他回答

- できることなら全て重要
- ほぼ全部
- 父親に対し子育て教育（泣いた時のあやし方や、優しい父親になるよう）
- 子ども（御原地区）に住宅を増やす
- 待機児童の削減
- 保育所への人員の配置を見直し、施設の維持管理などができる人、また職員をサポートできる体制を整える。保育士は大変だと思う
- 福祉関係の現場に携わる人たちへの金銭面の保証
- 保育所の充実（看護師の設置など）
- 何もかも行政に頼るのではなく、まずは自助・近助（近所）・地域内の相互扶助の精神・心構えを持たせる、芽生えさせることが重要と考える
- 行政に頼るだけでなく、自分たちで方法を考える
- 「働く時間を短縮し、子どもと接する時間を増やす取り組みの充実」で、子どもに限らず地域と接する時間を増やす
- 夫でも妻でもどちらかで生活できる体制をとることで、0～12 歳まで常にどちらかが見守ることができる社会や地域にする
- 核家族ではなく、2 世代 3 世代で生活するように行政がリーダーシップをとって行う

問 30 高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は3つまで）

〈複数回答〉

N=1,113



「在宅福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が 34.4%と最も高く、次いで「健康づくりや医療体制の充実」が 34.1%、「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が 32.2%となっています。

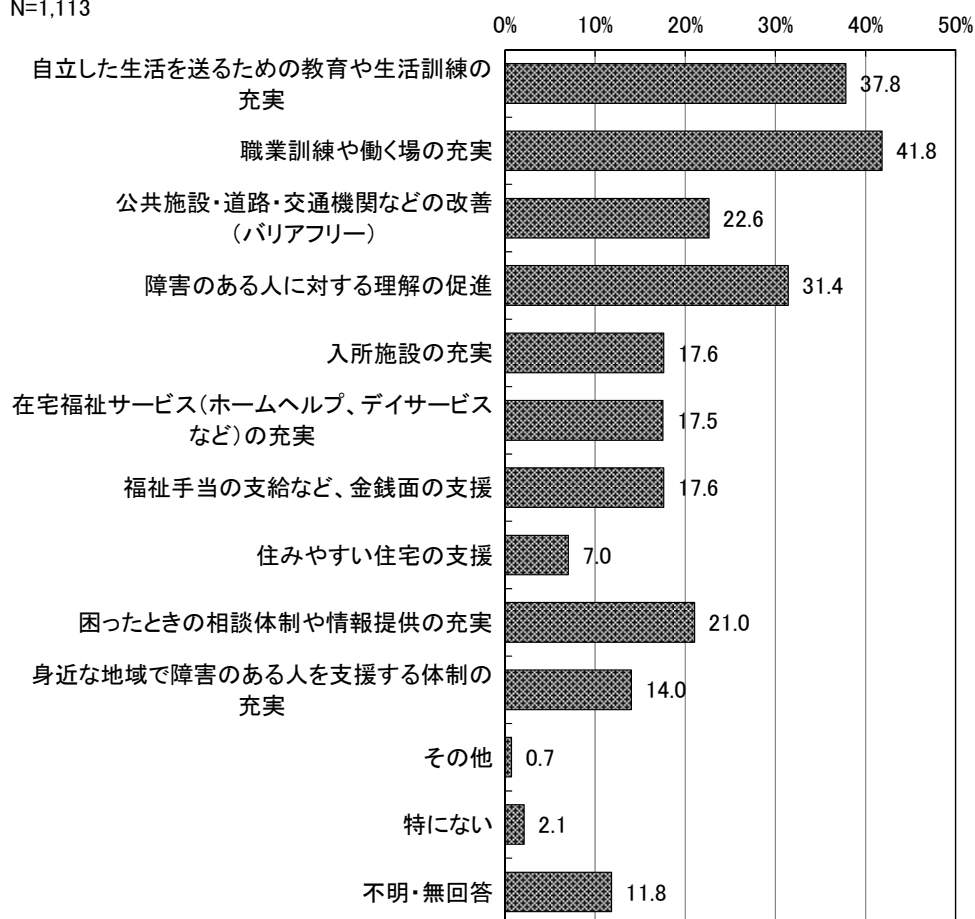
その他回答

- ・できることなら全て重要
- ・高齢者は通勤も買い物も足がない。したがって、他の土地へ移るしかない。バスなどの交通機関をきちんと整備すべきだ。市の提供するバスは利用者が少ないと思う。それはなぜかちゃんと調整すべきだと思う
- ・交通弱者の問題への対応（バスなど）
- ・車を運転できない人のために買い物と病院への運行サービス

- ・「公共施設・道路・交通機関の改善（バリアフリー）」の地域循環バスの充実、1時間1本ではなく、少なくとも30分に1本。朝7時から夜8時まで。
- ・公共施設の設置場所（特に市役所・体育館）の検討
- ・介護者などの人材育成と介護者が働きやすい職場づくり、待遇向上
- ・福祉で働く人たちの給料アップ。今のままでは職員になりたがる人が増えない
- ・要支援・要介護度が下がったことによって受けられるサービスの充実。上がる人しかサービスが受けられないため。例えば、高齢者自身の自立を支援する制度、やる気を出させる制度
- ・子どもが親と同居、またはそれに近い環境で支えていくこと

問 31 障害のある人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は3つまで）

<複数回答>
N=1,113



「職業訓練や働く場の充実」が41.8%と最も高く、次いで「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が37.8%、「障害のある人に対する理解の促進」が31.4%となっています。

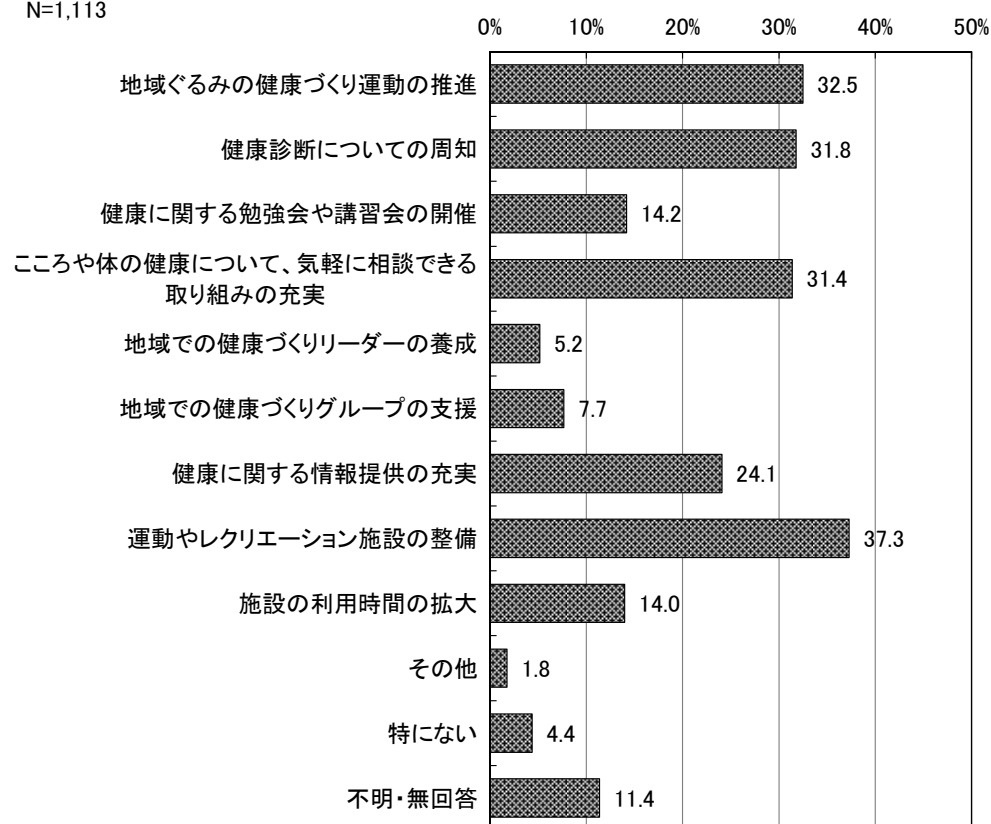
その他回答

- できることなら全て重要
- 個々の障害の度合や金銭面でそれぞれ違った対応が望まれると思う。柔軟な対応ができるようになればと思う
- 映画館や公園の手すり、バスハイクなどに介護士の方がついてきての1日レクリエーション（参加費は個人負担）

問 32 地域で健康づくりを進めていくために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は3つまで）

<複数回答>

N=1,113



「運動やレクリエーション施設の整備」が37.3%と最も高く、次いで「地域ぐるみの健康づくり運動の推進」が32.5%、「健康診断についての周知」が31.8%となっています。

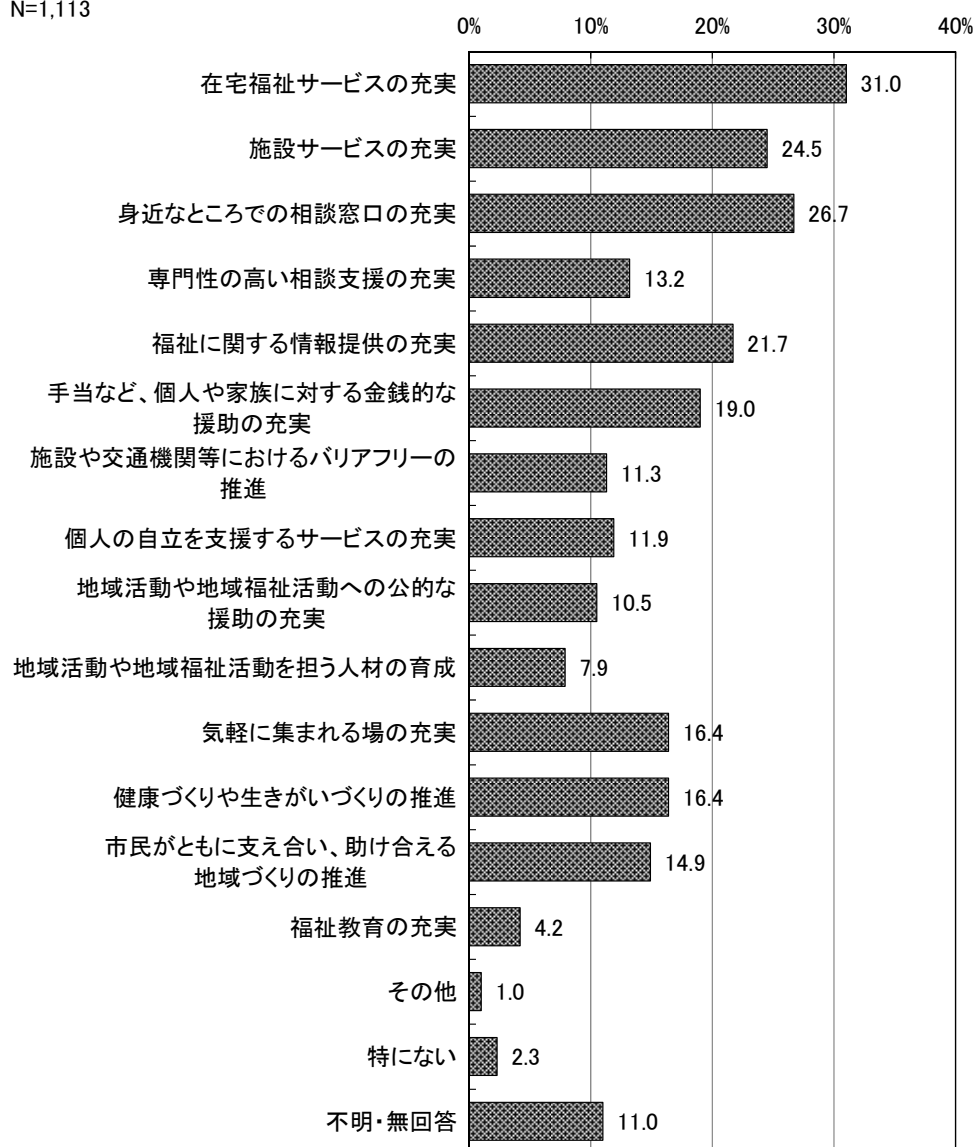
その他回答

- できることなら全て重要
- 健康は自分自身でと思う
- 健康診断の基本健診を実施してほしい。千円くらいならお金を出して市で受診します。専業主・婦なので受ける機会がなかなかない

- スポーツジムがアメリカに比べ高すぎる。月々三千円で毎日通えるようにした方がいい
- とにかく運動やレクリエーションの施設が乏しい。他市の施設へ行くことになり市民としてはとても不便。若い世代からの健康維持が老後の健康へとつながるので、若い世代にも興味をもてるような施設・内容などを作ってほしい
- コミュニティバスの本数や時間を増やしてほしい。施設ばかり作っても交通手段がないのでそこまで行けない
- 近くに施設がない。遠い
- 市民プールを作ってほしい
- 市民プールの整備
- 幼稚園、小学生、中学生に実践的な体操を教える。たなばた体操みたいなものを作り、運動会で取り入れたりするのはよいと思う
- 半強制的に参加させるスポーツ大会

問 33 市民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。（〇は3つまで）

＜複数回答＞
N=1,113



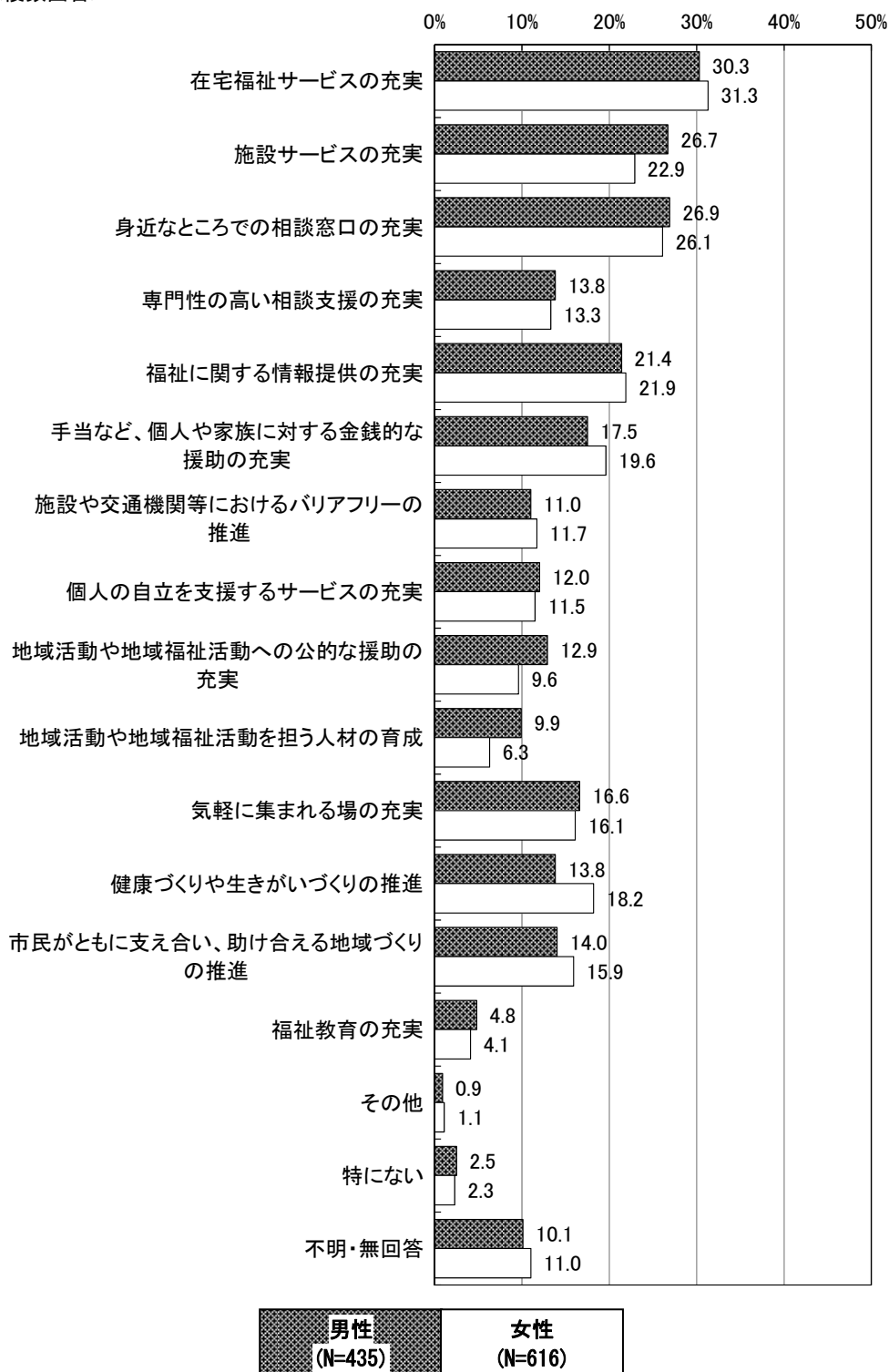
「在宅福祉サービスの充実」が31.0%と最も高く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」が26.7%、「施設サービスの充実」が24.5%となっています。

その他回答

- ・できることなら全て重要
- ・介護士などの介護にかかわる人の賃金アップ。低額でなり手が少ない。よい待遇で介護士を増員するシステムを作る
- ・市役所など日曜日も開けてほしい。働いていたら、平日は難しい
- ・介護タクシーがない、病院に車いすなどがいないところが多い
- ・人と人とのつながりの教育が必要

【性別グラフ】

＜複数回答＞



性別にみると、男女ともに「在宅福祉サービスの充実」が最も高く、女性が31.3%、男性が30.3%と、女性の方がわずかに高くなっています。また、女性では「健康づくり生きがいづくりの推進」の割合が18.2%と、男性の13.8%と比較して高くなっています。

【年齢別表】

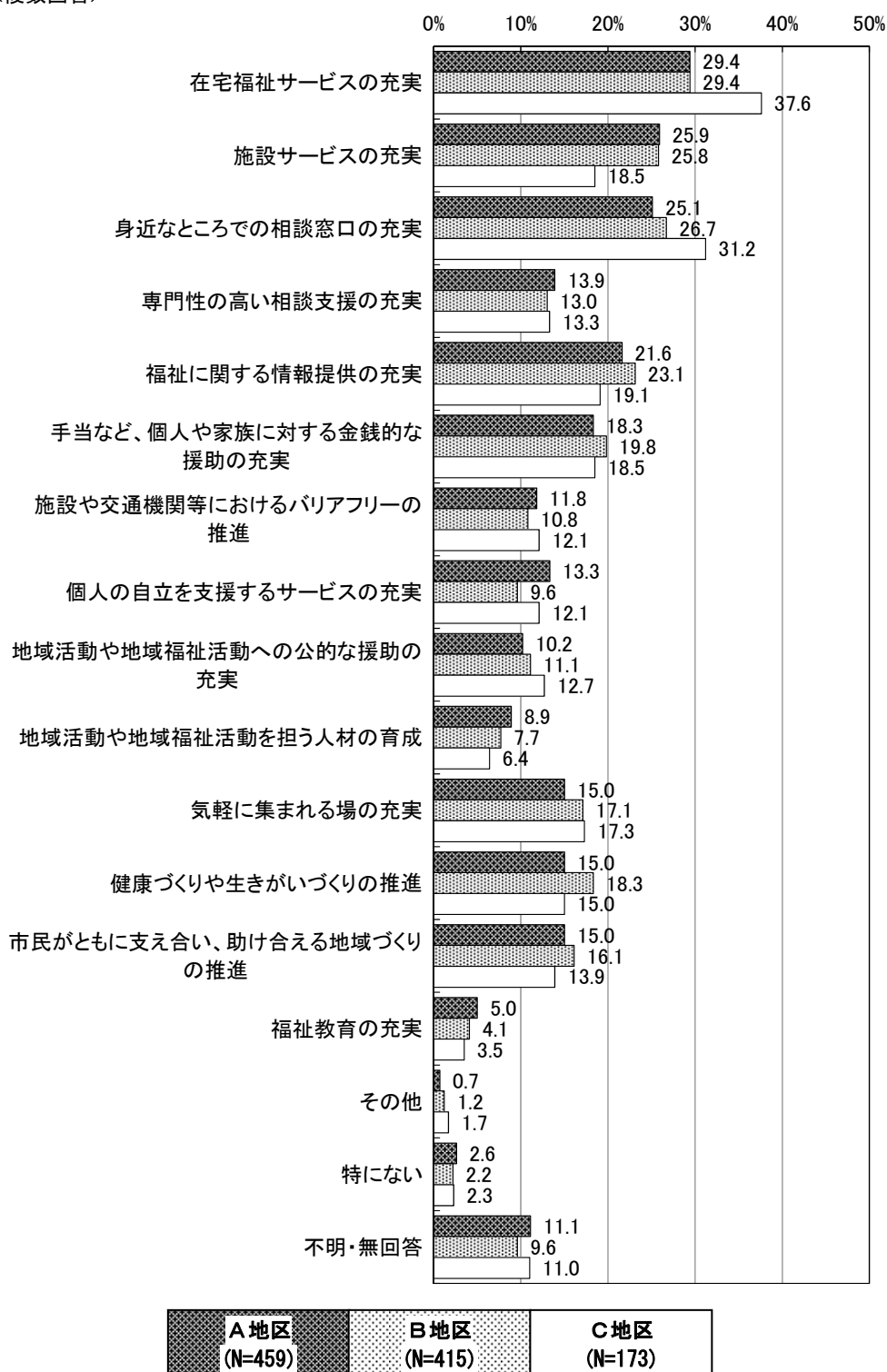
単位：％

＜複数回答＞	在宅福祉サービスの充実	施設サービスの充実	身近なところでの相談窓口の充実	専門性の高い相談支援の充実	福祉に関する情報提供の充実	手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実	施設や交通機関等におけるバリアフリーの推進	個人の自立を支援するサービスの充実	地域活動や地域福祉活動への公的な援助の充実
20 歳代 (N=90)	22.2	24.4	22.2	12.2	15.6	30.0	10.0	11.1	7.8
30 歳代 (N=129)	20.2	25.6	28.7	16.3	22.5	29.5	15.5	8.5	10.1
40 歳代 (N=170)	22.4	29.4	30.6	19.4	23.5	27.6	17.1	10.0	11.2
50 歳代 (N=178)	33.1	31.5	29.2	7.3	27.0	18.0	10.7	14.6	12.9
60 歳代 (N=225)	33.8	22.7	27.1	10.2	23.1	13.3	8.4	11.6	13.3
70 歳以上 (N=264)	40.9	17.8	22.0	15.5	17.8	9.5	9.5	12.5	8.7
＜複数回答＞	担う人材の育成 地域活動や地域福祉活動を	気軽に集まれる場の充実	健康づくりや生きがいづくりの推進	市民がともに支え合い、助け合える地域づくりの推進	福祉教育の充実	その他	特にない	不明・無回答	
20 歳代 (N=90)	5.6	21.1	20.0	16.7	7.8	1.1	3.3	8.9	
30 歳代 (N=129)	7.8	17.8	10.9	14.7	10.1	0.8	3.1	5.4	
40 歳代 (N=170)	7.1	10.6	10.0	17.6	2.9	0.6	1.8	9.4	
50 歳代 (N=178)	6.7	16.3	21.3	10.1	3.9	0.6	2.8	8.4	
60 歳代 (N=225)	8.9	21.3	16.9	16.9	4.0	1.3	0.4	12.0	
70 歳以上 (N=264)	9.5	12.9	18.2	15.2	1.9	1.5	3.4	14.8	

年齢別にみると、50 歳代～70 歳以上では「在宅福祉サービスの充実」と回答した人の割合が最も高く、20 歳代、30 歳代では「手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実」と回答した人の割合が高くなっています。

【居住地区別グラフ】

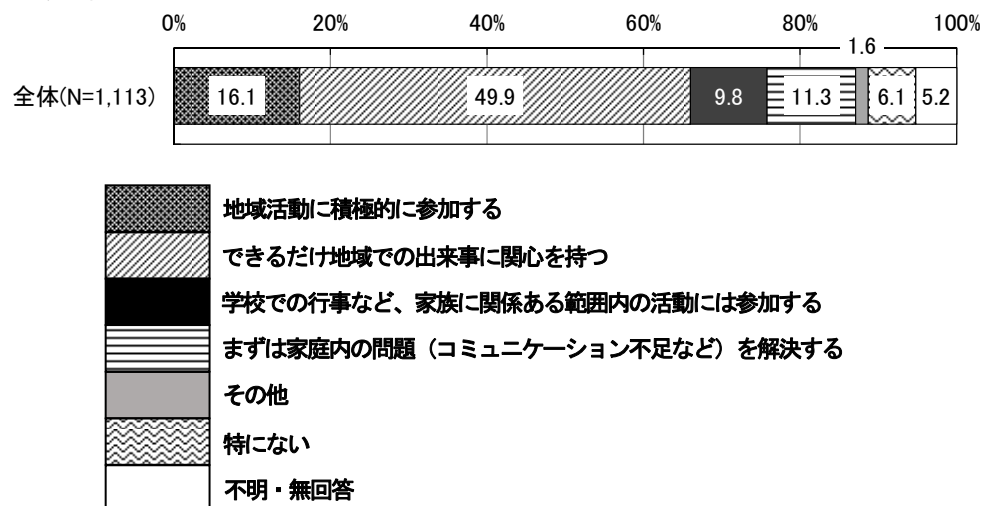
＜複数回答＞



居住地区別にみると、どの居住地区でも「在宅福祉サービスの充実」と回答した人が最も高く、C地区では37.6%と他の居住地区と比較して高くなっています。

問 34 私たち一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくために、市民のひとりとしてあなたができることはどんなことがあるとお考えですか。
(ひとつだけ○)

〈単数回答〉



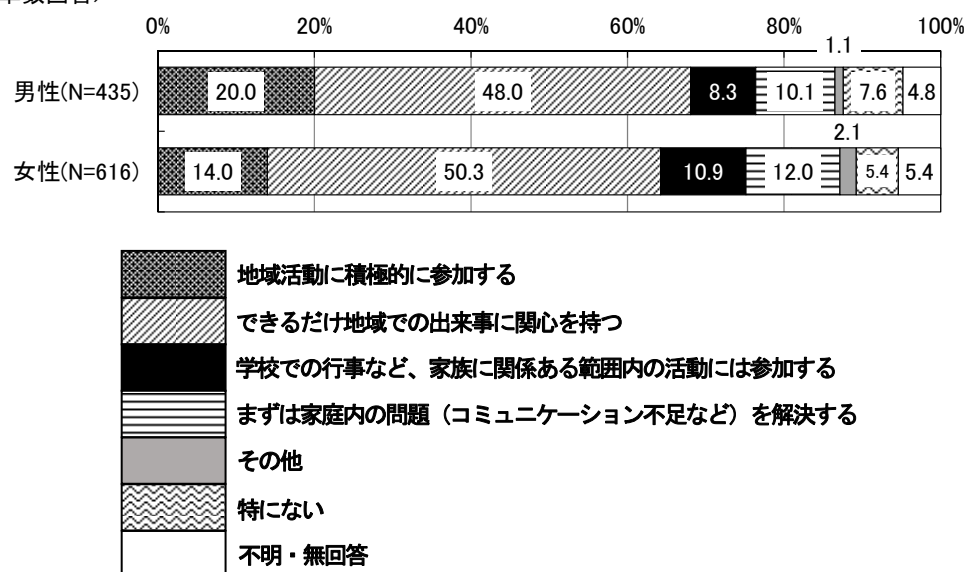
「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が49.9%と最も高く、次いで「地域活動に積極的に参加する」が16.1%、「まずは家庭内の問題（コミュニケーション不足など）を解決する」が11.3%となっています。

その他回答

- ・できることなら全てやりたい
- ・60代なので健康に気を配り、なるべく自立して地域の人たちとコミュニケーションをとりながら過ごしていきたい
- ・日々の隣組のお付合いが急務
- ・新参者に親切に。うちの地域は新参者に優しくないなので、自分は親切でありたいと思う
- ・自分一人でも公園の草取り、子どもたちへの声かけなどしている
- ・現在は仕送りと奨学金の返済で自分自身の年金のことも考えると仕事は辞められない。せめて税金を納めることだけしかできない
- ・仕事を通して市民の健康に寄与したいと思う
- ・福祉に関わる職業について積極的に貢献する
- ・自分のことは自分で
- ・常に社会に迷惑、援助を受けなくて済むように努力する

【性別グラフ】

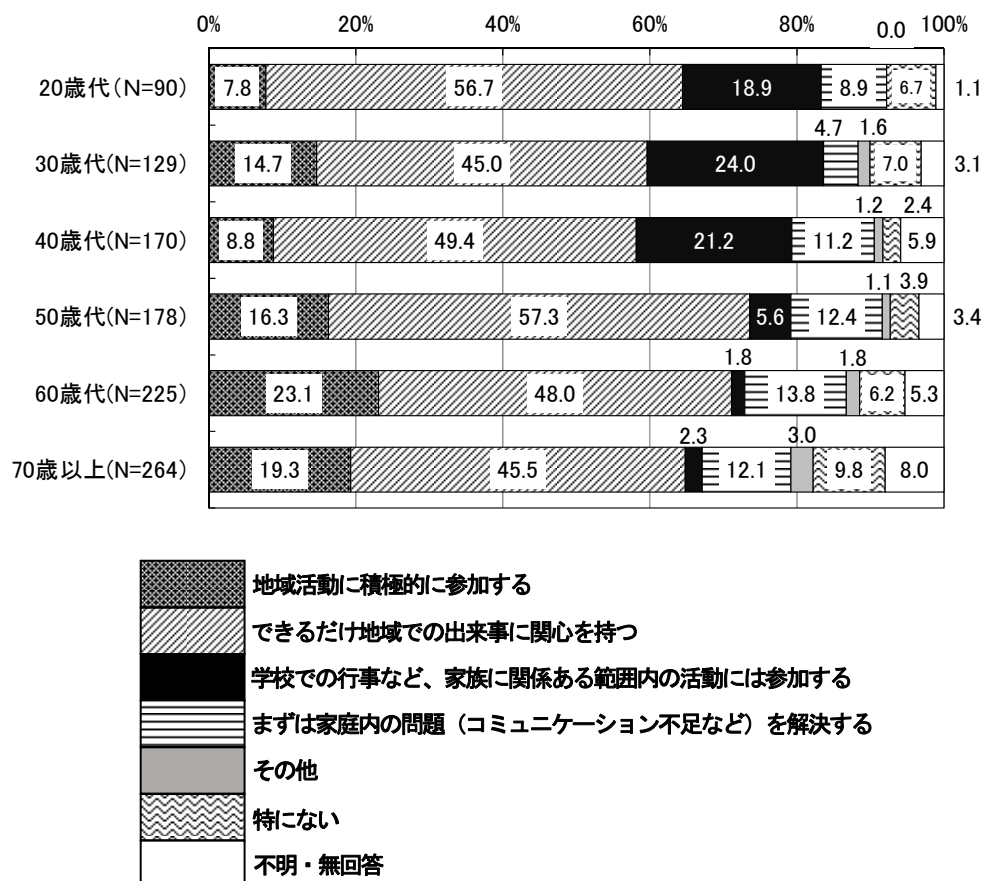
<単数回答>



性別にみると、男女ともに「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」の割合が最も高く、「地域活動に積極的に参加する」では男性 20.0%、女性 14.0%と男性の方が女性より地域の活動に参加する意志が多くなっています。

【年齢別グラフ】

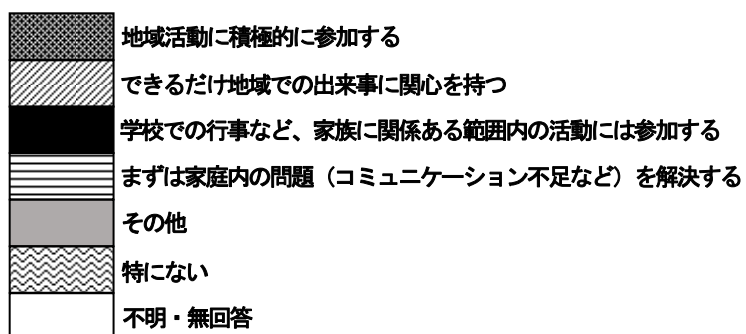
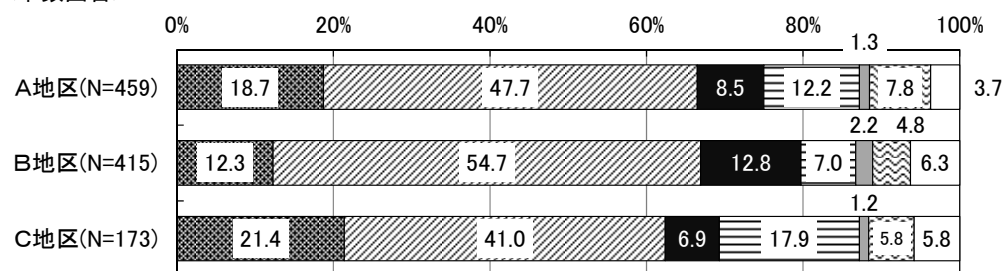
＜単数回答＞



年齢別にみると、どの年齢も「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」の割合が高く、20歳代が56.7%、50歳代が57.3%と他の年齢と比較してやや高くなっています。「地域活動に積極的に参加する」では60歳代が23.1%、70歳以上が19.3%と年齢が高い人ほど割合が高くなる傾向がみられます。

【居住地区別グラフ】

＜単数回答＞



居住地区別にみると、どの居住地区でも「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」と回答した人が最も高く、B地区では54.7%と他の居住地区と比較して高くなっています。

IV 調査票

おごおりし ちいきふくし かん し みる い しきちょう さ 小郡市の地域福祉に関する市民意識調査

市民の皆さまにおかれましては、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

このたび、小郡市では、「地域での支え合い、助け合いによる福祉（地域福祉）」の推進を目的とした「小郡市地域福祉計画」を策定することになりました。この計画は、さまざまな人たちが協力して提供する福祉サービスの充実や、みんなが進んで参加できる地域福祉活動について示していくものです。

つきましては、市民の皆さまの「地域福祉」に関するご意見をお聴きし、計画づくりに反映していきたいと考えております。なお、この調査は、市内にお住みの20歳以上の無作為に選んだ2,000名を対象に実施しております。

お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、皆さまのご意見をお聴かせくださいますようお願い申し上げます。

平成25年10月

おごおりしちょう ひらやす まさと
小郡市長 平安 正知

ご記入にあたってのお願い

- あて名のご本人がお答えください。
- ご本人が記入できない場合は、ご家族等がご本人の考えや思いを代理でご記入ください。
- 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」の回答については、（ ）内に内容を記入してください。
- 氏名や住所は記入しないでください。
- この調査の結果は、すべて統計的に処理され、個別の内容が公表されることはありませんので、思いのままをお答えいただきますようお願い申し上げます。
- ご記入いただいた調査票は、11月7日（木）までに、同封の返信用封筒に入れて投函してください。その際、切手を貼ったり、差出人の名前を書く必要はありません。

【調査に関するお問い合わせ先】

おごおりしやくしょ ふくし か ちいきふくしかかり でんわ だいひょう
小郡市役所 福祉課地域福祉係（電話：0942 - 72 - 2111（代表）／FAX：0942 - 73 - 2555）

※「地域福祉」とは・・・

少子高齢化や家族形態の変化にともない、一人ひとりが抱える生活課題も多様化しています。これらに対応するには、個人の努力や行政による福祉サービスだけでは十分でなく、地域でともに暮らす私たち自身が、身近にあるさまざまな福祉ニーズに目をむけ、地域全体で課題の解決に取り組むことが求められています。

私たち一人ひとりが、地域社会の一員であることを認識し、地域とのつながりを大切にしながらお互いができることを持ち寄ること、それが「地域福祉」の考え方です。

1. あなたご自身についておたずねします。

○ あなたの性別は？（ひとつだけ○）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

○ あなたの年齢は、何歳ですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳代 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | 6. 70歳以上 |

○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 おおもり小郡小学校区 | 4 みくに三国小学校区 | 7 みはら御原小学校区 |
| 2 おおはら大原小学校区 | 5 のぞみが丘小学校区 | 8 あじさか味坂小学校区 |
| 3 あすまの東野小学校区 | 6 たていし立石小学校区 | |

○ あなたの主な職業は何ですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|---------------|--------|-------------|
| 1 会社員、団体職員 | 4 農業等 | 7 パート・アルバイト |
| 2 公務員 | 5 学生 | 8 無職 |
| 3 自営業（農業等を除く） | 6 家事専業 | 9 その他（ ） |

○ あなたの家族構成はどのようになっていますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 ひとり暮らし（単身） | 4 三世帯世帯（親と子と孫） |
| 2 夫婦のみ | 5 その他（ ） |
| 3 二世帯世帯（親と子） | |

○ あなたが現在一緒に住んでいるご家族のなかに、つぎのような人（あなた自身も含みます）はいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|--------|--------------|------------|
| 1. 乳幼児 | 4. 高校生 | 7. 障害のある人 |
| 2. 小学生 | 5. 65歳以上の人 | 8. いずれもいない |
| 3. 中学生 | 6. 介護を必要とする人 | |

○ あなたは^{おごおりし}小郡市^すに住んで^{なんねん}何年になりますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 1 ^{ねんみまん} 年未満 | 4. 10年以上 20 年未満 |
| 2. 1 年 ^{いじょう} 以上5 年未満 | 5. 20 年以上 30 年未満 |
| 3. 5 年以上 10 年未満 | 6. 30 年以上 |

2. 「^{ふくし}福祉」についておたずねします。

問1 あなたは「^{ふくし}福祉」に^{かんしん}関心をお持ちですか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| 1 とても関心がある | 3 あまり関心がない | └ 問2へ進む |
| 2 やや関心がある | 4 まったく関心がない | |

↓
問1-1へ進む

問1-1 「^{ふくし}福祉」のどのような^{ぶんや}分野に^{かんしん}関心がありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 ^こ子どもに関する福祉
- 2 ^{こうれいしゃ}高齢者に関する福祉
- 3 ^{しょうがい}障害のある人に関する福祉
- 4 1～3以外の^{いがい}支援を^{しえん}要する人^{よう}に対する福祉^{たい}
- 5 その他（ ）

問2 「^{ふくし}福祉」の^{かた}あり方は、どのような^{おも}であるべきだと思いますか。（ひとつだけ○）

- 1 福祉を必要とする人は、^{ひつよう}家族や^{ひと}親戚が^{かぞく}面倒^{しんせき}を^{めんどう}みればよい
- 2 福祉は、^{くに}国や^{しちょうそん}市町村といった^{ぎょうせい}行政の^{せきにん}責任で行うべき
- 3 福祉は、^{しみん}行政と^{きょうりよく}市民が^{ちいき}協力しながら、^{ささ}地域で^あ支え合うべき
- 4 その他（ ）

問3 あなたは、^{しみん}市民が^{ふくし}福祉について^{りかい}理解を^{ふか}深めるためには、どのような^{きかい}機会が必要だ^{ひつよう}だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 福祉の^{せいど}制度、^{りねん}サービス、^{かんが}理念や^{かた}考え方などについて^{まな}学ぶこと
- 2 ^{かいごたいけん}介護体験や^{ひつよう}介護を必要とする人の^{ひと}疑似体験など、^{ぎじ}体験^{がくしゅう}学習をすること
- 3 ^{かぞく}介護を必要とする人やその^{はなし}家族などの^き話を^{こうりゅう}聞いたり、^{こうりゅう}交流したりすること
- 4 ^{しゅわ}手話や^{てんじ}点字、^{ほうほう}介護方法などの^{ぎじゆつ}技術を^{しゅうとく}習得すること
- 5 ^{ちいき}市民が^{かだい}地域の福祉についての^{きがる}課題を^{はな}気軽に^あ話し合える^ば場をつくること
- 6 その他（ ）
- 7 ^{とく}特に必要なことはない

3. ^{しゃかいふくしきようぎかい}社会福祉協議会や^{みんせいいいん}民生委員・^{じどう}児童委員についておたずねします。

問4 あなたは、^{おごりし}小郡市^{しゃかいふくしきょうぎかい}の社会福祉協議会^しを知っていますか。（ひとつだけ○）

3 知らない — 問5へ進む

問4-1へ進む

問 4-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 認知症の人などの金銭管理や福祉サービスの利用援助（日常生活自立支援事業）
- 2 孤立しがちな高齢者などへの見守り訪問や声かけ等（ふれあいネットワーク活動）
- 3 心配ごとの相談
- 4 低所得者などへの生活資金等の貸付（生活福祉資金等の貸付事業）
- 5 福祉バスの運行
- 6 障害のある人たちの生産活動等や社会参加の場である「じょいわーく」の運営
- 7 介護などが必要な人たちが在宅生活を続けていくための支援（在宅福祉支援事業）
- 8 ボランティア活動の相談や支援などを行うボランティア情報センターの運営
- 9 赤い羽根 共同募金運動
- 10 その他（ ）

問5 あなたは、民生委員・児童委員の制度を知っていますか。（ひとつだけ○）

3 知らない — 問6へ進む

問5-1へ進む

問5-1 あなたが知っている地域福祉に関する民生委員・児童委員の活動はどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 日常生活にちじょうせいかつについての悩みなやや心配しんぱいごとの相談そうだん
- 2 行政ぎょうせいなどの福祉サービスかんに関する情報提供じょうほうていきょう
- 3 高齢者等こうれいしゃとうで支援しえんが必要な人ひつようへの声かけひとや訪問こえ
- 4 子どもこに関する相談
- 5 その他た（
- 6 特とくにない

問 6 あなたは、お住まいの地区を担当する民生委員・児童委員を知っていますか。
(ひとつだけ○)

3 知らない

4. 地域での生活についておたずねします。

問7 あなたは、これから現在住んでいるところに住み続けたいと思いますか。
(ひとつだけ○)

1 住み続けたい

2 住み続けたくない

3 どちらともいえない

↓
問7-1へ進む

↓
問7-2へ進む

↓
問8へ進む

問7-1 どのような点で住み続けたいと思いますか。(○は3つまで)

- 1 自分の土地や家があるから
- 2 近くに家族、親族がいるから
- 3 近くに友人、知人があるから
- 4 近所づきあいが良いから
- 5 買い物や交通の便が良いから
- 6 働く場(職場)があるから
- 7 子育てや教育環境が整っているから
- 8 福祉・医療などのサービスが整っているから
- 9 気候・風土・自然環境が気に入っているから
- 10 文化・スポーツなどの環境が整っているから
- 11 その他()

問7-2 どのような点で住み続けたくないと思いますか。(○は3つまで)

- 1 地域の慣習・文化になじめないから
- 2 近所づきあいが良くないから
- 3 買い物や交通の便が悪いから
- 4 働く場所がないから
- 5 子育てや教育環境が整っていないから
- 6 福祉・医療などのサービスが整っていないから
- 7 気候・風土・自然環境が気に入らないから
- 8 文化・スポーツなどの環境が整っていないから
- 9 楽しめる場所がないから
- 10 その他()

問8 あなたは、ふだん近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。(ひとつだけ○)

- 1 困っているとき(病気、悩み、事故など)に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくおつきあいしているお宅がある

- 2 たまに立ち話を程度 _____ 問9へ進む

- 3 会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない

- 4 つきあいがほとんどない

↓
問8-1へ進む

問8-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 1 あまり知らないから | 6 時間をさくのが惜しいから |
| 2 かわる機会や時間がないから | 7 人とのつきあいが苦手だから |
| 3 家族にまかせているから | 8 つきあいをしたいがどうしたらよいかわからない |
| 4 特に必要を感じないから | 9 その他 |
| 5 わずらわしいから | () |

問9 毎日の暮らしのなかでの困りごとはどのようなことですか。（〇は3つまで）

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 買い物や通院などの外出が不便 | 7 ごみ出しが困難 |
| 2 力仕事（家具の移動など）ができない | 8 近所づきあいがうまくいかない |
| 3 家事労働（炊事、洗濯など）がきつい | 9 運動する場所や機会の不足 |
| 4 庭・畑仕事（草取りなど）ができない | 10 生涯学習などの場所や機会の不足 |
| 5 機械類・電化製品の使い方や修理方法がわからない | 11 その他（ ） |
| 6 話し相手、遊び相手が少ない | 12 特にない |

問10 必要な支援を受けることができず、地域から孤立し、生活上の諸課題を抱えている人たちが、あなたが暮らす地域にいるかどうかを知っていますか。（ひとつだけ〇）

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| 1 よく知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|-----------|------------|--------|

問11 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人たちから助けの求めがあった時、あなたはどのように対応したいと思いますか。（ひとつだけ〇）

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 積極的に対応したい | _____ 問12 へ進む |
| 2 できるだけ対応したい | |
| 3 対応したいができれば避けたい | _____ |
| 4 かかわりたくないのでもしな | |
| 5 その他（ ） | |

問11-1 へ進む

問11-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（ひとつだけ〇）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 対応したいが忙しいから | 5 時間をさくのが惜しいから |
| 2 対応したいが家族が反対するから | 6 他人の問題で自分には関係ないから |
| 3 対応の方法がわからず不安だから | 7 興味がないから |
| 4 人とのつきあいが苦手だから | 8 その他（ ） |

問12 あなたやご家族に助けが必要になった時、どのような支援をしてほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 安否確認の声かけ | 8 急病になった時の看病 |
| 2 心配ごとなどの相談相手 | 9 介護を必要とする人の短時間の預かり |
| 3 子どもの短時間の預かり | 10 災害時の手助け |
| 4 買い物の手伝い | 11 日常的な話し相手 |
| 5 家事の手伝い | 12 その他 |
| 6 外出の手伝い | （ ） |
| 7 ごみ出しの手伝い | 13 特にない |

問13 地域での人と人とかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。（ひとつだけ○）

- 1 心から打ち解け合える関係を築きたい
- 2 隣近所の人とはつきあいを大切にしたい
- 3 地域を良くする活動をみんなで協力し合って行いたい
- 4 他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）
- 5 地域の人や隣近所の人とはかかわりを持ちたくない
- 6 興味がない
- 7 その他（ ）

問14 ひとり暮らしの高齢者など、災害発生時に気になる人が地域にいますか。（ひとつだけ○）

- | | | |
|------|-------|--------|
| 1 いる | 2 いない | 3 知らない |
|------|-------|--------|

問15 地震や台風などの災害発生時の備えとして、どのようなことが重要だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 自分や同居する家族の避難方法の確認
- 2 災害時の緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと
- 3 日ごろからの隣近所とのあいさつ、声かけやつきあい
- 4 災害対策の学習会の開催
- 5 地域での避難訓練の実施
- 6 危険箇所の把握
- 7 地域における支援団体の組織づくり
- 8 避難の際に手助けが必要な人の把握
- 9 避難の際に手助けが必要な人に対する情報伝達の体制づくり
- 10 避難の際に手助けが必要な人を支援する人たちの把握
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

問16 あなたがお住まいの地域の出来事として、高齢者に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|------------|------------|
| 1 聞いたことがある | 2 聞いたことがない |
|------------|------------|

問17 あなたがお住まいの地域の出来事として、子どもに対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。（ひとつだけ○）

1 聞いたことがある

2 聞いたことがない

問18 あなたがお住まいの地域の出来事として、障害のある人に対する家族等による虐待について耳にしたことがありますか。（ひとつだけ○）

1 聞いたことがある

2 聞いたことがない

問19 もしあなたの周囲で、虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初にどのような対応しますか。（ひとつだけ○）

1 近隣の人に連絡する

5 警察へ連絡する

2 自治会（行政）役員に連絡する

6 直接自分で様子を見るため訪問する

3 民生委員・児童委員に連絡する

7 かかわりたくないので何もしない

4 市役所へ連絡する

8 その他（ ）

問20 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援ができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1 安否確認の声かけ

8 急病になった時の看病

2 心配ごとなどの相談相手

9 介護を必要とする人の短時間の預かり

3 子どもの短時間の預かり

10 災害時の手助け

4 買い物の手伝い

11 日常的な話し相手

5 家事の手伝い

12 その他

6 外出の手伝い

（ ）

7 ごみ出しの手伝い

13 特にない

ちい いかつどう
5. 地域活動やボランティア活動についておたずねします。

とい げんざい じ ち かい ぎょうせい く こ かい ろうじん かつどう ちい いかつどう
問21 あなたは現在、自治会（行政区）や子ども会、老人クラブの活動など、地域活動をして
いますか。（ひとつだけ○）

- 1 現在活動している
2 過去に活動したことがあるが、現在は活動していない
3 活動したことがない

とい すす
問21-1 へ進む

とい かつどう
問21-1 どんな活動をしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- 1 校区の活動
2 自治会（行政区）の活動
3 子ども会・PTAの活動
4 老人クラブの活動
5 女性団体の活動
6 消防団の活動
7 その他（ ）

とい もくてき かつどう
問21-2 どのような目的で活動していますか。
（ひとつだけ○）

- 1 地域での支え合い
2 隣近所とのふれあいを求めて
3 自分自身の勉強や意識の向上
4 役回りなどで仕方なく
5 ただなんとなく
6 その他（ ）

とい げんざい かつどう りゆう なん
問21-3 現在活動していない理由は何です
か。（○は3つまで）

- 1 勤務などの都合で機会がない
2 引越して間もない
3 活動の方法がわからない
4 時間がない
5 興味がない
6 活動内容が大変だから
7 体調がすぐれない
8 知り合いがいない
9 いやな思いをしたくない
10 役が回ってこない
11 家の人気が気にする
12 自信がない
13 自治会（行政区）に入っていない
14 その他（ ）

とい ちい いかつ かつどう い が い こじんてき さんか
問22 あなたは、問21のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動に参加し
たことがありますか。（ひとつだけ○）

- 1 現在参加している
2 以前に参加したことがあるが、現在参加していない
3 まったく参加したことはないが、今後参加したい
4 まったく参加したことはなく、今後参加したいとは思わない
5 その他（ ）

とい すす
問22-1 へ進む

とい すす
問23 へ進む

問22-1 あなたは、どのようなボランティア活動に参加してきましたか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 ひとり暮らしなどの高齢者の援助
- 2 子育ての支援や子どもの世話
- 3 障害のある人（子ども）の援助
- 4 健康づくりや栄養・食生活に関する活動
- 5 スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動
- 6 地域づくりに関する活動
- 7 青少年の健全な育成に関する活動
- 8 災害ボランティア活動
- 9 その他（

）

問22-2 ボランティア活動に参加をして、よかった点はどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 新しい経験ができた | 7 社会の役に立てることに喜びを感じた |
| 2 人から感謝される幸せを感じた | 8 視野が広がり、物事の捉え方が変わった |
| 3 やりがいや生きがいを感じた | 9 今までの自分の経験や知識を活かした |
| 4 人との協調性が身についた | 10 人に対して思いやりが持てるようになった |
| 5 新しい知識や技術が身についた | 11 その他（ |
| 6 多くの人と知り合いになれた | 12 特にない |

）

問22-3 よりよい活動を進める上で改善が求められていること（求められていたこと）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 活動に関する情報収集や情報発信をする場、機会が少ない
- 2 活動の拠点となる場所が少ない
- 3 他の団体等との連携が難しい
- 4 参加者がなかなか集まらない
- 5 活動のリーダー役になる人がいない
- 6 トラブル等が発生したときの責任が重い
- 7 経済的負担が大きい
- 8 その他（

）

問23 あなたは、今後、次のような福祉に関わる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 高齢者福祉（声かけ・見守り活動、趣味活動等への協力、施設訪問 など）
- 2 障害福祉（手話や音読・点字訳、外出支援、施設訪問 など）
- 3 児童福祉・子育て支援（子育て相談や子育てサークル支援 など）
- 4 青少年健全育成（登下校時の子どもの見守り、子ども会等への協力 など）
- 5 健康づくり（公民館での健康運動教室等の運営協力 など）
- 6 防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）
- 7 その他（ ）

8 参加したくない

問24 へ進む

問23-1 へ進む

問23-1 参加したくないのはなぜですか。（○は3つまで）

- 1 福祉活動に関心がないから
- 2 時間的に余裕がないから
- 3 気恥ずかしいから
- 4 活動に関する情報がないから
- 5 一緒に参加する仲間がいないから
- 6 参加するきっかけがないから
- 7 家族等の理解・協力が得られないから
- 8 活動に活かせる知識・経験がないから
- 9 高齢や健康上の理由等で無理だから
- 10 その他（ ）

問24 今後、地域における支え合い、助け合い活動を活発化することが重要になってきます。そのためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○は3つまで）

- 1 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
- 2 地域でボランティアなどの活動拠点となる場所を整備する
- 3 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う
- 4 リーダーや福祉活動に携わる人を養成する
- 5 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る
- 6 困っている人と助けることのできる人をつなぐ人材を育成する
- 7 助け合いの場や組織の情報を得やすくする
- 8 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う
- 9 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
- 10 その他（ ）
- 11 特になし

6. 福祉サービスについておたずねします。

問25 あなたは、現在「福祉サービス」に関する情報を主にどこから（どのようにして）入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 小郡市役所の窓口 | 14 地域包括支援センター |
| 2 市社会福祉協議会の窓口 | 15 子育て支援センター・つどいの広場 |
| 3 民生委員・児童委員 | 16 地域活動支援センター・相談支援事業所 |
| 4 ケアマネジャーやホームヘルパー | 17 公民館 |
| 5 家族や親戚 | 18 病院や施設 |
| 6 近所の人 | 19 保育所（園）や幼稚園 |
| 7 友人・知人 | 20 小中学校 |
| 8 職場等の同僚 | 21 隣保館・集会所 |
| 9 自治会（行政区）の回覧板 | 22 シルバー人材センター |
| 10 広報おごおり | 23 情報を得る方法がわからない |
| 11 社会福祉協議会だより | 24 情報を得る必要がない |
| 12 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 25 その他（ ） |
| 13 インターネット | |

問26 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えたときや「福祉サービス」の利用が必要となったとき、どこ（誰）に相談しますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 市役所等の相談窓口 | 8 福祉活動をしている民間団体 |
| 2 市社会福祉協議会の相談窓口 | 9 家族や親戚 |
| 3 民生委員・児童委員 | 10 友人・知人 |
| 4 自治会（行政区）の役員 | 11 職場等の同僚 |
| 5 ケアマネジャー | 12 相談するところがない |
| 6 保育所（園）、幼稚園、小中学校 | 13 相談はしない |
| 7 病院や施設 | 14 その他（ ） |

問27 あなた自身やあなたのご家族は、これまでに、「福祉サービス」の利用に際して不都合を感じたり、不満に思ったりしたことがありますか。（ひとつだけ○）

1 ある

2 ない

問28 へ進む

問27-1 へ進む

問27-1 不都合を感じたり、不満に思ったりしたことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった
- 2 利用手続きがわずらわしかった
- 3 窓口の対応が悪かった
- 4 福祉サービスに関する情報が入手しづらかった
- 5 金銭的な負担が大きいので利用しづらかった
- 6 利用したい福祉サービスが利用できなかった
- 7 福祉サービス内容に満足できなかった
- 8 その他 ()

問28 福祉サービス利用者が、自分に最適な「福祉サービス」を選び、安心して利用するために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(○は3つまで)

- 1 福祉サービスに関する情報提供を充実する
- 2 福祉サービスの選択についての相談対応を充実する
- 3 福祉サービスに関する苦情や福祉サービス事業者とのトラブル解決の支援体制を整える
- 4 福祉サービスの内容を評価するしくみを整える
- 5 行政や福祉サービス事業者の情報公開を進める
- 6 市民が福祉に関する法律や制度等を学習できる機会を増やす
- 7 福祉サービス利用者の権利を守るしくみを整える
- 8 その他 ()
- 9 特にない

7. これからの福祉のあり方についておたずねします。

問29 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。(○は3つまで)

- 1 男女ともに家事・育児に参加する意識づくり
- 2 安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実
- 3 保育サービスのメニュー(乳児保育、一時保育、延長保育など)の充実
- 4 働く時間を短縮し、子どもと接する時間を増やす取り組みの充実
- 5 育児休業制度や出産後の再雇用制度の充実
- 6 育児手当や乳幼児医療費助成など、金銭面の支援の充実
- 7 保育所の費用や教育にかかる費用の減額
- 8 子育ての悩みごとなどに関する相談体制の充実
- 9 地域ぐるみで子育てを支援する体制の確立
- 10 その他 ()
- 11 特にない

問30 高齢者こうれいしゃの人たちが住みよいまちをつくるために、今後こんご、どのようなことが重要じゅうようだと考えかんがえますか。（○は3つまで）

- 1 健康けんこうづくりや医療いりょう体制たいせいの充実じゅうじつ
- 2 公共施設こうきょうしせつ・道路どうろ・交通機関こうつうきかんの改善かいぜん（バリアフリー）
- 3 高齢者こうれいしゃが住みやすい住宅じゅうたくの整備せいび
- 4 在宅福祉ざいたくふくしサービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実
- 5 入所施設にゅうしょ（特別養護老人ホームなど）の充実
- 6 高齢者こうれいしゃの働く機会はたら き かいの充実
- 7 高齢者こうれいしゃのボランティア活動かつどうへの参加機会さんかきかいの充実
- 8 高齢者こうれいしゃの文化・スポーツ活動への参加機会ぶんかの充実
- 9 経済的けいざいてきな支援しえんの充実
- 10 困ったときの相談体制こま そうだんの充実
- 11 高齢者こうれいしゃと家族かぞくのつながりを深める取り組みふか と くの充実
- 12 隣近所となりきんじょなど、身近な地域みぢか ちいきで高齢者こうれいしゃを支える取り組みささの充実
- 13 その他（）
- 14 特とくにない

問31 障害しょうがいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後こんご、どのようなことが重要じゅうようだと考えかんがえますか。（○は3つまで）

- 1 自立した生活を送るための教育きょういくや生活訓練せいかつくんれんの充実じゅうじつ
- 2 職業訓練しよくぎょうや働く場はたら ばの充実
- 3 公共施設こうきょうしせつ・道路どうろ・交通機関こうつうきかんなどの改善かいぜん（バリアフリー）
- 4 障害しょうがいのある人に対する理解たい り かいの促進そくしん
- 5 入所施設にゅうしょの充実
- 6 在宅福祉ざいたくふくしサービス（ホームヘルプ、デイサービスなど）の充実
- 7 福祉手当てあて しきゆうの支給など、金銭面きんせんめんの支援しえん
- 8 住みやすい住宅じゅうたくの支援
- 9 困ったときの相談体制こま そうだんたいせいや情報提供じょうほうていきょうの充実
- 10 身近な地域みぢか ちいきで障害しょうがいのある人を支援する体制の充実
- 11 その他（）
- 12 特とくにない

問32 地域で健康づくりを進めていくために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は3つまで）

- 1 地域ぐるみの健康づくり運動の推進
- 2 健康診断についての周知
- 3 健康に関する勉強会や講習会の開催
- 4 心身や体の健康について、気軽に相談できる取り組みの充実
- 5 地域での健康づくりリーダーの養成
- 6 地域での健康づくりグループの支援
- 7 健康に関する情報提供の充実
- 8 運動やレクリエーション施設の整備
- 9 施設の利用時間の拡大
- 10 その他（
- 11 特になし

問33 市民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。（〇は3つまで）

- 1 在宅福祉サービスの充実
- 2 施設サービスの充実
- 3 身近なところでの相談窓口の充実
- 4 専門性の高い相談支援の充実
- 5 福祉に関する情報提供の充実
- 6 手当など、個人や家族に対する金銭的な援助の充実
- 7 施設や交通機関等におけるバリアフリーの推進
- 8 個人の自立を支援するサービスの充実
- 9 地域活動や地域福祉活動への公的な援助の充実
- 10 地域活動や地域福祉活動を担う人材の育成
- 11 気軽に集まれる場の充実
- 12 健康づくりや生きがいづくりの推進
- 13 市民がともに支え合い、助け合える地域づくりの推進
- 14 福祉教育の充実
- 15 その他（
- 16 特になし

問34 ^{とい}私^{わたし}たち一人ひとりが^{あんしん}安心して^{ちいき}地域のなかで暮^くらしていくために、^{しみん}市民のひとりと^{かんが}してあなたが^{かんが}できることはどんなことがあるとお考えですか。（ひとつだけ○）

- 1 地域活動に積極的に参加する
- 2 できるだけ地域での出来事に関心を持つ
- 3 学校での行事など、家族に関係ある範囲内の活動には参加する
- 4 まずは家庭内の問題（コミュニケーション不足など）を解決する
- 5 その他（ ）
- 6 特にない

○ ^{だれ}誰もが^す住みやすい「地域づくり」を進めていくため、^{ちいき}小都市^{すす}に対する^{おごおりし}ご意見や^{たい}ご要望が^{いけん}ございましたら、^{ようぼう}ご自由にお書きください。

^{いじょう}以上でアンケートは終わりです。^おご協力^{きょうりょく}ありがとうございました。

^{おごおりし}小都市では、このアンケートに^{くわ}加え、^し市内在住^{しないうぢゅう}のどなたでも参加^{さんか}できる

「^{しみん}市民ワークショップ」（^{ちいきざだんかい}地域座談会）を企画^{きかく}しています。

「^{しみん}市民ワークショップ」は、^{らいねん}来年^{がつ}1月^{かいさい}ごろに開催^{よてい}を予定しています。

^{にってい}くわしい日程や^{かいさいばしょ}開催場所などが決定^{けってい}しましたら、

「^{こうほう}広報おごおり」などに掲載^{けいさい}し、^{しみん}市民の^{みな}皆さまにお知らせ^しいたします。

ぜひ、ご参加^{ふくし}いただき、^{かん}地域福祉に関する^{いけん}ご意見をお聞かせ^きください。

**小郡市
地域福祉に関する市民意識調査
結果報告書**

発行年月／平成 26 年 3 月

発 行／小郡市 福祉課 地域福祉係

〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255 番地 1

TEL : 0942-72-2111 (内線 445)

FAX : 0942-73-2555
